

平成 21 年度広域ブロック自立施策等推進調査

交流連携推進調査報告書

平成 22 年 3 月

国土交通省中国地方整備局

【本編】

目次

1. 業務概要 -----	1
1) 業務目的.....	1
2) 業務フロー.....	2
2. 地域コア構築のための課題抽出 -----	3
1) 中国圏広域地方計画（平成 21 年 8 月）における記載内容.....	3
2) 地域コア構築の意義・必要性・課題.....	5
3. 地域コアイメージの検討 -----	6
1) 中国圏における地域コアのイメージ.....	6
2) 地域コアイメージの具体化.....	7
(1) 中国圏における地域コアの具体的な内容 -----	7
(2) 地域コアを活用した地域活性化の具体例 -----	8
(3) 地域コアの即地的イメージ-----	9
4. 地域コアイメージの有効性検証のための試行的調査 -----	10
1) 試行的調査実施地域の概要.....	10
(1) 試行的調査実施地域の選定-----	10
(2) 試行的調査実施地域の現状・特性 -----	11
2) 試行的調査実施に向けた検討.....	17
(1) 尾道市瀬戸田地域-----	17
(2) 世羅地域-----	19
3) 試行的調査の概要.....	21
(1) 尾道市瀬戸田地域-----	21
(2) 世羅地域-----	26
4) 瀬戸田地域試行的調査の評価（アンケート調査結果）.....	29
(1) 調査の概要-----	29
(2) 熟年者アンケート調査結果-----	30
(3) 外国人アンケート調査結果-----	48
(5) スタッフアンケート-----	57
(6) アンケート調査結果からみた留意事項 -----	65
5) 世羅地域試行的調査の評価（アンケート調査結果）.....	68
(1) 調査の概要-----	68
(2) 調査結果の概要-----	69
(3) スタッフアンケート-----	90
(4) アンケート調査結果からみた留意事項 -----	91
6) 試行的調査を踏まえた展開.....	93
5. 試行的調査を基にした広域的地域活性化推進に関する検討 -----	94
1) 試行的調査から得られた知見.....	94
2) 地域コア活用による広域的地域活性化推進に関する検討.....	97
(1) 地域コアの形成・育成手法-----	97
(2) 横断的組織の形成・運営手法-----	98
(3) 地域コア活用による地域活性化の展開 -----	99
(4) 地域コア活用による広域自立エリア形成に向けた支援方策 --	100

1. 業務概要

1) 業務目的

中国圏は、中国圏広域地方計画に記してあるとおり、全国に先行して人口減少・高齢化が進展しており、中山間地域や島しょ部においては集落の衰退が懸念されるなどの危機にも直面している。

自立した中国圏を創造するためには、中山間地域や島しょ部などの中国圏の多様な地域の個性を活かし、個々の地域の活性化を図るだけでなく、多様な地域の連携により広域的な地域の活性化を図ることが必要である。とくに、中山間地域および島しょ部の維持・活性化にあたっては、個別の支援拠点（地域コア）の構築と地域拠点相互の広域連携、また地域を支える人材、組織（仕組み）の育成が急務である。

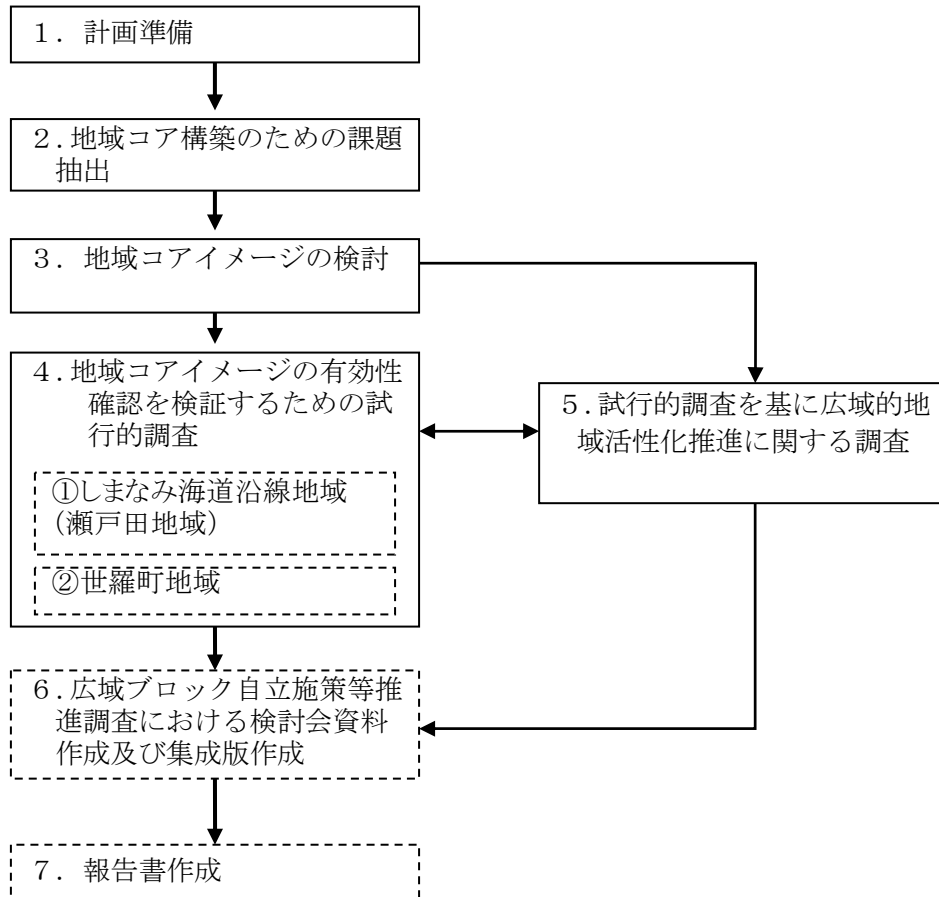
本調査では、しまなみ海道が開通し既に10年が経過するとともに、中国横断自動車道尾道松江線（新交通軸）の整備が予定されているしまなみ海道沿線地域及び尾道松江線沿線地域をモデル地域として、中山間地域および島しょ部における地域コアを活用した交流連携の方策について検討するものである。

モデル地域においては、地域全体のブランドやイメージを高めるとともに、単に観光客の通過型に終わらない、立ち寄り（場合によっては滞留型）の新交通軸沿線地域となっていくため、地域住民主導のもと、地域内のソフト、ハードの地域拠点づくり（地域コア）に向けたきっかけになっていくことや、地域拠点（地域コア）同士が広域的に連携していくことを期待するものであり、併せて、こうした取組を担っていただけの方のグループ（受け皿）づくりにつながっていくことを期待するものである。

2) 業務フロー

各業務内容間の関連を下図のように捉え、下記のフローに基づき業務を実施する。

業務フロー



2. 地域コア構築のための課題抽出

1) 中国圏広域地方計画（平成 21 年 8 月）における記載内容

中国圏広域地方計画では、「第 2 章 中国圏の将来像」の「第 1 節 地域の多様性を活かした交流・連携で、持続的に発展する中国圏」の中の「1. 多様な地域が連携した一体感のある中国圏の形成」において、以下のように、地域の相互連携の強化をもって自立した中国圏の形成を図る将来像が提示されている。

中国圏は、様々なつながりをもった多様性のある地域で構成されている。各地域の個性を活かしつつ、広域的に一体感があり、自立的な中国圏を創造するため、地域の個性や魅力の源泉となる歴史、文化、自然、景観等を再認識し、その継承・創造を図るとともに、分散する都市を活かし、それぞれが役割を發揮して相互に連携強化することで自立的な中国圏の形成を図る。（中国圏広域地方計画 p. 7）

また、同項の「(1) 歴史・文化の継承、創造」では、以下のように地域資源を活かした地域間交流による中国圏のアイデンティティと一体感の高揚に向けた言及がなされている。

日本海沿岸地域、中国山地地域、瀬戸内海地域や山陰・山陽間における歴史・文化のブランド化・ネットワーク化とそれらを活かした地域間交流の推進や積極的な情報発信により、中国圏としてのアイデンティティと一体感の高揚を図る。（中国圏広域地方計画 p. 8）

さらに、同項の「(3) 都市と中山間地域等の多様な交流の拡大」では、以下のように中国圏の特性を活かした都市と中山間地域の交流促進及び、拠点形成に向けた言及がなされている。

都市と豊かな自然を有する地域とが近接・共存している中国圏においては、多様なライフスタイルを提供できる地域のポテンシャルを活かし、都市と中山間地域等の多様な交流の拡大を図る。

（中略）

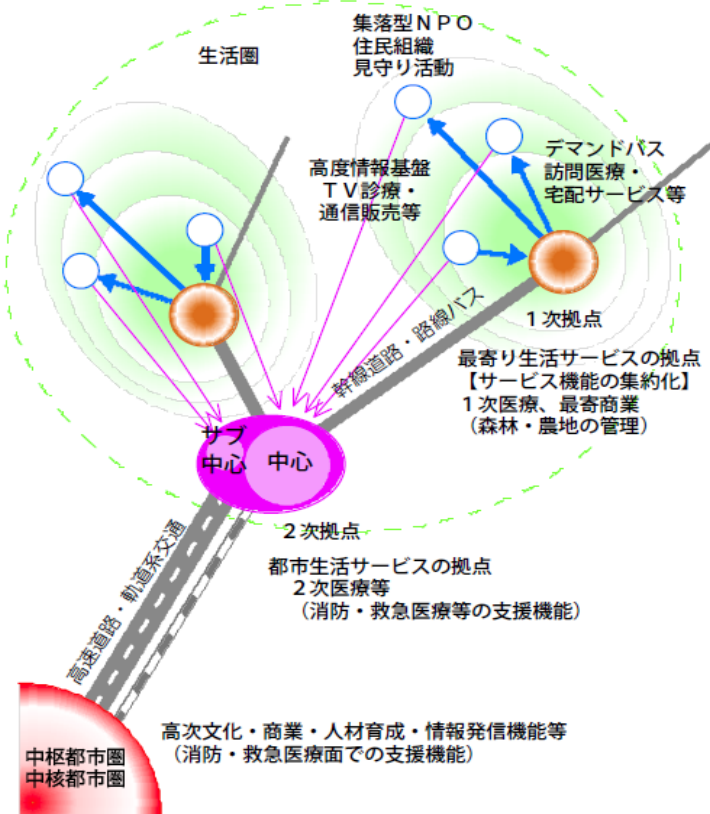
農山漁村への体験型・滞在型ツーリズム（グリーンツーリズム・スロツーリズム）、直売所や道の駅等を活用した都市農村交流拠点の形成等によって、中山間地域等の地域資源を活かした交流、産業の振興を図る。（中国圏広域地方計画 p. 8）

また、「第 1 節 地域の多様性を活かした交流・連携で、持続的に発展する中国圏」の中の「2. 隣接圏域を含めた交流・連携による活力・魅力の向上」においては、「(3) 広域的な連携による観光振興の促進」として、以下のように観光振興に向けた地域間連携促進および広域的なルート設定や交通基盤整備に向けた言及がなされている。

地域間連携を通じて観光地の魅力・誘客力を相乗的に高めるため、日本海沿岸地域、中国山地地域、瀬戸内海地域、さらには隣接圏域等との間で広域観光ルートの設定・強化を図る。これにあわせて、観光地間を結ぶ広域交通基盤及び空港・駅等から観光地までの二次交通基盤の整備・充実を進める。（中国圏広域地方計画 p. 11）

また、「第3章 将来像実現に向けたプロジェクト」の「7. 中山間地域・島しょ部における多面的機能の保全・活用と暮らし安心プロジェクト」においては、中山間地域等を支える一次生活拠点機能の充実について記載があり、右図のような生活圏のイメージが提示されており、中山間地域や島しょ部の生活を支えるために、最寄り生活サービスの拠点となる1次拠点、都市生活サービスの拠点となる2次拠点などの拠点と、それぞれをつなぐネットワークが必要との認識がある。

■生活圏のイメージ



以上を踏まえると、中国圏広域地方計画においては、中山間地域や島しょ部など、中国圏の多様な地域の個性を活かし、自立した中国圏を創造するために、ハード面の拠点やネットワークが必要であるとともに、地域資源の発掘やブランド化、アイデンティティの形成などソフト面の中心的テーマ形成及びネットワークが必要であるとの認識がある。

2) 地域コア構築の意義・必要性・課題

自立した中国圏の創造を考える上で、最終的な理想像を考えると、それは各地域（特に中山間地域・島嶼部）が元気になることであり、そのためには以下の3つの要素が必要であると考えられる。

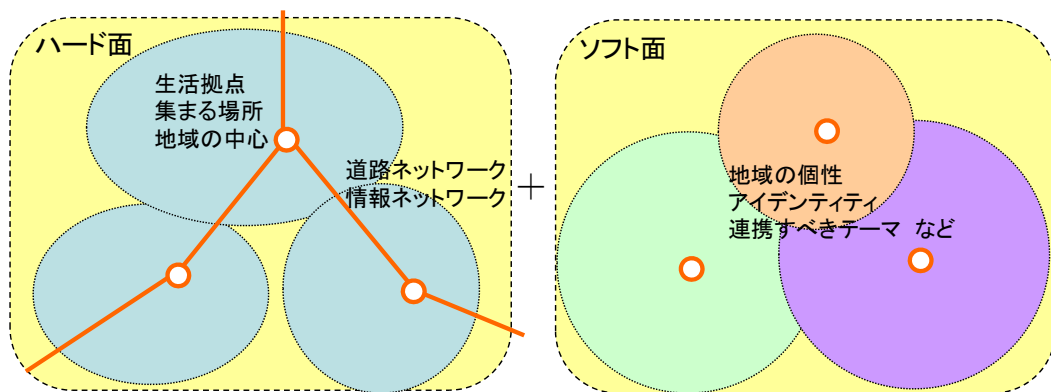
- 経済的な自立を目指すこと
 - ・・・観光、福祉、通勤、農業など、小さな経済、多様な経済で支えられる地域
- 誇りと愛着を持てること、自信を持つこと
 - ・・・地域にプライドを持つことができる地域
- 住民同士が信頼関係でつながること
 - ・・・マンネリにならず、絶えず連携、話し合いがある地域

また、1) で述べた中国圏広域地方計画で提示されているハード面及びソフト面の拠点とネットワークについて、その形成方法については検討する必要があるものの、自立した中国圏の創造を考える上での必要性は認識されている。

以上を踏まえると、生活拠点や道路などハード面と、地域のアイデンティティや連携するための共通テーマなどのソフト面の両面において、各地域の元気を創出する中心的な拠点やテーマが求められており、それらを「地域コア」と捉え、その構築を推進していくことが自立した中国圏の創造に資すると考えられる。

そのような「地域コア」構築に向けて、各地域で活用すべき「地域コア」の設定手法や、地域の連携強化のための「地域コア」設定手法など、どのように「地域コア」を作っていくかが課題と言える。

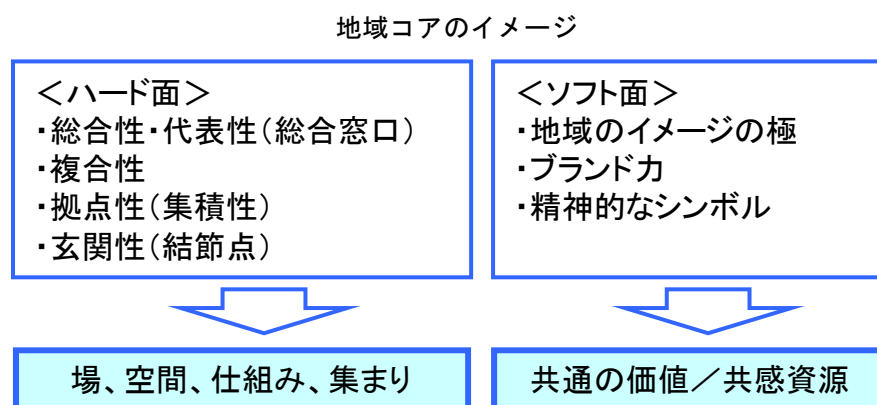
地域コアの考え方



3. 地域コアイメージの検討

1) 中国圏における地域コアのイメージ

前章を踏まえると地域コアに期待されるイメージとして、ハード面、ソフト面それぞれに下記のような項目が挙げられる。これらをまとめて表すと、ハード面では「場、空間、仕組み、集まり」、ソフト面では「共通の価値／共感資源」といえる。これらは、地域住民や交流人口等多様な主体によって形成されるものであり、地域住民だけのものでもなく、都市住民だけのものでもない。



2) 地域コアイメージの具体化

(1) 中国圏における地域コアの具体的な内容

ハード面での「地域コア」の設定にあたっては、広域的な波及効果が最も高くなるように、その戦略上の位置づけが重要である。例えば、ICに近接した場所、市街地内に残る空き施設・空間、交流・連携上の結節場所などを検討する必要がある。

ソフト面での「地域コア」は、地域のアイデンティティ形成につながるものが求められ、地域の人々が共感できる資源・テーマであることが重要である。関心のある人が横断的に集まることができるよう、地域内で様々な「地域コア」を設定する必要がある。

また、コアの特性として地域内をつなぐ際のコアと広域的につなぐ際のコアが考えられ、対象となるエリアに応じて検討していく必要がある。

中国圏における地域コアの具体的な内容

	<ハード面>	<ソフト面>
地域内(旧市町村単位程度)をつなぐコア	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公的資源 <ul style="list-style-type: none"> ・ 役場、公民館等公的施設 ■ 交通資源 <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通ターミナル (JR駅、IC、バスセンター等) ■ 生活資源 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地、商店街 ・ 空き施設(遊休施設) ・ ショッピングセンター ■ 観光・情報資源 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光地、道の駅 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歴史・文化資源 <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能(神楽など) ■ 産業・技術資源 <ul style="list-style-type: none"> ・ モノづくり産業 ・ 手工芸品 ・ 職人・匠 ・ その他福祉資源、教育資源など...
広域的(複数地域)につなぐコア	<ul style="list-style-type: none"> ■ 交通資源 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高速道路、国道、地域SNS など 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歴史・文化資源 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史街道(西国街道、銀山街道など) ■ 自然・環境資源 <ul style="list-style-type: none"> ・ 流域圏 ・ 海(瀬戸内海など) ・ 山(中国山地など)

(2) 地域コアを活用した地域活性化の具体例

中国圏の各地域においては、既に「地域コア」を活用した地域活性化を図る動きが見受けられる。以下に例示している夢街道ルネサンスはその一例であり、昔の「街道」を「地域コア」として各地域が取り組んでおり、広域的にも連携を図っている。また、ハード面での拠点の事例としては、岡山県新見市のきらめき広場・哲西が挙げられ、多様な機能を集約することにより地域内外の交流拠点となっている。

◇地域コア活用の具体例～夢街道ルネサンス

(出典) <http://www.cgr.mlit.go.jp/cgkansen/yumekaidou/index.html>

<概要>

地域が元気になるためには、地域が「誇り」を取り戻すことが重要であり、そのためには、中国地方に数多く存在する歴史・文化・自然を再発見し、活用することは、一つの重要な選択肢であると考えられます。歴史をふり返ると、昔の「街道」は、ただ単に物資の輸送路のためだけではなく、多くの人、物、情報が行き交うことによって、沿道の人々の歴史・文化を育んできました。

新しい時代に向けての「みちづくり」が問われている今、「みち」と「地域」と「ひと」が一体となって発展していくことが重要と考えられます。そこで、本プロジェクトは、歴史・文化・自然を再発見するとともに、それらを活かした地域づくり、みちづくりを地域が主体となって展開していけるよう支援していくものです。



ルネサンス
～中国路 歩いて・感じて・伝えたい～

◇地域コア活用の具体例～きらめき広場・哲西

(出典) <http://www.npo-kirameki.jp/chugoku.html>

<概要>

庁舎、診療所（内科、歯科、薬局）、図書館、保健福祉センター、文化ホールを一体化した総合施設として2001年10月に完成。総事業費は約21.7億円。自由度の確保のため国庫補助金は一切なく、町単独で施設整備を行った。旧哲西町の中心地、国道182号線沿いに位置し、敷地面積は約2万㎡。文化伝習館のある道の駅「鯉が窪」が隣接。その他、「きらめき広場・哲西」の整備と同時に、商工会議所、信用金庫が近隣に移転してきている。



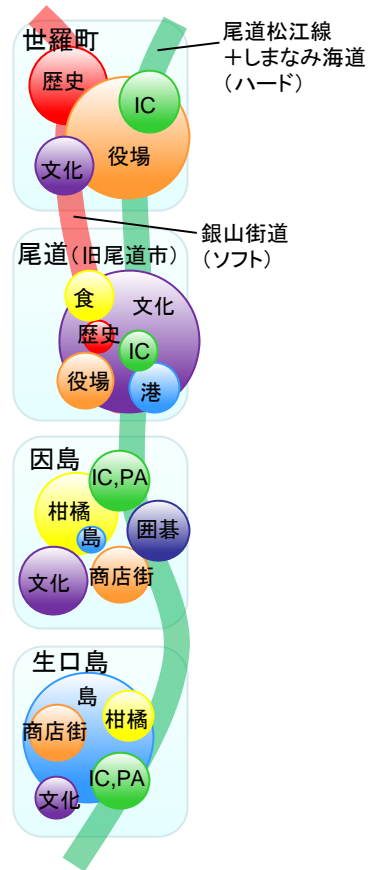
(3) 地域コアの即地的イメージ

地域コアを活用した地域活性化は中国圏の各地域で求められており、特に中山間地域や島しょ部においては、中国圏の持続的な発展を支える意味からも重要な視点と言える。

ここでは、過疎・高齢化などの問題を抱え、地域の活性化が急務となっている中山間地域及び島しょ部のモデル地域として、開通から10年を経過しているしまなみ海道および新たに整備が予定されている中国横断自動車道尾道松江線の沿線について、地域コアの即地的イメージを示す。

ハード面の地域コア及びソフト面の地域コアが各地域毎に重複して存在し、それらを広域的につなぐ地域コアも存在している。

「地域コア」のイメージ
(尾道市、世羅町を例として)



4. 地域コアイメージの有効性検証のための試行的調査

1) 試行的調査実施地域の概要

前章において検討した地域コアイメージについて、中山間地域及び島しょ部の地域特性に応じた有効性を検証するため、2つのモデル地域において、新交通軸を活用した観光支援・地域振興・拠点機能等について試行的調査を行った。

試行的調査の実施内容については、試行的調査実施地域の現状、特性をふまえ、実施地域ごとに地域内外の分野横断的なメンバーによる会議を設け、検討を行った。

(1) 試行的調査実施地域の選定

試行的調査実施地域は、中山間地域及び島しょ部のモデル性を有しており、また地域同士が近接しており交通軸（特に新たな交通軸である中国横断自動車道尾道松江線）により連携する可能性があることを考慮し、しまなみ海道沿線地域（尾道市瀬戸田地域）及び世羅町地域とした。

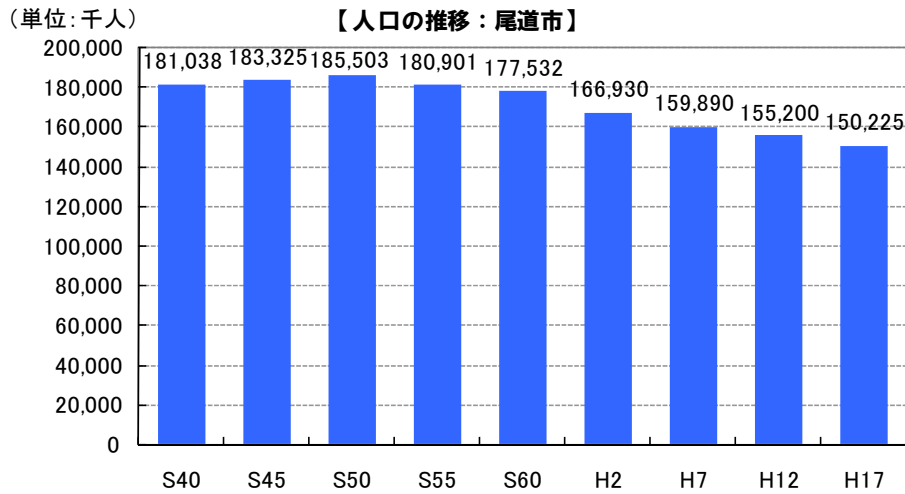
試行的調査実施地域位置図



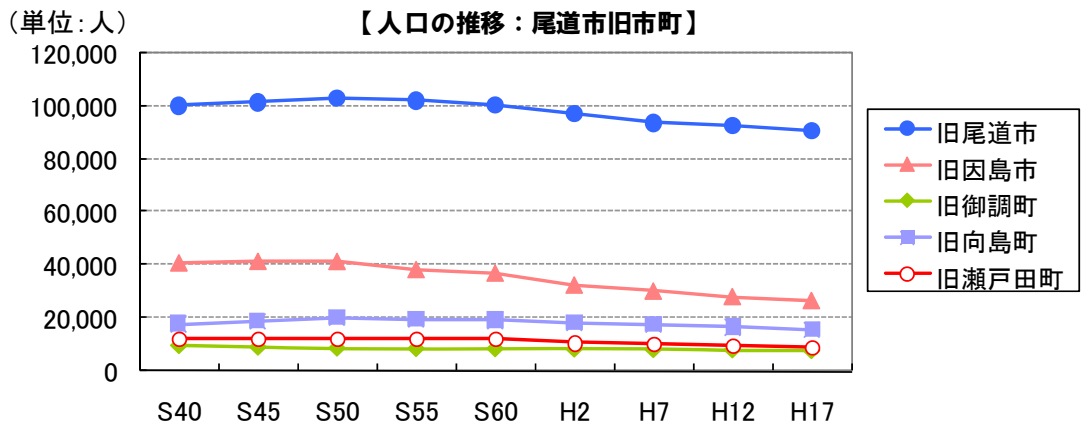
(2) 試行的調査実施地域の現状・特性

①人口

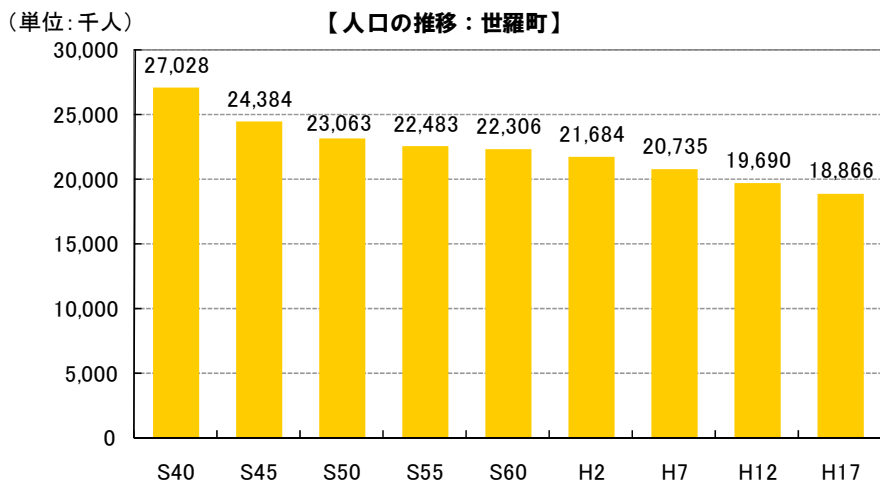
試行的調査実施地域である瀬戸田地域（旧瀬戸田町）、世羅町はともに人口減少傾向にあり、人口のピークが昭和50年頃と全国に先駆けて人口減少が進んでいる中国地方の中山間地域・島しょ部の特徴を有している。



(資料) 国勢調査



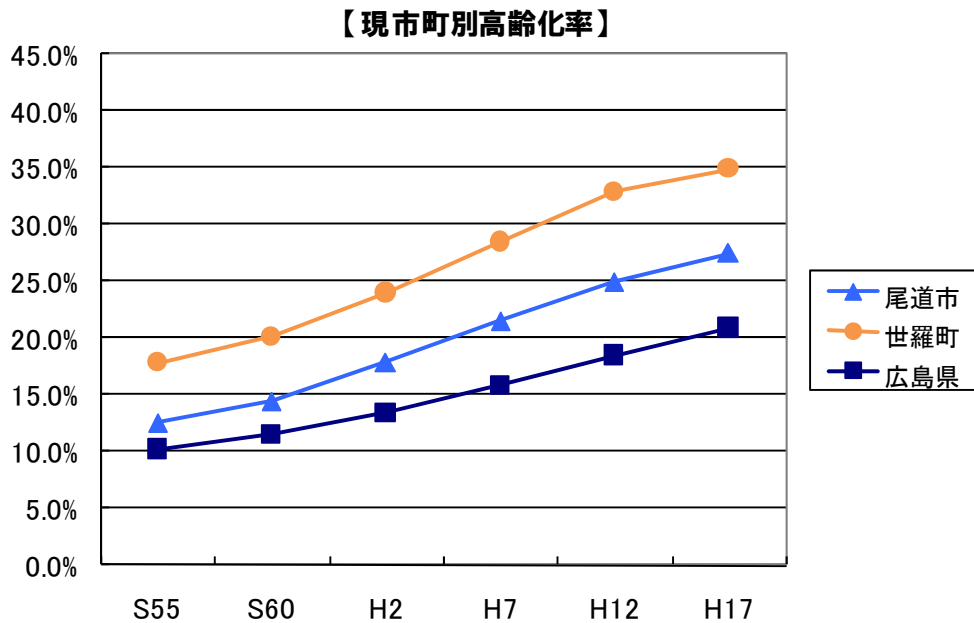
(資料) 国勢調査



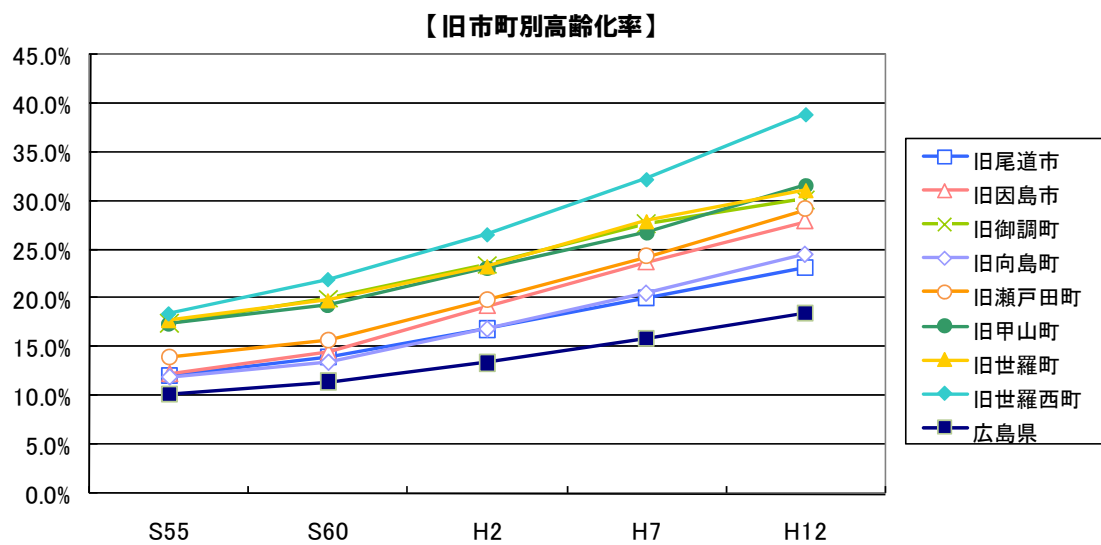
(資料) 国勢調査

②高齢化率

高齢化率は両地域とも年々増加傾向にあり、世羅町では35%に達している。



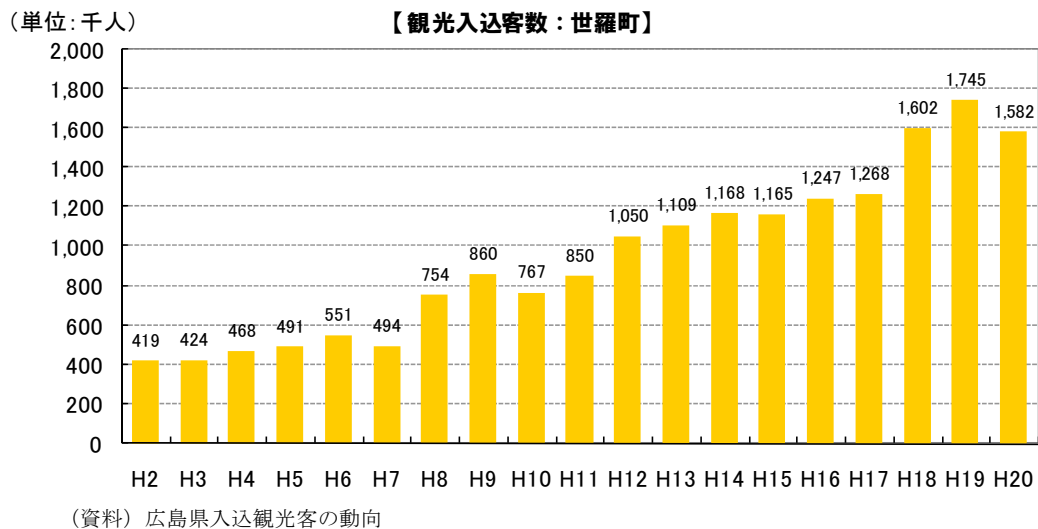
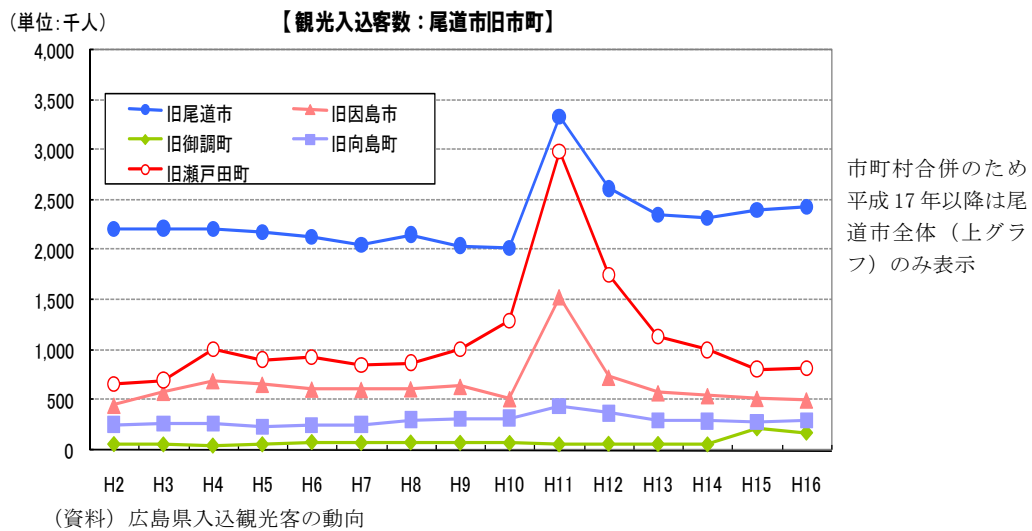
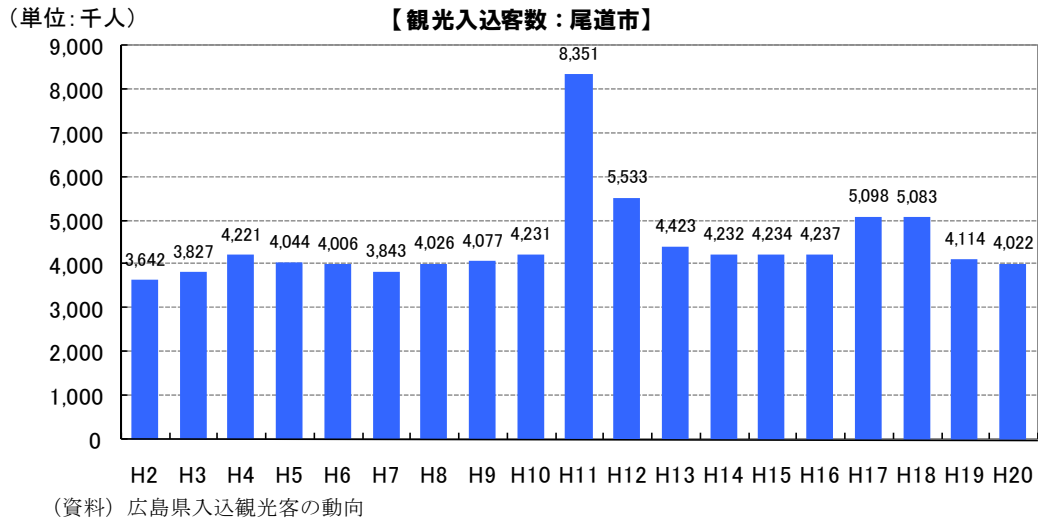
(資料) 国勢調査



(資料) 国勢調査 ※平成17年データは合併後市町村(現市町)において表示

③観光入込客数

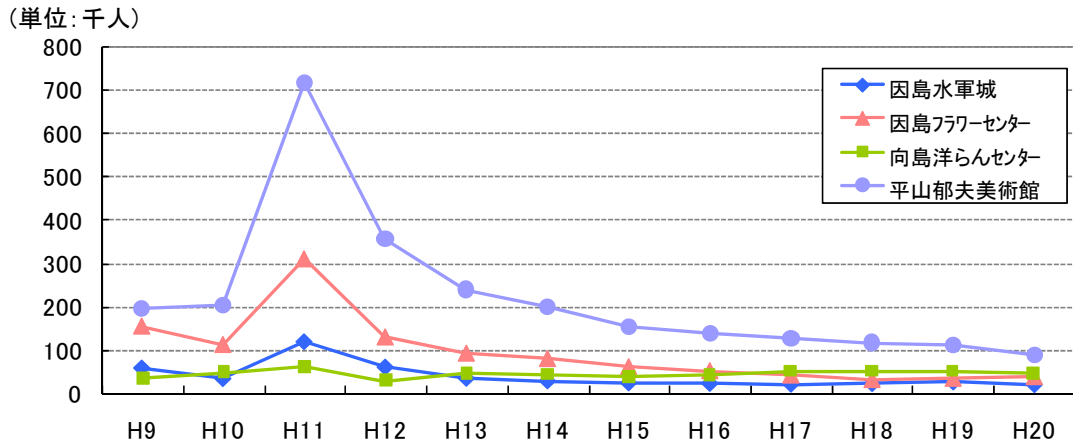
観光入込客数は、しまなみ海道沿線の尾道市の各地域では、しまなみ海道が開通した平成11年に突出した入込客数を記録しているが、近年は開通前と同程度となっている。世羅町においては、花観光や果樹観光により増加傾向にある。



④主要有料観光地入込客数

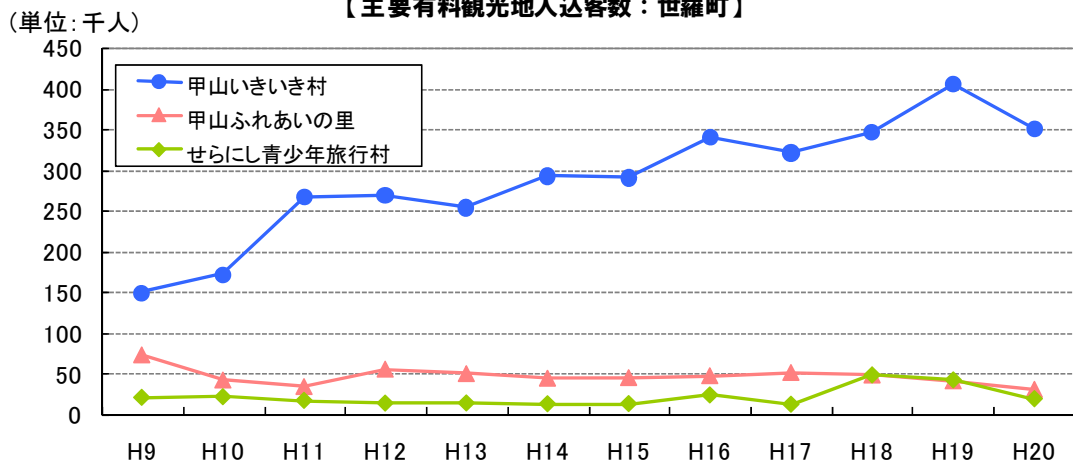
観光施設別にみると、尾道市の島しょ部及び世羅町において最も入込客が多いのは世羅町の甲山いきいき村で年間約 35 万人の集客があり、世羅町の拠点的観光施設といえる。その他の施設は 10 万人以下となっており、観光施設としての拠点性は小さい。

【主要有料観光地入込客数：尾道市諸島地区】



(資料) 広島県入込観光客の動向

【主要有料観光地入込客数：世羅町】

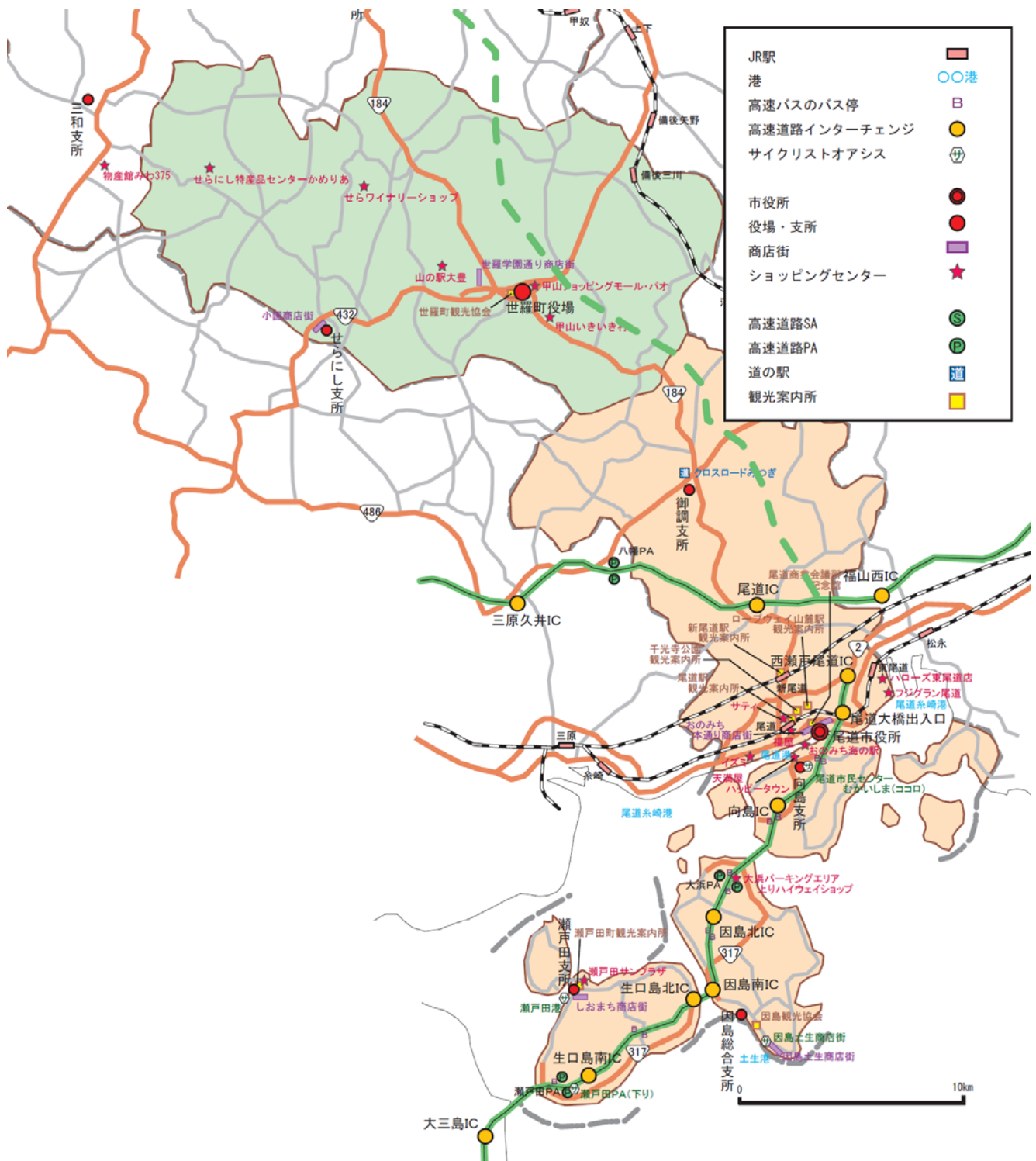


(資料) 広島県入込観光客の動向

⑤拠点的資源の分布

尾道市及び世羅町の拠点的資源について、地図上で整理したものが以下の図である。JR 駅や港などの交通拠点、市役所などの公的施設、商店街やショッピングセンターなどの商業施設、高速道路 SA/PA、道の駅などの情報拠点施設についてプロットしている。

地図をみると、尾道市中心部への拠点的資源の集積がみられるほかは、各施設が散在している。



⑥ 試行的調査実施地域の現状・特性のまとめ

前項までに得られた現状・特性をまとめると以下の通りであり、両地域とも「地域コア」となりうるハード、ソフトの地域資源を有していることが確認できた。

◇ 尾道市瀬戸田地域

平成 18 年 1 月に尾道市、因島市、瀬戸田町が合併し、瀬戸田地域は尾道市となっている。人口は約 9,000 人。観光資源として、平山郁夫美術館、耕三寺博物館、シトラスパーク等のほか、柑橘やレモンの島、独特の島文化など、地域資源が豊富な島である。

しまなみ海道開通（平成 11 年）から 10 年が経過し、開通時の一時的な観光客の増大はあったが、現在までに観光客は減少傾向が継続している。

瀬戸田地域の中心部には、瀬戸田港から耕三寺にかけての東西に伸びるしおまち商店街があり、耕三寺参詣客を対象とした土産物屋や飲食店が並び、しまなみ海道開通以前は船舶による瀬戸田港からの観光客で賑わっていた。しおまち商店街の中ほどには、元郵便局長の母屋だった旧家を休憩所として改装した「汐待亭」があり、観光の際の交流拠点となっている。

◇ 世羅町地域

平成 16 年 4 月に旧甲山町、旧世羅町、旧世羅西町が合併し、世羅町となっている。人口は約 18,000 人。広島県側では初めて、中国横断自動車道尾道－甲山間が平成 22 年度に部分開通する予定となっている。

合併時に世羅町役場は旧甲山町役場におかれ、世羅町商工会、世羅町観光協会、甲山自治センター等と隣接し、高速バスのバス停などの交通拠点と合わせて地域の拠点となっている。

観光資源として、花や果樹の観光農園が集積しており、世羅町全体で「農村公園」化構想を打ち出している。また、平成 11 年 7 月に、農業者を中心とした「世羅高原 6 次産業ネットワーク」が結成され、特産品のブランド化や共同 P R 活動、農家・農園等の連携強化、会員相互の情報交換などを通じた農業振興と地域活性化を目的として活動を展開している。

また、鎌倉時代、甲山を中心とする世羅町の東半分は紀州（和歌山県周辺）の高野山領の太田庄であり、「今高野山」が置かれるなど、歴史資源が豊富である。石見銀山で採掘された銀を尾道まで運ぶ銀山街道の宿場町でもあった。

2) 試行的調査実施に向けた検討

(1) 尾道市瀬戸田地域

① 検討体制

瀬戸田地域においては、以下に示す地域内外の分野横断的なメンバーにより「せとだ島・島〴〵ん会議（せとだしまじまんかいぎ）」という会議を立ち上げた。メンバーの中心となったのは、瀬戸田港を拠点とした地域の活性化を図ることを目的として平成16年に設立されたNPO法人せとだ港房であり、平山郁夫美術館ほか瀬戸田地域内の各団体との連絡調整や、尾道観光協会や尾道市など尾道地域との連携を担う存在となった。

◇せとだ島・島〴〵ん会議（せとだしまじまんかいぎ）構成

NPO 法人せとだ港房、平山郁夫美術館、耕三寺博物館、農園、瀬戸田町住民、尾道観光協会、尾道市観光課、尾道市瀬戸田支所、国土交通省福山河川国道事務所、コンサルタント（広島市）、一級建築士事務所（尾道市） ほか
※尾道市観光まちづくり戦略会議メンバーを含む

② 検討スケジュール

試行的調査の内容について検討する「せとだ島・島〴〵ん会議」は11月から3月までに7回開催し、モニターツアー開催に向けて別途ワーキンググループを4回開催した。

◇せとだ島・島〴〵ん会議 開催記録

	日時	参加者数・内容
第1回	平成21年11月4日	参加：14名 ・瀬戸田をとりまく動向について情報共有 ・調査概要説明 ・調査についての意見交換
第2回	11月12日	参加：18名 ・調査実施に当たっての課題整理 ・組織や体制についての意見交換 ・今後のアイデアについての意見交換
第3回	11月26日	参加：19名 ・試行調査としてモニターツアー案の具体化 ・ツアー内容についての意見交換
第4回	12月7日	参加：15名 ・モニターツアーの内容検討 ・実施組織、体制についての意見交換
第5回	平成22年1月7日	参加：20名 ・会議名称の確定 ・試行調査当日の準備、役割分担の確認
第6回	2月18日	参加：15名 ・モニターツアーの報告 ・今後の組織のあり方についての意見交換

第7回	3月11日	参加：12名 ・今後の取組体制についての意見交換 ・平成22年度の取組についての意見交換
-----	-------	--

◇瀬戸田ワーキング会議の開催記録

	日時	参加者数・内容
第1回	平成21年11月1日	参加：11名 ・会議の発足について意見交換 ・今後の活動、組織について意見交換
第2回	11月23日	参加：11名 ・試行調査の内容として「レモン足湯」の実施可能性検討
第3回	12月13日	参加：9名 ・自転車の試行的調査について意見交換 ・瀬戸田のまちづくりについて意見交換
第4回	12月22日	参加：9名 ・モニターツアーの内容検討 ・試行調査後についての意見交換

③主な検討内容

せとだ島・島嶼ん会議では、地域コアや検討体制について、主に以下のような内容が話し合われた。

◇試行的調査における「地域コア」について

- ・瀬戸田の持つ「おもてなし」の文化を中心に交流事業を行う。
- ・ハード面では瀬戸田の中心である「しおまち商店街」をフィールドとして、特に「汐待亭」を発着点とした交流事業を行う。
- ・柑橘類の農園など従来は観光事業に関与していなかった主体と積極的に連携し、瀬戸田の柑橘を交流事業に活用する。（農園での柑橘もぎ取り体験、レモン足湯など）
- ・しまなみ海道瀬戸田PAにて実験的に貸し出していた電動アシスト付き自転車を活用し、「自転車」で楽しめる島としてのイメージ構築を図る。
- ・ビジットジャパンイヤーを見据え、訪日外国人観光客の瀬戸内海地域の周遊拠点となるべく、外国人（特に欧米人）のニーズに合わせて興福寺、向上寺など地域の歴史資源を活用する。（座禅体験、歴史ガイド付きまち歩き）
- ・平山郁夫美術館を中心に、平山郁夫画伯の生家やスケッチポイントなどを散策ルートとしてつなぐ。

◇検討体制（せとだ島・島嶼ん会議）について

- ・瀬戸田地域内の情報共有・情報交換の場として、せとだ島・島嶼ん会議は様々な情報を持ち寄ることができるオープンな場とする。
- ・試行的調査の結果を活かし、平成22年度以降もNPO法人せとだ港房を中心に継続して事業を実施する。

(2) 世羅地域

①検討体制

世羅地域においては、以下に示す地域内外の分野横断的なメンバーにより世羅地域検討委員会という会議を立ち上げ、試行的調査の内容について検討した。地元NPO法人のほか、地元の歴史ガイドの会である世羅すずらんガイドや、平成21年度より新たに専従職員を雇用した世羅町観光協会などが中心となり試行的調査を企画・実施した。

◇世羅地域検討委員会構成

NPO 法人広島・せらマルベリークラブ、花・果樹農園、地元自治会、世羅高原6次産業ネットワーク、世羅町民、世羅すずらんガイド、世羅町商工会、世羅町観光協会、世羅町企画情報課、国土交通省福山河川国道事務所、中国・地域づくり交流会（広島市）、コンサルタント（広島市）、IT関連企業（広島市） ほか

②検討スケジュール

会議は11月から3月までに6回開催し、試行的調査（銀しゃりツアー）開催に向けて別途ワーキンググループを5回開催している。

◇世羅地域検討委員会の開催記録

	日時	参加者数・内容
第1回	平成21年11月13日	参加：14名 ・調査概要説明 ・調査についての意見交換
第2回	12月1日	参加：25名 ・議論の進め方についての意見交換 ・試行的調査のアイデアについての意見交換
第3回	12月16日	参加：21名 ・試行的調査案の提案 ・試行的調査内容についての意見交換 ・実行組織のあり方についての意見交換
第4回	平成22年1月18日	参加：19名 ・試行的調査内容についての意見交換 ・試行的調査の募集方法、役割分担の確認
第5回	2月19日	参加：11名 ・試行的調査内容についての打ち合わせ ・参加者アンケートについての検討
第6回	3月11日	参加：11名 ・試行的調査の報告 ・今後の組織のあり方についての意見交換 ・平成22年度の取組についての意見交換

◇世羅地域ワーキンググループの開催記録

	日時	参加者数・内容
第1回	平成21年12月16日	参加：7名 ・試行的調査内容の詳細検討 ・実行組織についての検討
第2回	12月25日	参加：11名 ・試行的調査内容の詳細検討 ・試行的調査使用コースの現場確認
第3回	平成22年1月18日	参加：10名 ・試行的調査内容の詳細検討 ・試行的調査の役割分担について検討
第4回	2月1日	参加：8名 ・試行的調査内容の詳細検討
第5回	3月3日	参加：9名 ・試行的調査内容の詳細検討 ・当日の役割分担の確認

③主な検討内容

世羅地域検討委員会では、地域コアや検討体制について、主に以下のような内容が話し合われた。

◇試行的調査における「地域コア」について

- ・世羅町の歴史資源である石見銀山街道を中心として、地域の歴史研究家や歴史ガイドの協力を得て多様な歴史資源を巡る試行的調査（交流事業）を行う。
- ・試行的調査（交流事業）の発着は、広い駐車場のある世羅町役場前（甲山自治センター）とする。
- ・世羅町特産のお米に着目し、銀山街道と関連付けた「銀しゃり」を運ぶ企画として、世羅町のお米で作ったおむすびを振舞うなどの地域のおもてなしを盛り込む。
- ・世羅町内の観光農園などを巡るための将来的なツールとして電動アシスト付き自転車に注目し、「エコしゃり」として交流事業で試験的に活用する。

◇世羅地域検討委員会について

- ・試行的調査の実施主体として、この指とまれ方式により多様な主体で構成する「銀しゃりツアー実行委員会」を立ち上げる。
- ・平成22年度以降の継続的な活動を行う主体として、「銀しゃりツアー実行委員会」を引き継ぐ形で組織を形成し、活動を行う。

3) 試行的調査の概要

(1) 尾道市瀬戸田地域

①実施日時

- 日時 平成22年1月23日(日) 午前10:00～午後4:00
場所 尾道市瀬戸田町内
参加人数 52名(スタッフ等は除く)
午前: 全員での共通コース
午後: 1コース(興福寺での座禅、レモン足湯コース)
一般参加者25人(外国人9人、通訳6人、その他5人、熟年10人)、
スタッフなど10人
2コース(農園でのみかんもぎ取り、電動アシスト自転車コース)
一般参加者(熟年)13人、スタッフなど4人
3コース(農園でのみかんもぎ取り体験コース)
一般参加者(熟年)9人、スタッフなど4人

②実施目的

瀬戸田地域の地域コアとして考えられる瀬戸田の持つ「おもてなし」の文化を中心として、柑橘、電動アシスト付き自転車、平山郁夫画伯ゆかりの地などを織り交ぜた交流事業を実施し、瀬戸田地域の主要なターゲットとなり得る都市部の熟年層のニーズと、将来的に増加が期待される外国人観光客のニーズを把握することにより、瀬戸田地域の地域コアを活用した今後の地域づくりを検討するものである。

③参加対象

参加対象は、主に、以下の2つの属性とした。

○広島市内居住外国人

瀬戸田地域の観光資源に対する外国人観光客のニーズを把握するためには、訪日外国人旅行者を対象とするのではなく、日本国内の他の観光地の状況により詳しい日本に在住している外国人(本調査では広島市周辺に在住している外国人)を対象とした。外国人として、瀬戸田地域の歴史文化、特に興福寺や向上寺などの歴史資源、しおまち商店街、町並みなどがどのように評価されるかを探るものである。また、通訳ボランティアガイドの方にも体験していただき、外国人と観光随行している立場から、ガイドの立場で、外国人にどのようなものが良いかを評価されるかを探る。

○広島市内居住の熟年女性、夫婦

団塊の世代が急増し、旅行ニーズが高まることが予想される都市部の熟年層のニーズを把握するためには、主に中国圏の最大都市である広島市在住の熟年層を対象として、瀬戸田地域の歴史、料理、みかん、おもてなしなどがどのように受け入れられるかを検討するものである。将来的に口コミなどの情報発信やリピーターとしてとして期待するものである。

④ツアーの行程・概要

午前：全員での共通コース

	日 程	備 考
共通 コース	8:00 広島駅新幹線口出発 (車内でコース説明) (小谷PAで休息)	<ul style="list-style-type: none"> ・しまなみガイド瀬戸田会・ボランティアガイド：5人(10人に1人のガイド)による説明 ・開会式、班分け確認、自己紹介、コースなど説明、注意事項説明等 ・各地点でガイド説明を受ける。 ・特に丁寧な説明を受ける。 ・瀬戸内海の眺望を眺める。 ・商店街での買物。
	10:00 汐待亭到着	
	10:05 スタッフ、ガイド等挨拶	
	10:10 汐待亭出発	
	10:15 平山郁夫画伯生家・ニツ井戸	
	10:35 向上寺	
	10:45 国宝三重塔	
	11:00 潮音山公園	
	11:15 未来心の丘眺望場所 六地藏	
	11:30 しおまち商店街	

午後：1コース(興福寺での座禅、レモン足湯コース)

	日 程	備 考
1 コース	11:30 しおまち商店街通過 (遊歩道沿いからの瀬戸内海の眺望)	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街での買物。 ・説明付きでの鑑賞。
	11:45 興福寺到着 ・住職の挨拶 ・レモンの足湯 ・お茶・塩粥 ・座禅	
	13:45 興福寺出発	
	13:55 しおまち商店街散策	
	14:15 平山郁夫美術館 ・瀬戸田島文化の紹介(30分) ・絵の観賞	
集合 ・休憩	15:30 平山郁夫美術館で休息 ・アンケート記入等	
	16:00 平山郁夫美術館出発 (小谷PAで休息)	
	18:00 広島駅新幹線口到着	

午後：2コース（農園でのみかんもぎ取り、電動アシスト自転車コース）

	日 程	備 考
2 コ ー ス	11:35 昼食場所に到着 (しおまち商店街)	・昼食場所（若葉穴子飯、又はちどり食堂蛸飯）
	12:00 昼食場所出発	
	12:20 観光協会レンタサイクル到着	・電動アシスト自転車での移動。
	12:50 出発 高根島周遊 ・柑橘園見学 ・景色眺望	
	15:00 観光協会レンタサイクル到着	
	15:00 しおまち商店街散策	・観光農園での説明、体験。
	15:30 平山郁夫美術館到着	
集 合 ・ 休 憩	15:30 平山郁夫美術館で休息 ・アンケート記入等 ・美術館見学	
	16:00 平山郁夫美術館出発 (小谷PAで休息)	
	18:00 広島駅新幹線口到着・解散	

午後：3コース（農園のレモン谷体験コース）

	日 程	備 考
3 コ ー ス	11:35 昼食場所到着	・昼食場所（若葉穴子飯、又はちどり食堂蛸飯）
	12:35 昼食場所（車で移動）	
	13:00 農園に到着 ・各種柑橘の説明 ・柑橘の収穫体験 ・レモン谷案内	・観光バスでの移動 ・農園での説明、体験
	14:40 農園出発	
	15:10 しおまち商店街到着、散策	
	15:30 平山郁夫美術館に到着	
集 合 ・ 休 憩	15:30 平山郁夫美術館で休息 ・アンケート記入等 ・美術館見学	
	16:00 平山郁夫美術館出発 (小谷PAで休息)	
	18:00 広島駅新幹線口到着・解散	

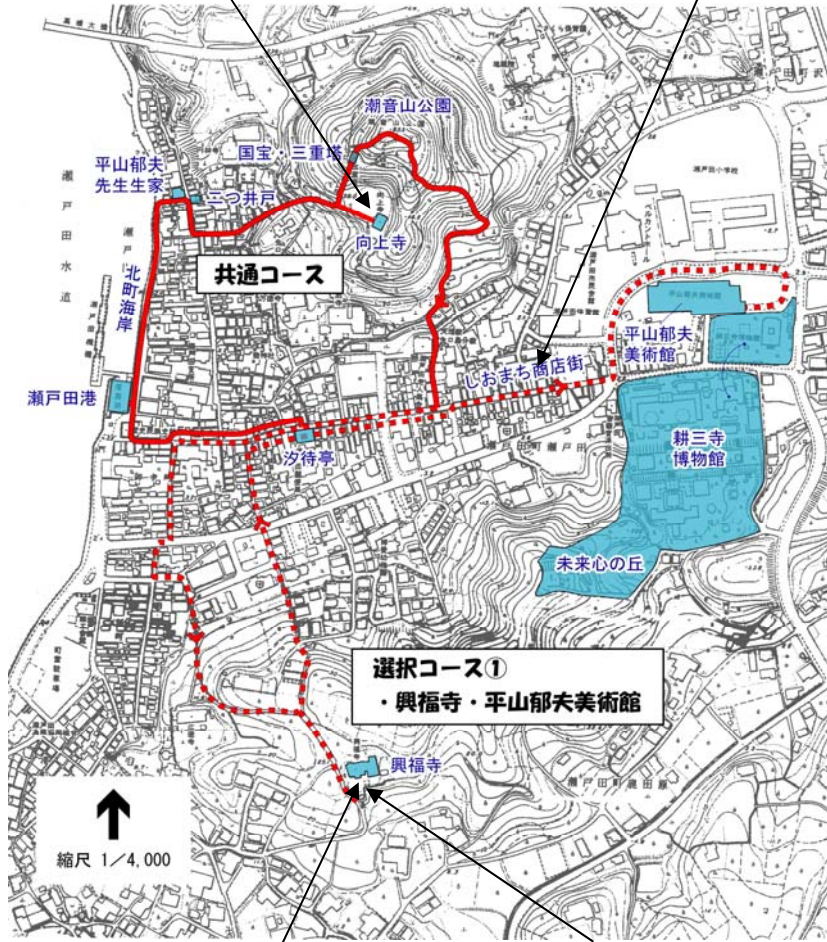
⑤ ツアー実施状況 (写真)



向上寺(ガイド付き)※共通コース



しおまち商店街散策(買い物) ※共通



興福寺での座禅体験 ※1コース



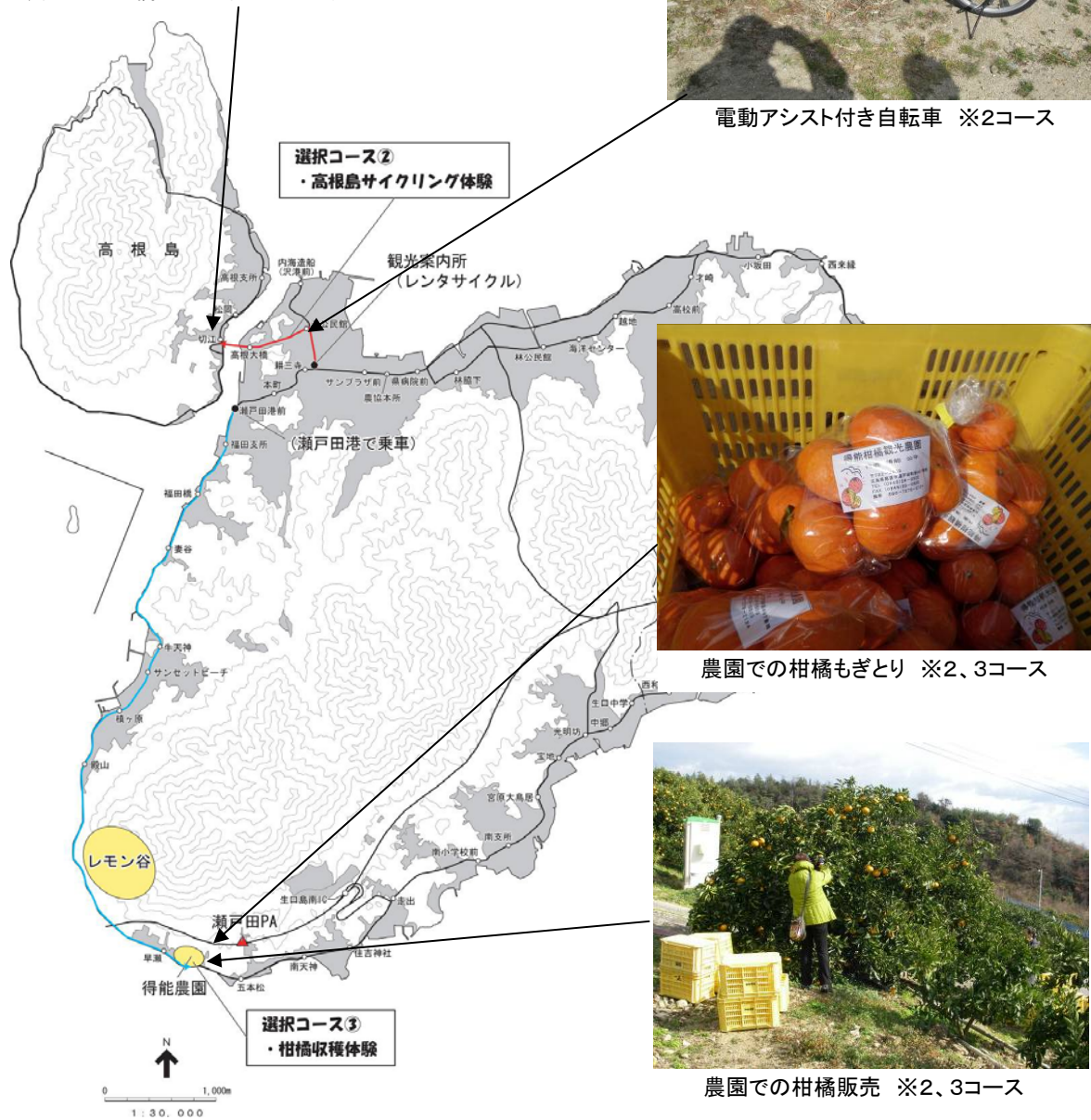
レモン足湯(1人ずつ桶を用意)※1コース



農園での柑橘もぎとり説明 ※2、3コース



電動アシスト付き自転車 ※2コース



農園での柑橘もぎとり ※2、3コース



農園での柑橘販売 ※2、3コース

⑥新聞掲載状況

中国新聞（平成 22 年 1 月 24 日）備三面に「足湯や座禅 瀬戸田発信」として実施内容が掲載された。

(2) 世羅地域

①実施日時

日時 平成22年3月7日(日) 午前9:00～午後1:30
場所 世羅町東上原、西上原地区等
参加人数 78名(スタッフ等は除く)

②実施目的

世羅町地域では、中国横断自動車道尾道一甲山間が平成22年度に部分開通する予定となっており、横断道と石見銀山街道ルートがほぼ重なる世羅町にあっては、中国横断道尾道松江線は「平成の銀山街道」とも言えるものである。横断道開通は、石見銀が運搬された「道」の変遷に関心を寄せる契機になると考えられる。

世羅町地域の試行的調査では、ハード面の地域コアとしての甲山インターチェンジ(仮称)を契機として、ソフト面の地域コアとしての銀山街道を活用した地域活性化の取組みを実施し、町内に残る貴重な歴史資源を活用した今後の取組につなげることを目的とする。

また、世羅町の観光施設を周遊する際には道路の高低差がネックとなっており、町内観光の周遊性を高めるための移動手段として、電動アシスト自転車を利用することで、世羅高原周回レンタル・エコチャリ(貸アシスト自転車)の有益性を検証することも目的とする。

ターゲットとしては、世羅町内の方の参加により地域資源の再発見、再確認につなげるとともに、世羅町外の一般の方に参加頂き、世羅町でのウォーキング、電動アシスト自転車を体験していただき、世羅町の地域コアを活用した今後の地域づくりを検討するものである。

③参加対象

参加対象は、主に、以下の2つの属性とした。

○世羅町民

世羅町にある歴史資源を見直し、交流資源としての可能性を検討するとともに、地元の身近な存在でありながら、活用が十分ではなかった資源に関して、どのように評価されるかを探るものである。

○世羅町以外の住民

今後、尾道松江線開通に伴い、しまなみ海道沿線や尾道方面からの観光客が増加することが予想され、また、銀山街道ルートにある島根県側、三次方面との連携を探るため、沿線自治体の住民の参加を促すものである。

④ ツアーの行程・概要

時刻	行程
9:00	受付・集合 世羅町役場（甲山自治センター前）
9:00	開会式
9:15	班編成後、出発 徒歩組はマイクロバスに乗車し、「もみの木」地点までバス移動 自転車組は集合後出発（1列走行厳守） 徒歩組は甲山IC予定地直近の石州街道、もみのき交差点で降車
9:30	回国塔道標・金比羅社・力石・茶屋の段案内
9:45	石州街道本道を甲山町（まち）「御銀蔵」めざして南下
9:50	報恩寺国指定重要文化財 聖観音立像・十一面観音立像拝観
10:00	赤屋八幡神社参拝
11:00	赤屋下から集落を案内
11:30	（戦国時代の山城＝砂走城、赤屋合戦＝毛利氏と尼子氏・新山・早山ヶ城山） 新山一里塚にて休憩（仮設トイレ設置、茶屋による飲み物提供）
11:45	刀川、相撲場→宗政坂（今回で一番長い古道、ゴルフ練習場横）
12:00	→良辻堂、御銀蔵 ゴール：甲山町（まち）「御銀蔵」隣接の「大田庄歴史館」
12:45	甲山自治センター2階で、豚汁・むすび、ジェラート「銀山街道」の提供、食事

⑤ ツアーの実施状況（写真）



電動アシスト付き自転車での周遊



銀しゃりを運ぶ馬を先頭に歩く



歴史ガイドによる説明



銀しゃりむすび、豚汁など地元のおもてなし

⑥ 新聞掲載状況

中国新聞（平成 22 年 2 月 24 日）備三面に「徒歩や自転車で银山街道ツアー」として予告記事が掲載され、中国新聞（平成 22 年 3 月 8 日）備三面に「銀シャリで街道行列再現」として実施内容が掲載された。

4) 瀬戸田地域試行的調査の評価（アンケート調査結果）

(1) 調査の概要

①調査の目的

今回企画した瀬戸田モニターツアーについて、参加者の意見・感想を把握するために、アンケート調査を実施した。

なお、通訳ガイドの人には、ツアーをガイドする視点からの意見・感想を把握した。

②調査対象

瀬戸田モニターツアーに参加した人（熟年者、外国人、通訳ガイド）全員に依頼した。

③調査項目

ア. 熟年者・外国人参加者

項目	内容
回答者の属性	・性別、年齢、今回の同行者、住まい先
瀬戸田町の認知状況	・瀬戸田町への来訪の有無、名前と場所の認知状況
モニターツアーの評価	・ツアー全体の評価、良かった点、悪かった点、コース別項目別評価 ・瀬戸田町のイメージやシンボルとして高く評価されるもの、将来伸びて欲しい、又は期待される項目 ・瀬戸田町への再訪意向、瀬戸田町のPR意向 ・旅行代金 ・しまなみ海道沿線の周遊観光の意向

イ. 外国人通訳ガイド

項目	内容
モニターツアーの評価	・ツアー全体、瀬戸田町の魅力、体験内容、ガイド、食事内容、料理土産物、価格設定、観光地としての受入れ体制、しまなみ海道他、他の観光地との連携・周遊など

④調査方法

モニターツアー終了後、平山郁夫美術館でアンケート調査票に記入してもらった。

(2) 熟年者アンケート調査結果

このアンケート調査結果は、熟年の人に加えて各個人に同行してきた日本人の意見を合わせたものである。また、家族で参加した人もいるため、10～30歳代の人もある。

①回答者自身のこと

ア. 参加コース

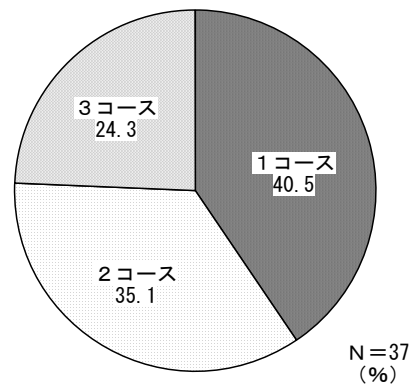
参加コースは1コース 40.5%、2コース 35.1%、3コース 24.3%である。

1コース：興福寺（レモン足湯、座禅、塩粥）
→平山郁夫美術館

2コース：昼食（瀬戸田町名物料理）→高根島
サイクリング（電動自転車）→商店街散策

3コース：昼食（瀬戸田町名物料理）→柑橘収穫体験（紅八朔等）→商店街散策

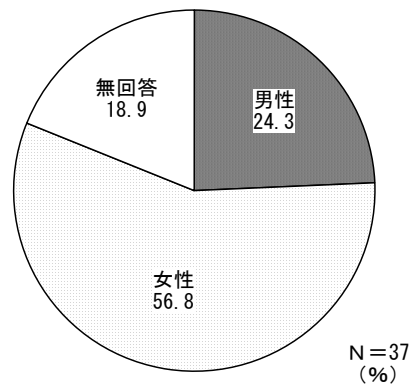
図 参加コース



イ. 性別

性別は、女性56.8%、男性24.3%である。

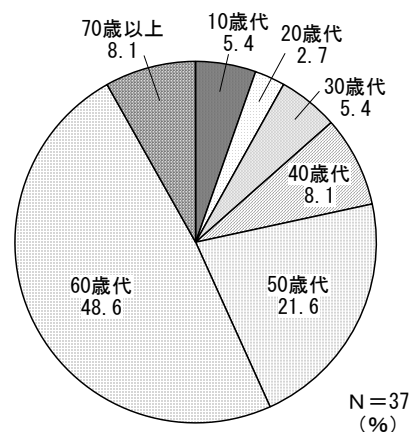
図 性別



ウ. 年齢

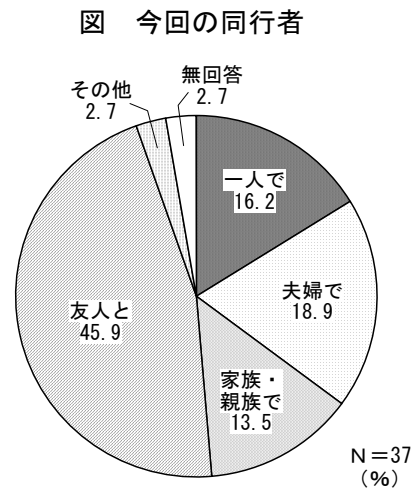
年齢は、「60歳代」が48.6%で最も割合が高く、次いで「50歳代」21.6%、「40歳代」及び「70歳以上」8.1%等の順になっており、10～30歳代13.5%、40～50歳代29.7%、60歳以上56.7%になっている。

図 年齢



エ. 今回の同行者

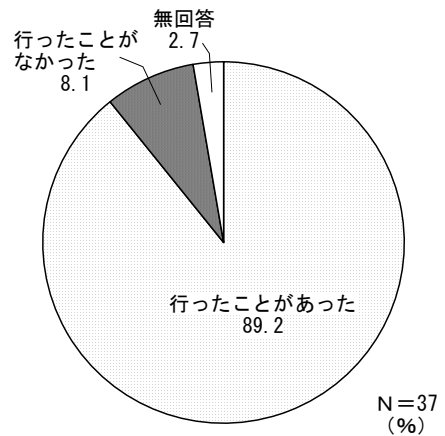
今回の同行者は、「友人と」が45.9%で最も割合が高く、次いで「夫婦で」18.9%、「一人で」16.2%、「家族・親族で」13.5%等の順である。



オ. 過去の瀬戸田町への来訪の有無

過去、瀬戸田町に「行ったことがあった」と答えた人は89.2%で、ほとんどを占めている。

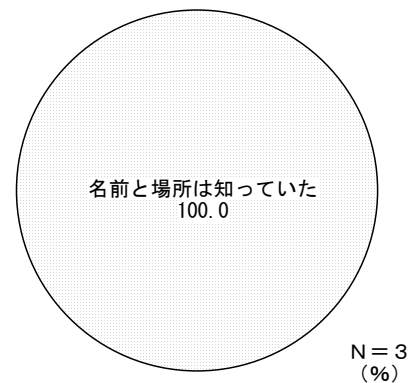
図 過去の瀬戸田町への来訪の有無



カ. 過去瀬戸田町へ行ったことがなかったと答えた人の瀬戸田町の認知状況

過去瀬戸田町へ行ったことがなかったと答えた人の瀬戸田町の認知状況は、全員の人が「名前と場所は知っていた」と答えている。

図 瀬戸田町へ行ったことがなかったと答えた人の瀬戸田町の認知状況



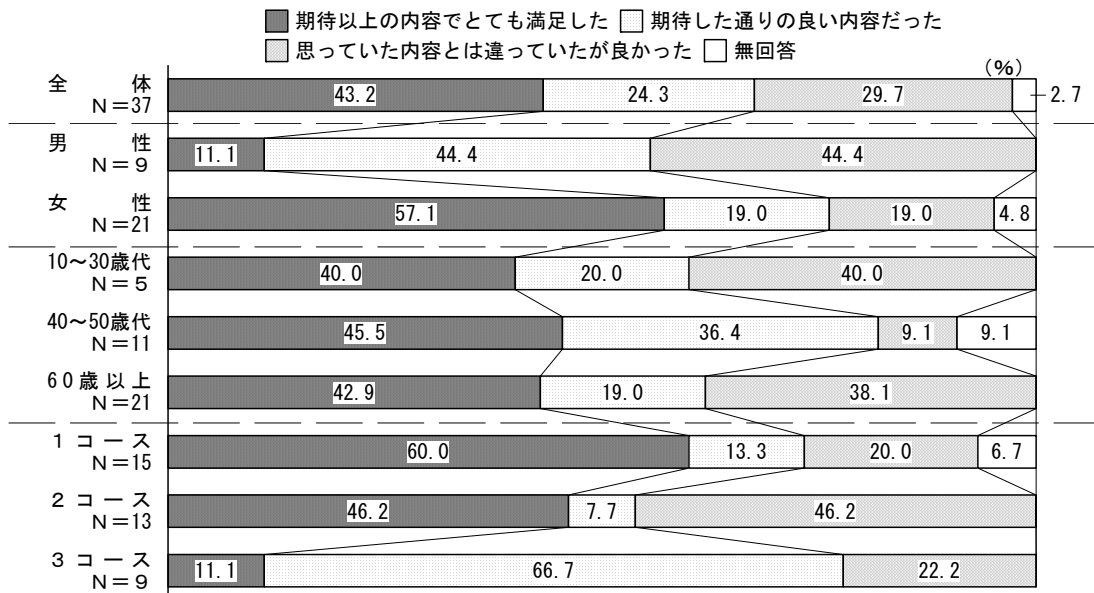
②モニターツアーの評価

ア. モニターツアー全体の評価

モニターツアーの全体を通しての評価は、「期待以上の内容でとても満足した」と答えた人が43.2%で最も割合が高く、次いで「思っていた内容とは違っていたが良かった」29.7%、「期待した通りの良い内容だった」24.3%で、ほとんどの人が今回のモニターツアーに満足している。

「期待以上の内容でとても満足した」と答えた人は、男女別では女性の割合が高くなっている。また、年齢別では差がないが、コース別では1コースの割合が高くなっている。

図 全体を通しての満足度



イ. モニターツアーに関する具体的な意見

モニターツアーでの期待以上だった点・良かった点、期待はずれだった点・悪かった点について整理すると、次のとおりである。

表 項目別の意見

項目	期待以上だった点 ・良かった点	期待はずれだった点 ・悪かった点
瀬戸内海・瀬戸田町の風景等	・瀬戸内海の風景(3) ・瀬戸田町の町並み(2)	
スタッフ等のもてなし	・現地スタッフとの交流・案内(8) ・ボランティアガイドの説明(1)	・ガイドの説明(4)
コース全体	・コース全体(1)	・時間的に厳しい、ゆとりがない(9)
向上寺周辺歴史体験	・向上寺等(3)	・高齢者向け手すりの未整備(1) ・案内標識の不足(1) ・退屈(1)
レモン足湯・坐禅体験等	・レモン足湯(3) ・坐禅(3) ・塩粥(3)	・坐禅中のスタッフの配慮不足(1) ・坐禅中の室内が寒い(1)
高根島サイクリング・柑橘学習体験	・サイクリング(3) ・柑橘学習(2) ・みかん農家(3)	
農園柑橘収穫体験	・柑橘収穫体験(4)	・レモン谷体験がなかった(1)
平山郁夫美術館	・平山郁夫美術館(3)	・英語表記がない(1)
食事・土産物・しおまち商店街	・土産物(1)	・食事が高い(3) ・浜子鍋の味が濃すぎる(3) ・商店街がさみしい(3) ・休息できるカフェがない(1)

注：()内の数字は件数。

参考 具体的な意見

ア. 期待以上の点・良かった点

(7) 瀬戸内海の風景、瀬戸田町の町並み

- ・瀬戸内海のきれいな景色を見れた。
- ・良かった。
- ・風景。
- ・きれいな街でびっくりした。
- ・古いのどかな街並みを散策できたこと。

(イ) スタッフ等のもてなし

- ・スタッフが一生懸命もてなししていて感動した。（それが一番高い評価。）
- ・親切な案内。
- ・瀬戸田には何度か来たことがあったが、地域の人とのふれあいで心があたたまつた。
- ・現地の人と交流できたこと。
- ・親切な対応。
- ・地域の人と交流ができてとてもよかった。
- ・詳しく説明してくれて大変素敵だった。今後は宿に一泊する予定。
- ・はじめての経験ができて良かった。
- ・瀬戸田のボランティアガイドの詳しい説明で瀬戸田をより知ることができた。

(ウ) 向上寺周辺の歴史体験

- ・三重塔など、眺めが良かった。
- ・向上寺への散策。
- ・向上寺。

(エ) レモン足湯・坐禅等の体験

- ・坐禅などの体験。
- ・レモン足湯。（本当に嬉しかった。）
- ・レモン足湯。
- ・興福寺での足湯、坐禅、昼食を体験でき、よい経験になった。
- ・坐禅とお昼ごはん。景色がよかった。
- ・坐禅体験は塩粥も含め、初めてだったので、大変興味深かった。

(オ) 高根島サイクリング・柑橘学習体験（2コース）

- ・自転車は良かった。
- ・サイクリング。
- ・サイクリングは天候にも恵まれ、海の色も二段階できれいだった。

- ・みかん狩り等とても親切で感激した。
- ・みかん農園の苦勞、楽しみなどがわかった。内容盛り沢山のツアーだった。
- ・かんきつ類の種類が多かったのは期待以上だった。それを色々試食できて感激した。生産者の苦勞・努力に感心した。
- ・みかん農家。
- ・みかん農園のご主人が色々なみかんの種類やそのルーツ、特徴などをわかりやすく説明され、その苦勞を知り、応援したい気持ちになった。

(カ) 農園柑橘収穫体験（3コース）

- ・みかん狩りは良かった。美味しかった。
- ・行く所行く所で説明があり、とてもよかった。
- ・みかん農園のおもてなしがとても嬉しかった。
- ・とれたてのハッサクがおいしかった。奥さんの心づかいが良かった。

(キ) 平山郁夫美術館

- ・平山郁夫美術館で館長さんの解説がよかった。
- ・平山郁夫美術館。
- ・平山郁夫美術館。

(ク) 食事・土産物・しおまち商店街

- ・果物など安くて新鮮なものが購入できた。

イ. 期待はずれだった点・悪かった点

(ア) スタッフ等のもてなし

- ・ガイドの内容にばらつきがあった。
- ・コース案内をもう少し丁寧にして欲しかった。

(イ) コース全体

- ・時間が足りなかった。
- ・少しきついコースだった。
- ・もう少し時間をかけて、（できれば）じっくり瀬戸田の事について考えたい。
- ・多少時間的に厳しかった。
- ・向上寺等は休みが多かった。
- ・時間が少ない。
- ・瀬戸内の風景などを時間があれば写真もしっかり写したかった。
- ・平山美術館で、もっとじっくり鑑賞したかった。
- ・美術館等は時間がなかった。

(ウ) 向上寺周辺歴史体験

- ・午前中の登山が退屈だった。
- ・向上寺等は高齢者や足の悪い人の為に手すりが欲しい。
- ・向上寺等はもう少しサイン等の整備が欲しい。

(エ) レモン足湯・坐禅体験

- ・坐禅の時、スタッフの声がうるさかった。
- ・興福寺の足湯で少しあたたまったが、坐禅の途中が寒かった。

(オ) 農園柑橘収穫体験（3コース）

- ・レモンの収穫体験があると思っていた。レモン谷を歩いてみたかった。

(カ) 平山郁夫美術館

- ・平山郁夫美術館は展示物に英語表記が欲しい。

(キ) 食事・土産物・しおまち商店街

- ・昼食の料金が高すぎる。浜子鍋は900円程度だと思う。
- ・浜子鍋の食事の味がからかった。
- ・食事の料金が安い。
- ・浜子鍋。味が濃すぎる。
- ・食事の内容が悪い、高い。
- ・少し休憩できるカフェが欲しい。
- ・商店街がさみしい。
- ・久しぶりに来て、商店の多くが閉まっているのが寂しかった。でも開いてるお店は全て興味深かった。
- ・商店街がちょっと寂しかった。瀬戸田に限らないことで残念。

ウ. 各コースの満足度

(ア) 共通コース

それぞれの項目について「満足」と「やや満足」を合わせた満足している人の割合をみると、共通コースでは、「瀬戸内海の気候・風景・眺望」が86.5%で最も割合が高く、次いで「地元の人との協力・支援体制」及び「平山郁夫美術館など施設、ゆかりの場所」83.7%等の順で、この3項目を挙げた人の割合が高くなっている。一方、「しおまち商店街のまちなみ」、「ガイドの説明のわかりやすさ」、「食事」の3項目は50%台で、他の項目に比べて割合が低くなっている。

それぞれの項目の満足度を男女別にみると、男性においては「向上寺など神社仏閣、公園など」、「しおまち商店街のまちなみ」、「ガイドの説明のわかりやすさ」、「島の歴史や文化に触れたこと」、「土産物」、「買い物」の6項目の評価が低くなっている。また、年齢別では、10～30歳代で「しおまち商店街・町並み」及び「ガイドの説明のわかりやすさ」、「土産物」、「買い物」、60歳

以上で「食事」の評価が低くなっている。

図 男女別共通コースの満足度（「満足」+「やや満足」を合わせた割合）

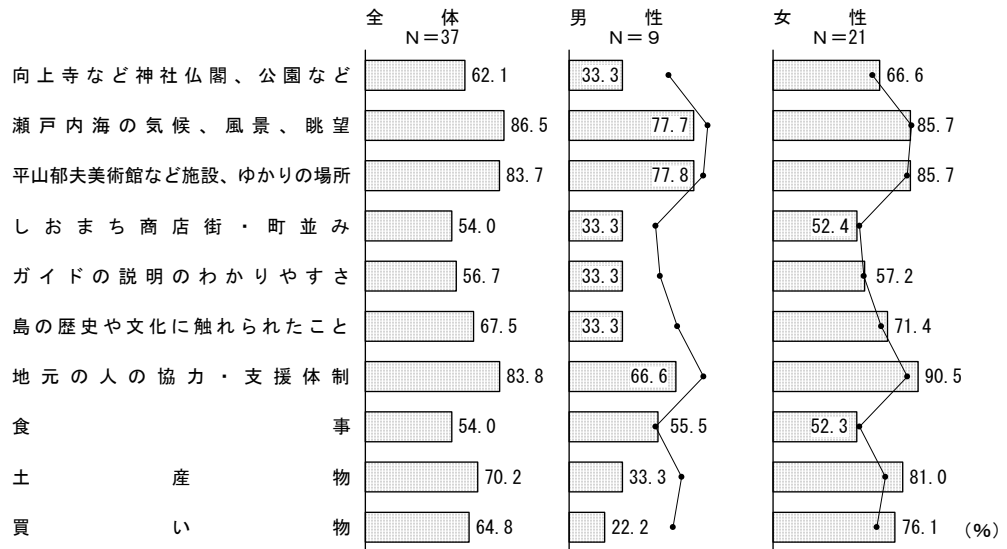
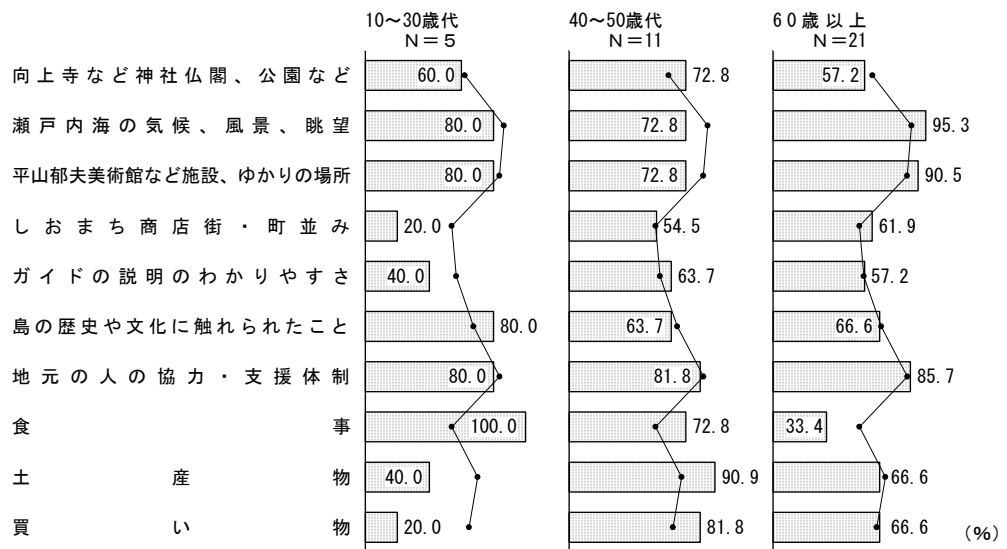


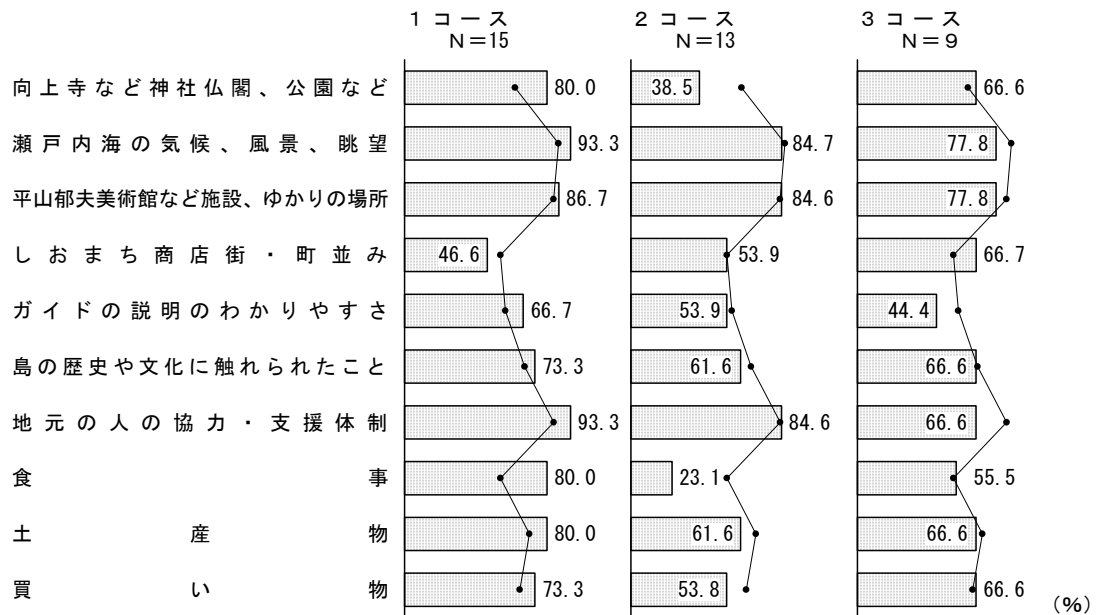
図 年齢別共通コースの満足度（「満足」+「やや満足」を合わせた割合）



注：男女別及び年齢別折れ線グラフは全体の割合。

参加コース別では、2コースで「向上寺など神社仏閣、公園など」、「食事」、3コースで「ガイドの説明のわかりやすさ」の評価が低くなっている。

図 参加コース別満足度（「満足」+「やや満足」を合わせた割合）



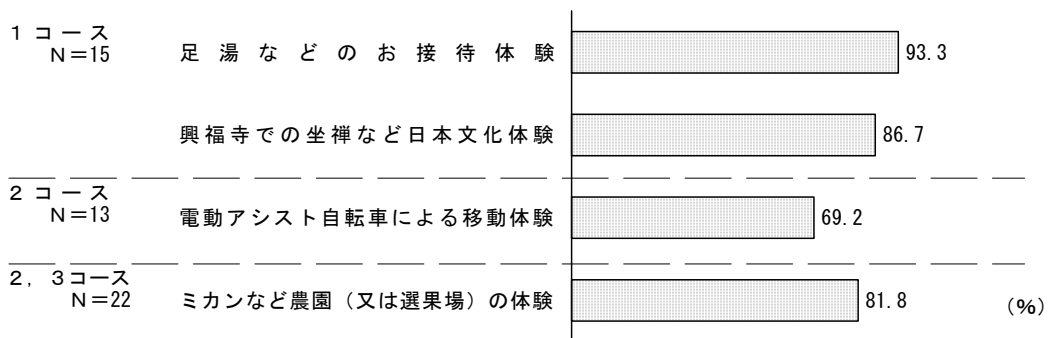
注：コース別の折れ線グラフは全体の割合。

(イ) コース別の満足度

1コース参加者の満足度は、「足湯などのお接待体験」93.3%、「興福寺での坐禅など日本文化体験」86.7%で、非常に高い評価になっている。

2コース参加者の満足度は「電動アシスト自転車による移動体験」で69.2%、2、3コースの参加者は「みかん農園体験」で81.8%になっている。

図 参加コースの満足度

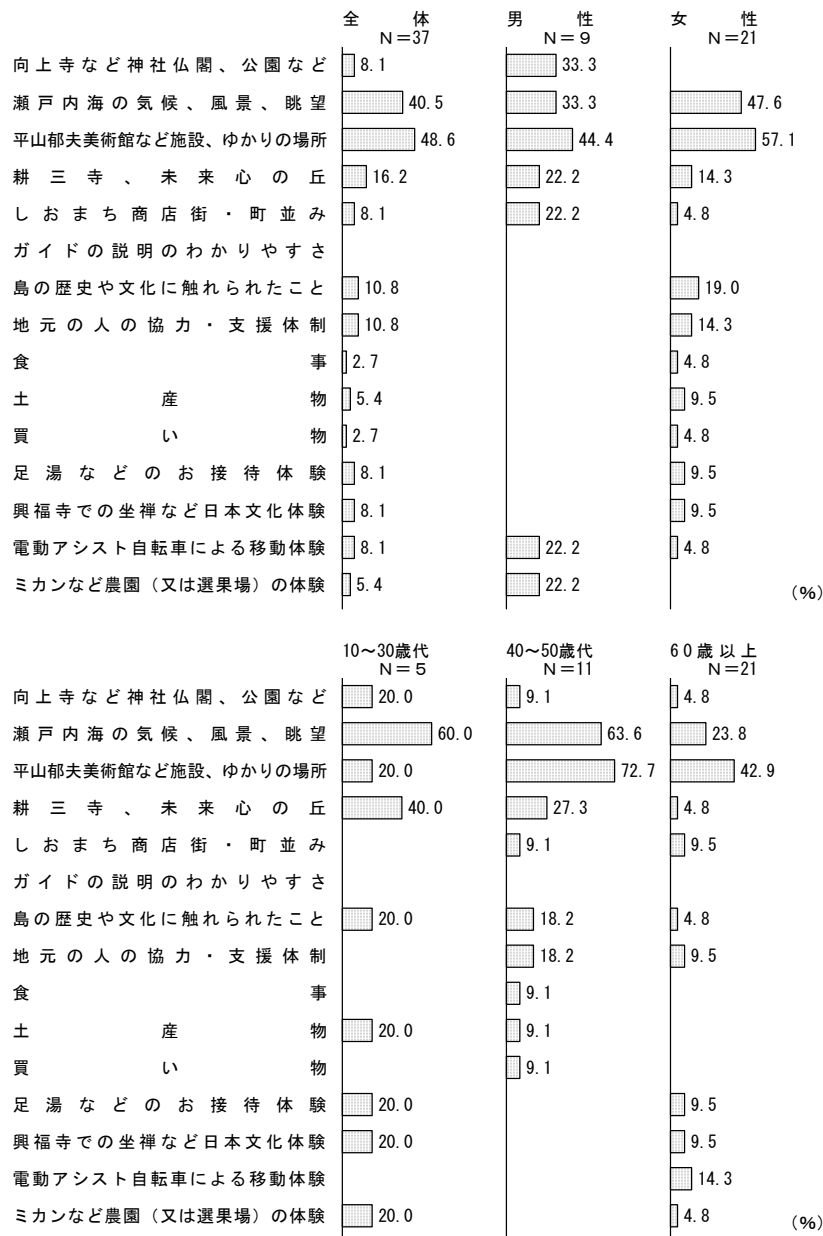


エ. 瀬戸田町のイメージやシンボルとして評価されるもの

(ア) 現状で高く評価される項目

瀬戸田町イメージやシンボルとして現状で高く評価されるものとして挙げられた項目は、「平山郁夫美術館など施設、ゆかりの場所」48.6%、「瀬戸内海の気候、風景、眺望」40.5%で、この2項目を挙げた人の割合が高くなっている。その他の項目は20%未満で、「耕三寺・未来心の丘」、「島の歴史や文化に触れられたこと」、「地元の人の協力・支援体制」の3項目が10%台になっている。一方、旅行の楽しみである「食事」、「土産物」、「買い物」を挙げた人はわずかで、瀬戸田町らしさが感じられない結果になっている。

図 現状で高く評価される項目（複数回答：3つ以内）



※全体数（N）には無回答を含む

(イ) 将来伸びて欲しい、または期待される項目

瀬戸田町イメージやシンボルとして将来伸びて欲しい、または期待される項目としては、「しおまち商店街・町並み」が21.6%で最も割合が高く、次いで「向上寺など神社仏閣・公園など」及び「平山郁夫美術館など施設、ゆかりの場所」16.2%、「食事」13.5%、「足湯などのお接待体験」10.8%等の順になっている。

また、現状で高く評価される項目での割合と比較すると、現状での評価が高かった「瀬戸内海の気候、風景、眺望」、「平山郁夫美術館などの施設、ゆかりの場所」は10%台と低くなっている。一方、「向上寺など神社仏閣、公園など」、「しおまち商店街・町並み」、「食事」については、現状の評価の2倍以上の割合になっている。

図 将来伸びて欲しい、または期待される項目（複数回答：3つ以内）



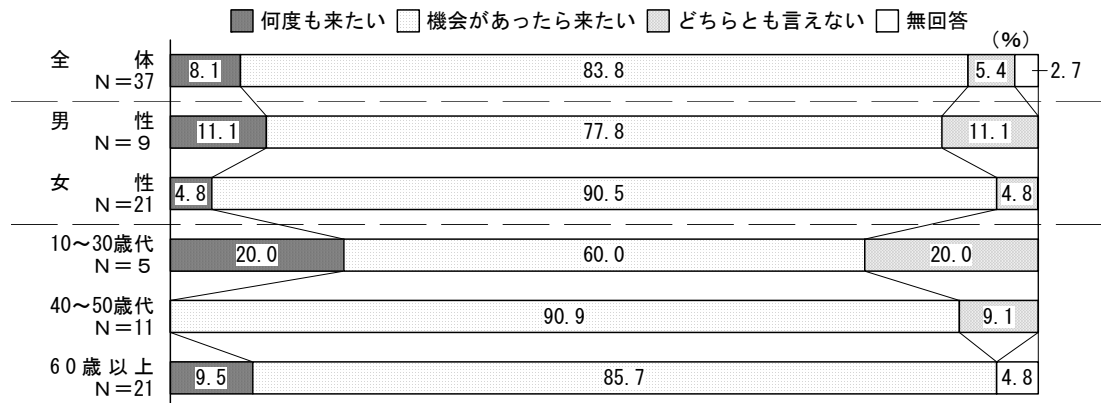
注：折れ線グラフは、現状で高く評価される項目の割合。全体数（N）には無回答を含む。

オ. 瀬戸田町への再訪意向

瀬戸田町へ「何度も来たい」8.1%、「機会があったら来たい」83.8%で、これらを合わせた瀬戸田町へ再訪する意向のある人は91.9%とほとんどを占めている。

ただし、今回のモニターツアーを踏まえて積極的に来たいと思っている人は10%未満である。

図 瀬戸田町への再訪意向

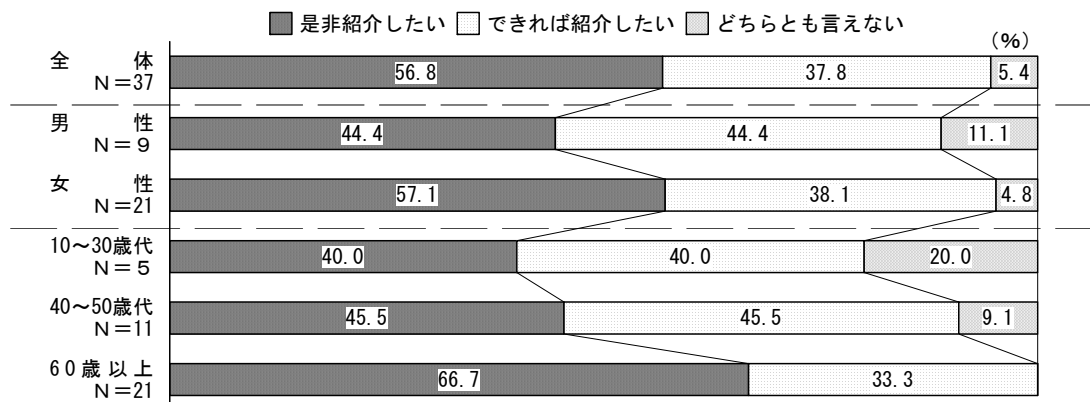


カ. 瀬戸田町を他の人に紹介する意向

瀬戸田町を他の人に紹介する意向については、「是非紹介したい」56.8%、「できれば紹介したい」37.8%で、これらを合わせた瀬戸田町を紹介する意向のある人は94.6%とほとんどを占めている。

また、「是非紹介したい」と答えた人は、女性や60歳以上で割合が高くなっている。

図 瀬戸田町を他の人に紹介する意向

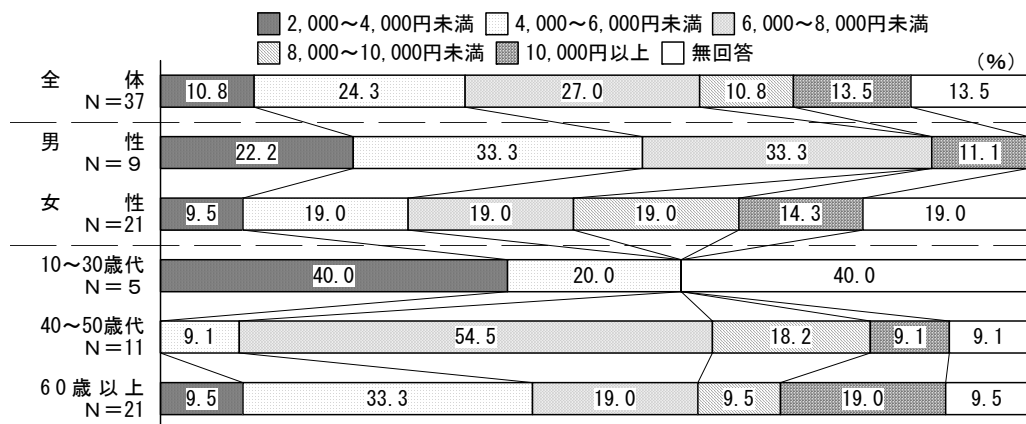


キ. 今回のモニターツアーの旅行代金について

(ア) 交通費を含めた旅行代金

今回のモニターツアーの交通費を含めた旅行代金は、「6,000～8,000円未満」が27.0%で最も割合が高く、次いで「4,000～6,000円未満」24.3%、「10,000円以上」13.5%、「2,000～4,000円未満」及び「8,000～10,000円未満」10.8%になっており、6,000円以上と答えた人が5割以上になっている。

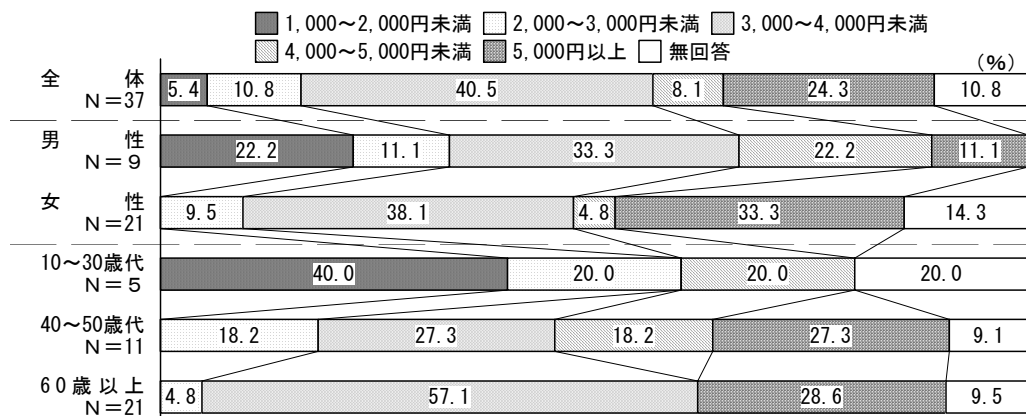
図 交通費を含めた旅行代金



(イ) 交通費を含めない瀬戸田町内での旅行代金

今回のモニターツアーの交通費を含めない瀬戸田町内での旅行代金は、「3,000～4,000円未満」が40.5%で最も割合が高く、次いで「5,000円以上」24.3%、「2,000～3,000円未満」10.8%、「4,000～5,000円未満」8.1%、「1,000～2,000円未満」5.6%の順になっており、3,000円以上支払っても良いと考えている人が7割以上になっている。

図 交通費を含めない瀬戸田町内での旅行代金

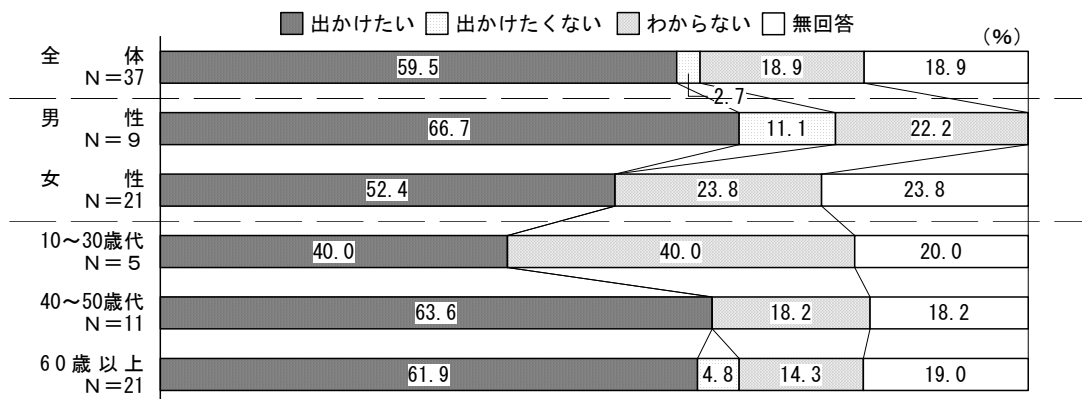


ク. しまなみ海道の周遊観光の意向

しまなみ海道の周遊観光の意向としては、「出かけたい」と答えた人が59.5%で約6割になっている。しまなみ海道を目的地として、あるいはしまなみ海道を經由して中国・四国を行き来したい人が多いことがわかる。

「出かけたい」と答えた人を性別、年齢別にみると、性別では男性、年齢では40歳以上での割合が高くなっている。

図 しまなみ海道の周遊観光の意向



③自由意見

自由意見の記入件数は23件，記入率は62.2%である。自由意見の内容を項目別に整理すると50件で、その内容は次のとおりである。

表 自由意見のまとめ

大区分	小区分	内 容
ア モニターツアー 全体について(6)	肯定的な意見(1)	・再訪したい(1)
	改善を求める意見 (5)	・スケジュールがハード(2) ・細やかなもてなし(1) ・バスツアーが良い(2)
イ スタッフ等地元 のもてなし、ガイド について(13)	スタッフについて (6)	・もてなしを評価する意見(5) ・女性スタッフの参加を要望する意見(1)
	ガイドに対する不 満 (7)	・聞こえにくい、ハンドマイク必要(3) ・説明が不十分(3) ・ガイドのレベル差(1)
ウ 体験コースにつ いて(10)	評価する意見(6)	・コース全体が良い(1) ・レモン足湯(3) ・坐禅(2)
	改善を求める意見 (4)	・坐禅の時のスタッフの私語(1) ・自転車で景色を見ながらのんびり走るこ とが出来なかった(1) ・平山郁夫美術館の見学時間が短い(1) ・若者に魅力があるか疑問(1)
エ 食事について(3)		・浜子鍋の味が濃い(3)
オ 土産物について (3)	土産物に特色があること(1)	
	土産物へ要望(2)	・お持ち帰り弁当が欲しい(1) ・商店街での土産物の開発(1)
カ 旅行代金につい て (2)	旅行代金を安くす ることへの要望(2)	・尾道～今治までのシャトルバス運行(1) ・外国人に対する交通料金の割引(1)
キ 観光地としての受入れ体制について (7)		・汐待亭のトイレの整備、洋式トイレ(2) ・バリアフリーへの対応(1) ・案内標識の整備(1) ・休息施設(カフェ等)の整備(1) ・情報発信体制の整備(1) ・英語案内表示の強化(1)
ク 瀬戸田町への再訪について(3)		・泊まりがけで再訪する意向(2) ・再訪する意向(1)
ケ 今後の取組について(3)		・自転車の活用(1) ・地域特性を活かした企画(1) ・来訪者と地元の人との意見交換(1)

参考 個別自由意見

ア. モニーツアー全体について

- ・友人に誘われて参加したが、とても楽しかった。何度もこちらに来ているが、町のことを詳しく聞いて、皆さんを誘ってまた来たいと思う。
- ・とても素晴らしい景色があるのだから、もっとゆっくりとした時間が欲しかった。
- ・60才代の者として、今日のスケジュールは少しハードだったかなと思った。
- ・もう少し、細やかな面があるとリピーターも増えるのではないかと思う。街歩きで他地域（例：高山市）では無料で1品ずつ、特産物（品）を配布され、街歩きが楽しかったことがあった。
- ・マイカーで行くファミリーでの瀬戸田の来訪は、瀬戸田の良さがわからないと思う。団体でのバスツアーがベスト。（ガイド付きということ）
- ・個別の旅行ではきっと見逃していたようなビューポイントに連れて行ってもらったり、坐禅の体験ができたり、とても楽しめた。市内から瀬戸田周辺に来るにはお金もかかるし、交通手段に困るので、乗り合わせて来られると助かる。

イ. スタッフ等地元のもてなし、ガイドについて

(ア) 地元のもてなし

- ・現地の人と一緒に観光は素晴らしい。
- ・地元のスタッフの説明やガイドさんが付いてくれる楽しさが増す。
- ・瀬戸田のスタッフの皆さんが一所懸命頑張っておられる様子を声援を送りたい。
- ・町おこしに頑張ってもらいたい。
- ・スタッフの人に親切に案内してもらった。瀬戸田の良さに少し触れることができた。
- ・地域の女性ともっと一緒にやりたかった。ほとんど話ができなくて残念。

(イ) ガイドについて

- ・案内の人にハンドマイクを持たせて頂きたい。聞き取りにくいので。
- ・ガイドの人はハンドマイクを使用したら良いと思う。
- ・案内の声が聞き取りにくい。
- ・ガイドが今一つ、説明不足。
- ・ガイドさんの説明をもう少し丁寧にして欲しい。
- ・向上寺でのガイドさんにもっと歴史的なこと、エピソードなど教えてもらいたいと思った。
- ・ガイドさんにレベル差がありすぎ。もっと研修した方がいいのではないか。

ウ. 体験コースについて

- ・大変良い企画だと思う。
- ・レモン足湯がとても気持ちよかった。（同様の意見が複数あり）
- ・坐禅は良い体験だった。
- ・何度か来たが、今までに見学したことのない所に行き、坐禅などの体験ができ、町の方達とのふれあいが楽しい一日だった。
- ・地元の方が協力されているのはよくわかったが、坐禅の時、私語が聞こえてきてせつかくの静かな雰囲気が損なわれた。
- ・電動アシスト自転車+みかん農園を見る体験は、運動体験+みかん学習体験ができ、大変よかったが、自転車で風景を楽しむということは難しかった。のんびり走るといふのは違うので。
- ・最後、平山美術館で時間が足らず、足早になってしまったのが残念。各コースから帰ってからの動きを美術館集合にするなどにしたらもっと有効に使えたと思う。
- ・平山美術館は時間がなく、充分拝見できなかったのが残念。
- ・若者に魅力あるコースかどうかは疑問。

エ. 食事について

- ・食事はもう少し薄味が良い。
- ・食事の浜子鍋はもう少しだしや野菜などを加えないと味が濃すぎたと思う。

オ. 土産物について

- ・お土産も特色があり、手作りのあたたかさを感じた。
- ・土産売場で“お持ち帰り弁当”としてサバ寿司、あなご寿司、コロッケ等を買って欲しい。夕方、帰路につくので、家に帰ってすぐ食べられる美味しいものが欲しい。
- ・しおまち商店街ではもっと色々な店でお土産となりそうな物を開発するとよいと思う。
(例：ふとん店さんの前のお土産屋さんがとっても繁盛しているので、観光客向けに何か商品があると思った。)

カ. 旅行代金について

- ・今回はバスで来ることができたので、旅費は押さえることができたが、もし、個人で来ると瀬戸田まで渡ると高くなってしまう。尾道から今治まで(フリー) シャトルバスが出る等、もっと観光客が行き来しやすい環境を作ることが大事だと思う。
- ・外国人には施設を 10%割引等、今のままの交通料金では高すぎて来たいと思わないかもしれない。

キ. 観光地としての受入体制について

- ・汐待亭のトイレを改善して頂きたい。
- ・汐待亭のトイレをきれいに、洋式トイレをつくって欲しい。
- ・名所+地元の食事+体験を組み合わせた企画をPRすること、情報発信が大事。
- ・寺など、階段に手すりがあったら良いのにと感じた。
- ・案内標識が少なく、何処に何があるかわかりにくい。地図も字が小さくて見にくい。
- ・カフェをつくって、休憩ができる所が増えるとよいと思う。
- ・島内は英語のインフォメーションが少なく、働いている方も今は英語対応が難しいと思う。英語で対応できるように練習するとよいと思う。
- ・しおまち商店街がもう少し、明るい感じだといいいのに。素通りする商店に感じた。

ク. 瀬戸田町への再訪について

- ・次は1泊ツアーにして来たい。景色の良い所がいろいろあるということを知ることができた。もう少し、時間をゆっくりとって来たい。
- ・次回は泊まりがけでもっとゆっくり歩いてみたい。
- ・もっと島の歴史を勉強したい。

ケ. 今後の取組について

- ・自転車を活かしたい。
- ・しおまち商店街を活気あふれる通りにするにはどうしても集客力だと思う。平山美術館からのお客を商店へと導くためには何をどうすればよいのか。みかんの花咲く頃、青いレモン、収穫と体験をする企画がいいのでは。
- ・地元の人に役立つことがあれば何かしたい。時間が許せば、みんなで話し合う機会（場）が欲しいと思う。

(3) 外国人アンケート調査結果

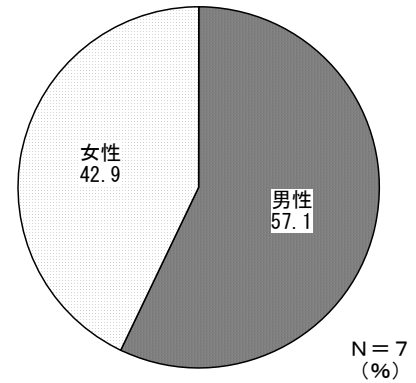
外国人は、参加した9人の内7人が回答している。

①回答者自身のこと

ア 性別

性別は「男性」57.1%、「女性」42.9%である。

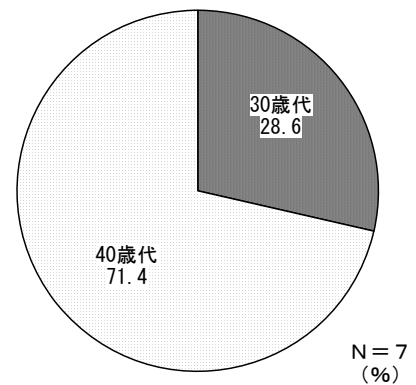
図 性別



イ 年齢

年齢は「30歳代」28.6%、「40歳代」71.4%である。

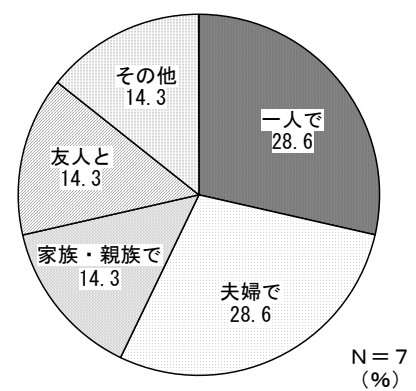
図 年齢



ウ 今回の同行者

今回の同行者は、「一人で」及び「夫婦で」28.6%、「家族・親族で」、「友人と」及び「その他」14.3%である。

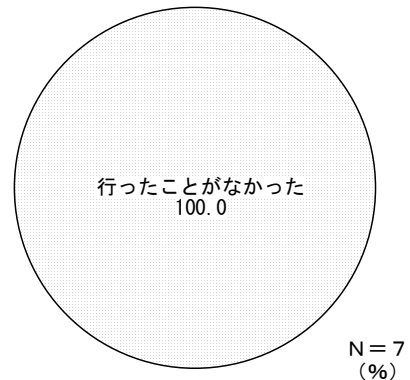
図 今回の同行者



エ 過去の瀬戸田町への来訪の有無

過去の瀬戸田町への来訪は、全員「行ったことがなかった」と答えている。

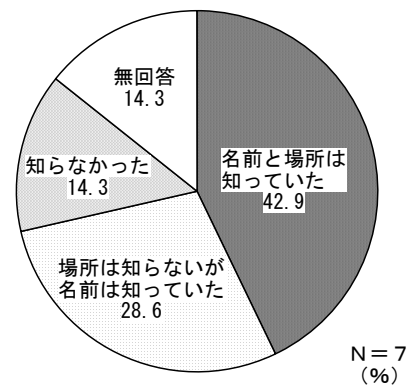
図 過去の瀬戸田町への来訪の有無



オ 過去瀬戸田町へ行ったことがなかったと答えた人の瀬戸田町の認知状況

瀬戸田町の認知状況は「名前と場所は知っていた」が42.9%で最も割合が高く、「場所は知らないが名前は知っていた」28.6%、「知らなかった」14.3%の順である。

図 瀬戸田町へ行ったことがなかったと答えた人の瀬戸田町の認知状況

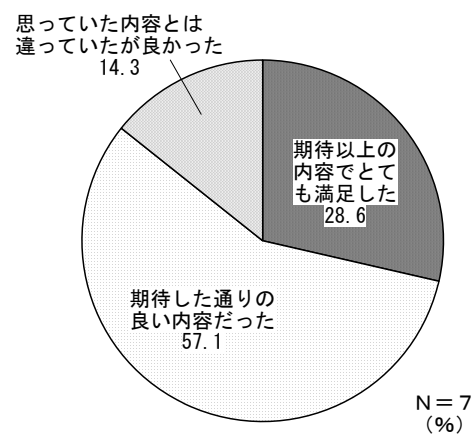


②モニターツアーの評価

ア モニターツアー全体の評価

モニターツアー全体の評価は、「期待した通りの良い内容だった」が57.1%で最も割合が高く、次いで「期待以上の内容でとても満足した」28.6%、「思っていた内容とは違っていたが良かった」14.3%の順になっている。

図 全体を通しての満足度



イ モニターツアーに関する具体的な意見

モニターツアーでの期待以上だった点・良かった点、期待はずれだった点・悪かった点についての記述は、次のとおりである。

(7) 期待以上だった点・良かった点

- ・興福寺、平山美術館。
- ・向上寺の訪問、島の周りを歩く。
- ・平山郁夫美術館、座禅、町歩き
- ・全てが素晴らしかった。

(イ) 期待はずれだった点・悪かった点

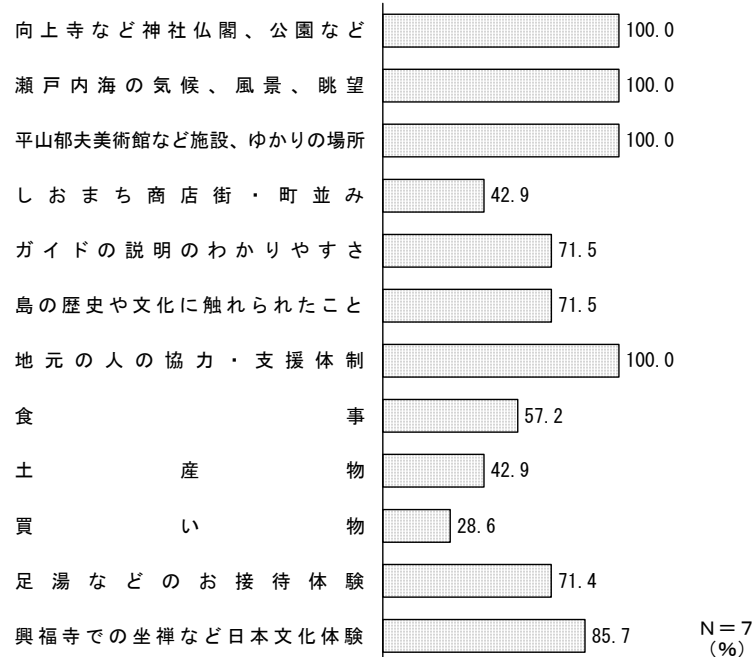
- ・商店街。
- ・残念だが、私は個人的におかゆが好きではなかった。
- ・より多くの説明が欲しい、町の周りの散歩。

ウ コースの満足度

それぞれの項目について「満足」と「やや満足」を合わせた満足している人の割合をみると、「向上寺など神社仏閣、公園など」、「瀬戸内海の気候・風景・眺望」、「平山郁夫美術館など施設、ゆかりの場所」及び「地元の人との協力・支援体制」の4項目は全員が満足している。また、「興福寺での坐禅など日本文化体験」85.7%、「ガイドの説明のわかりやすさ」及び「島の歴史や文化に触れられたこと」71.5%、「足湯などのお接待体験」71.4%で、これら4項目の評価も高くなっている。

一方、「しおまち商店街・町並み」、「土産物」、「買い物」の3項目は50%未満と評価が低くなっている。

図 コースの満足度（「満足」＋「やや満足」を合わせた割合）

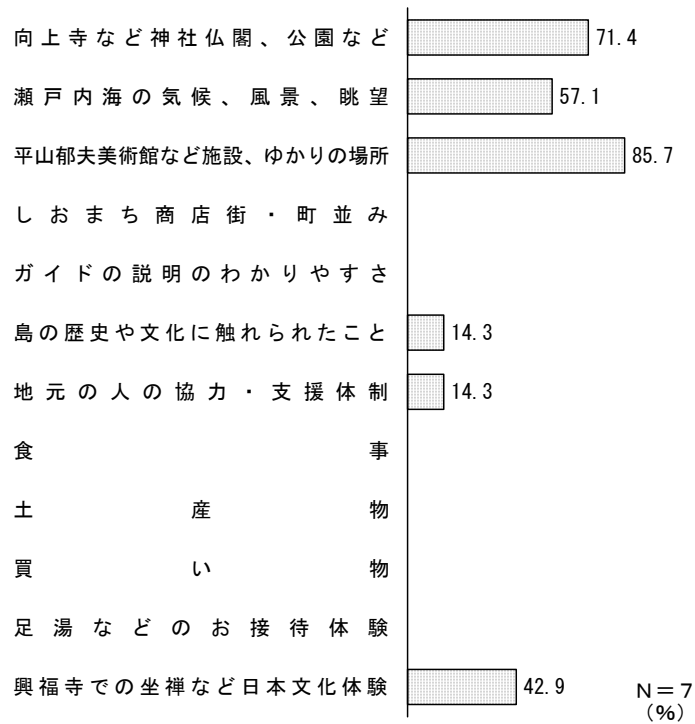


エ 瀬戸田町のイメージやシンボルとして評価されるもの

(ア) 現状で高く評価される項目

瀬戸田町のイメージやシンボルとして現状で高く評価されるものとして挙げられた項目としては、「平山郁夫美術館など施設、ゆかりの場所」が85.7%で最も割合が高く、次いで「向上寺など神社仏閣、公園など」71.4%、「瀬戸内海の気候・風景・眺望」57.1%、「興福寺での坐禅などの日本文化体験」等の順になっている。

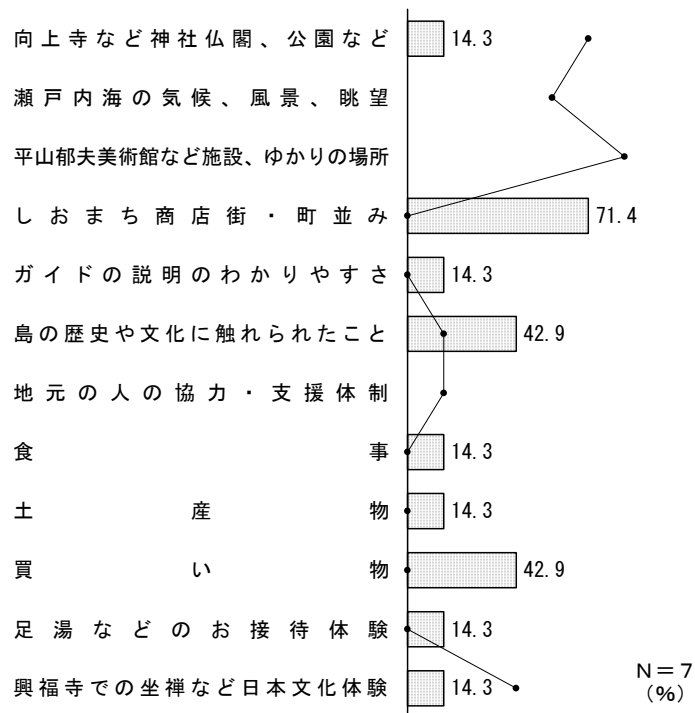
図 現状で高く評価される項目（複数回答：3つ以内）



(イ) 将来伸びて欲しい、または期待される項目

瀬戸田町イメージやシンボルとして将来伸びて欲しい、または期待される項目としては、「しおまち商店街・町並み」が71.4%で最も割合が高く、次いで「島の歴史や文化に触れられたこと」及び「買い物」42.9%等の順になっている。

図 将来伸びて欲しい、または期待される項目（複数回答：3つ以内）



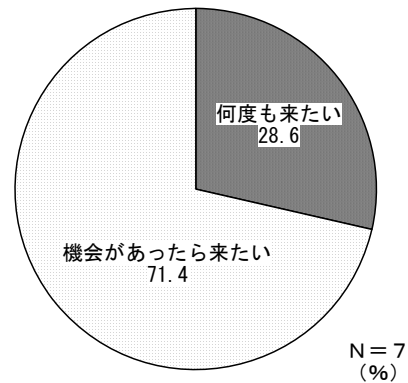
注：折れ線グラフは、現状で高く評価される項目の割合。

オ 瀬戸田町への再訪意向

瀬戸田町へ「何度も来たい」28.6%、「機会があったら来たい」71.4%で、全員が瀬戸田町へ再訪する意向を持っている。

ただし、今回のモニターツアーを踏まえて積極的に来たいと思っている人の割合は低い。

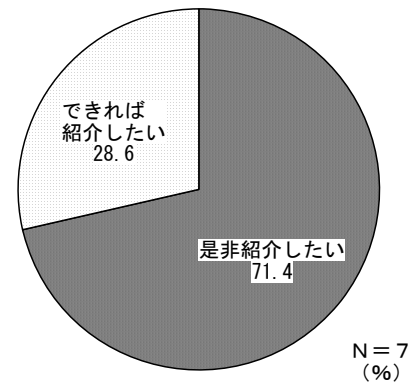
図 瀬戸田町への再訪意向



カ 瀬戸田町を他の人に紹介する意向

瀬戸田町を他の人に紹介する意向については、「是非紹介したい」71.4%、「できれば紹介したい」28.6%で、全員が瀬戸田町を紹介する意向を持っている。

図 瀬戸田町を他の人の紹介する意向

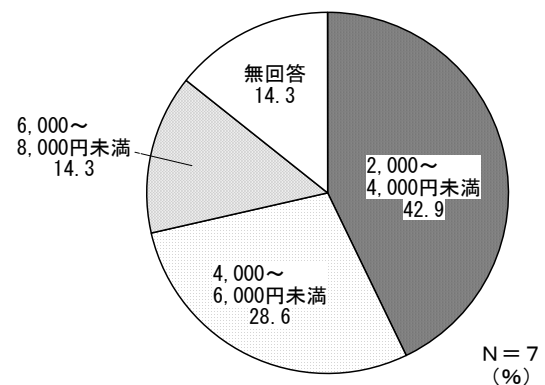


キ 今回のモニターツアーの旅行代金について

(ア) 交通費を含めた旅行代金

今回のモニターツアーの交通費を含めた旅行代金は、「2,000～4,000円未満」が42.9%で最も割合が高く、次いで「4,000～6,000円未満」28.6%、「6,000～8,000円未満」14.3%の順になっている。

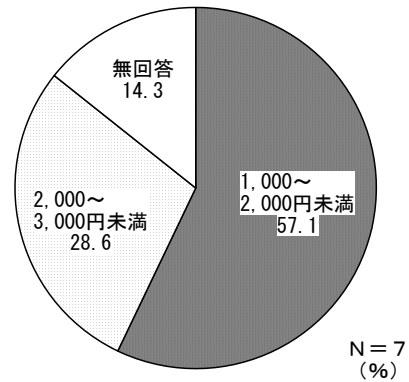
図 交通費を含めた旅行代金



(イ) 交通費を含めない瀬戸田町内での旅行代金

今回のモニターツアーの交通費を含めない瀬戸田町内での旅行代金は、「1,000～2,000円未満」が57.1%で最も割合が高く、次いで「2,000～3,000円未満」28.6%の順になっている。

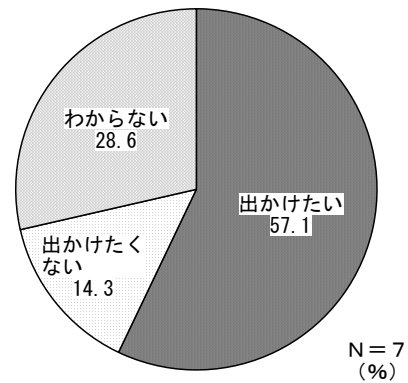
図 交通費を含めない瀬戸田町内での旅行代金



ク しまなみ海道の周遊観光の意向

しまなみ海道の周遊観光の意向としては、「出かけたが」と答えた人が57.1%で約6割になっている。

図 しまなみ海道の周遊観光の意向



③自由意見

自由意見を記入した人は1人で、その内容は次のとおりである。

- ・平山郁夫美術館の英語の説明をもう少し増やして欲しい。
- ・閉まっている店舗が多すぎる。しおまち商店街の空店舗の有効活用。(レストハウス、アートギャラリー等。)
- ・ここでフィットネスツアーをしたい。(自転車、ランニング、山登りなど)

(4) 外国人通訳ガイド

外国人通訳ガイド（英語及び中国語2人、韓国語1人）に対するアンケート結果は、次のとおりである。

表 外国人通訳ガイドに対するアンケート結果（各項目について自由記述）

項目	良かった点	悪かった点・改善点
ア ツアー全体について	<ul style="list-style-type: none"> ・とても良かった。サイクリングなどで見て回れると最高。 ・それぞれの場所でゆっくり出来た。 ・時間を有効に把握されていて、スムーズに見学することが出来て良かった。内容も充実していて、楽しかった。 ・瀬戸田を自由にゆっくり歩いたことがなかったので、大変興味深かった。特に、平山郁夫美術館は瀬戸田の宝と思う。ここには是非、お客様と何度も来たいと思う。 	
イ 瀬戸田の魅力について/商店街、町並み、歴史文化など	<ul style="list-style-type: none"> ・のどかで人が優しく、島・海は静かで美しい。 ・向上寺の三重塔が素晴らしいのもっと知りたい。 ・各住宅の前に置いてある草花がきれいで気持ち良かった。 ・耕三寺周辺がきれいになったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さびれた感じが否めない。開いているお店が多いと良い。 ・商店街でシャッターが下りている店が多く、寂しい。 ・向上寺の参道をもう少し楽しく散策出来るようになって欲しいと思うが、今風のきれいすぎるテーマパーク的整備ではなく、昔の姿を取り戻して欲しい。 ・美術館の展示品について、英語の説明があると外国人に理解してもらえる。 ・瀬戸田の玄関の港から商店街のあたりが寂しい。
ウ 体験内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・興福寺の体験は全て興味深かった。 ・住職さんがとても親切に指導して下さり、良かった。 ・和尚さんの説明が分かりやすかった。 ・足湯の発想が良かった。 ・あえて粗食というのが良かった。禅宗の修行をかいまみた感じで新鮮な体験。和尚さん説明が簡潔でわかりやすかった。 ・質素な食事内容だったが、「物を大切に作る心」を学ぶことが出来た。禅宗の修行は厳しいものがあると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見所もあるが、ちょっと地味な印象。 ・坐禅の時間が長く、耐えられない人もいた。（10～15分が良いかも。） ・坐禅は良かったが時間が長過ぎた。15分位が妥当だと思う。 ・おかゆの体験は外国の人にはちょっと難しい。特に全部洗って食べる所。代わりに坐禅の後、Q&Aと抹茶とお菓子はどうか。Q&A＝宗教について興味のある人は多い。実際に住職の話聞くことが出来れば喜ばれると思う。 ・禅体験の一環なので仕方ないが、韓国人だと量が少ない。

エ ガイドについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア・ガイドさんがいて良いと思う。 ・途中でガイドが代わったので、(違う人について行ったので)何とも言えないが、親切で手元の資料も調べて正確に教えて下さった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声が小さくて聞こえないガイド、説明不十分なガイドがいたのが残念。ガイドの心得についてもう一度、勉強される必要があると思う。 ・ガイドの声が小さい。もっと感情を込めて紹介して欲しい。(この町を本当に愛している気持ちが伝わるように、来てくれて嬉しいとの思いとか。 ・年代は西暦に変える。
-----------	---	--

表 外国人通訳ガイドに対するアンケート結果（各項目について自由記述）

項 目	良かった点	悪かった点・改善点
オ 土産物について	<ul style="list-style-type: none"> ・みかんのなっている時期だと最高。 ・柑橘が安くて新鮮で良い。 ・日本人の私はレモンが安かったので良かった。 ・ジェラートのお店は外国の人にも人気。 ・買い食いできるコロッケが良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロッケの味はがっかりした。手作りのものが良かった。 ・他の土地にはないものがあつた ・地元の特産品、海産物をもっと販売して欲しい。 ・乾物など地元で採れる海の幸をもっと活用していただければ嬉しい。
ク 観光地としての受入体制について		<ul style="list-style-type: none"> ・個人旅行が主になるのではと思われるので案内標識がもっと充実していると分かり易い。 ・ネット（韓国語）での情報発信は必須。 ・良いが、ウェルカムドリンクをもっと出されても良い。 ・もっと案内標識が欲しい。 ・街の人がお客さん声をかけるようにするともっと親しみを感じる。活気がない。(人の声があると温かく感じる。)
ケ しまなみ海道他、他の観光地との連携・周遊等について	<ul style="list-style-type: none"> ・連携・周遊は、観光の要である。 ・広島からしまなみ海道を通り、愛媛というコースならまだよいかも。何処かと連携しないと単独ではかなり厳しい。 ・平山郁夫さんについてもっと知識があれば美術館のことをよく理解してもらえと思う。 ・今回は耕三寺がなかった。時間的なものもあると思うが耕三寺にも行きたい。お母様の家は外国の人に人気があり、ここから倉敷に行くのもよと思う。 ・広島から来る人には、広島の資料館の壁画を紹介しておきたい。 	
コ その他		<ul style="list-style-type: none"> ・坐禅体験の時、外がうるさかった。スタッフにもお客さんの気持ちを配慮して、静かにして欲しかった。お食事の時もスタッフの声が大きかった。気配りが欲しい。せっかくの坐禅体験が台無しです。

(5) スタッフアンケート

モニターツアーにスタッフとして参加した人 12 人の内、7 人の意見を整理すると次のとおりである。

①モニターツアー全体に関すること

ア 参加者の印象

- ・皆さん楽しんでいた。
- ・今回のモニターツアーはなかなか良かったと思う。

イ 全体運営について

- ・本部担当の地元スタッフが必要。
- ・スタッフ名簿と担当一覧表が無いので当日の地元スタッフが誰か分からない。スタッフミーティングが必要。
- ・今回は、汐待亭において全体（3 コース）の動向を見たが、本部を置く体制は（コース数に関係なく）必要と思う。
- ・汐待亭に関しても、当日誰が開けるのか詳細な検討が必要であった。中は荷物の山であり、前日の準備が必要。
- ・ボランティアガイドの 1 人が当日の朝電話で頼まれ、内容説明も無く困惑していた。

ウ 各コースへのスタッフ配置（レモン足湯。坐禅体験）

- ・スタッフの数も足りていたと思う。
- ・午後の準備のため、午前の共通コースは参加しなかったのによく解らないが、午後は男性スタッフは 6 名（ツアー参加者は 25 名）だった。
- ・一番時間を要したのはやはりレモン足湯だったが、25 名参加だとやはりスタッフが 6 名は必要であるが、7 名にする必要はないと思う。

エ コースの時間配分について

- ・天候に恵まれ良かったが、アンケートを見ていないので時間的にどうだったのか心配である。熟年世代にはタイトなスケジュールだったのではないか。
- ・コースは日帰りにはタイトな時間設定ではないかと思った。ゆったり座ってお茶を飲みながら地元の方と話をすると良いと思う。

オ その他

- ・試みとしては良かった。特に、農家との連携がとれたのは良かった。
- ・今後は、本格的な農業体験ツアーを企画してみてもどうか。
- ・お客様個々のニーズが異なり、農園として個人対応も必要と思った。

②昼食及び土産物について

ア 料理の紹介について

- ・料理の説明があると良いのでは。料理のイメージが変わる。

イ 調理・土産物について

- ・興福寺の食事（お粥）は、満足度に少し問題があったように思う。おいしかったという余韻が欲しい。
- ・浜子鍋は、味付けが塩辛く不評だった。
- ・浜子鍋の商品化を進めたらと思う。
- ・「千鳥」で蛸づくしを食べた。非常においしかった。新鮮な蛸の刺身は、普段中々味わうことが無いので、満足した。

ウ 土産物について

- ・他に、特産物の加工食品が増えると良いと思う。
- ・昔小町の「せんべい」は、思わず買ってしまった。ああいったものが増えるとお金を落としやすいのではと思った。

③各コースの問題点、反省点、改善点（参加されたコースについて）

ア 午前中の共通コース

(ア) 時間配分について

- ・ガイドの方の話を聞きながらゆっくり回ると、スケジュールの時間より、あと30分程度増やしても良いかもしれない。ガイドの方の話が興味深く、瀬戸田の歴史を知ることによって景色も違ったように見えた。

(イ) 説明について

- ・興福寺の準備で当日は参加できなかったが、以前のツアーで、2回ほど周ったが（この2回は、知識がなかったので勉強のため説明を聞く役）、古い家屋や井戸等、昔の生活を思わせる説明に非常に興味をそそられた。また、瀬戸内海には何故造船所が多いのか、昔話にまつわる石像、汐待ち風待ちの意味などが面白かった。（平山館長がガイドをされた時の印象）
- ・国宝三重の塔は、京都や奈良でもっとすごいを見ていたせいか、イマイチだったが説明を考えれば、面白い塔だと思う。（向上寺住職に話を聞いてみたい。）
- ・向上寺の住職による案内があれば、満足度がより高まるように思う。
- ・向上寺周辺は、遊歩道の整備が優先事項だと思う。足が悪い方が一部おられたが、手すりさえない階段があり、非常に辛そうだった。
- ・私達農家も多忙だが、観光ボランティアガイドとしての知識を深めたいと思う。

イ 午後のコース

(7) レモン足湯・坐禅体験

- ・特に大きな問題点はなかった。
- ・ほぼ全員の方が初めての経験のようだった。評価は、一様に「面白かった。よい経験をさせてもらった」と言われていた。「これこれ、良くない」という言葉はなかった。
- ・我々スタッフはホッと胸を撫で下ろしたと言うより嬉しく、やってよかった！との思いを持った。
- ・住職は開始前から「このやり方で良いのだろうか？」と大変心配していたが、参加者の声を聞いて、笑顔になっていた。
- ・レモン足湯・坐禅コースは、スタッフと参加者の一体感がもう少し必要である。

<コース人数>

- ・このコースは 25 名参加で、できない人数ではないがやはり少し多いと思う。最大でも 20 名までが良い。スタッフ及び住職は休憩なしで大変だったと思う。

<レモン足湯>

- ・レモンの足湯は、香りがよくお客さんには大変好評だった。
- ・レモン足湯は良かったと思う。
- ・25 名中 20 名が経験した。(外国人 9 名、日本人 11 名)
- ・最初は熟年世代のみ 4～5 名の足湯だったが、強く勧めたところ、外国人参加者も入られ、先の終わった人のお湯とレモンをバサバサ捨てて、お湯もレモンも新しい物に替えたら「え？全部新しく入れ替えてくれるの？」という感で、靴下を脱いで待っている状態になった。やはり、当初は衛生上のことを気にしていたのかと思う。すごく評判が良く、一様に「これは良い。いい気持ち！」で、なかなか出てくれず、大幅に予定時間をオーバーしてしまった。
- ・最初から「入りません」と言っていたのは外国人女性 1 人だけで、あとの 4 人は、入る時間が無かった人もいると思う。
- ・外国人参加者で、禅の時間に「もう 1 回入りたい」と言って出て来られ、再度楽しんでいた。

<坐禅>

- ・坐禅も皆さん初めての体験で、興味深く体験されていたように思う。塩粥も含めてミニ修行みたいな感じで喜んで頂けたと思う。

<興福寺の受入れ>

- ・強いて言えば、スタッフも大変だったが、興福寺さんの「お粥作り」が大変だったようである。
- ・檀家が少ないとのことで、大鍋がなく、家族総出で何回も作られていた。

<その他>

- ・参加者に体験記念として、絵馬に思い出、感想、願い等を筆で書いて残してもらったらどうか。

(イ) 高根島サイクリング・柑橘学習体験

<時間配分について>

- ・当初予定の時間配分では、短いかなと思っていたので、早めに出発して良かった。
- ・途中橋の上などで止まってゆっくりすればいいのに、すぐに畑に到着してしまい、参加者は自転車に乗り足らなかったようである。
- ・自分も一緒に自転車に乗り、途中で島の話などしながら案内した方が良かったと思う。
- ・地元スタッフが自転車で参加して道案内をすることが大事。

<ツアーコースについて>

- ・今回は自転車2割、ミカン園8割位の体験比率だったが、もう少し自転車での島体験が要望であれば数か所の園地を自転車で回ってもいいと思う。
- ・一園地で多くの品種を味わってもらおうとしたため足元の悪い所も歩いてもらい、大変だった人もいたと思う。
- ・大変素晴らしいもてなしと思うが、急傾斜にある畑を3回も移動したのは辛いものがあったと思う。
- ・風があり寒いので畑の中に集まった。温かい日であれば海岸に集まり、砂浜を散策してほしかった。
- ・ミカンの品種や栽培の様子など実際の園地でいろいろ話をすることができ、瀬戸田のミカンの事をよく理解してもらったと思う。

<自転車について>

- ・自転車に不慣れな参加者が3名いた。
- ・アシスト自転車の運転の仕方が分からない人がいた。最初によく説明しておく必要がある。登り坂で変速の仕方がよく分からず重いまま運転したり、下り坂で急に加速したり、怖かった人もいる。

(ウ) 柑橘学習体験

- ・紅八朔収穫体験に参加されたお客様に、何も考えず無になれる時間がとれたことに喜びを感じてもらったと思う。
- ・みかん狩りは、参加者誰もおもしろかったと思う。摘みだすと止まらなくなるが、今回の時間配分では長過ぎて、時間を持て余すと思う。
- ・奥さんの4柑しぼりとレモンジュースは最高だった。
- ・参加者との会話が弾み、非常に良かった。

- ・今後継続メニューにするのであれば、しんどくないのか心配な面がある。

④しおまち商店街との連携（もてなし、対応）

ア しおまち商店街でのもてなし

- ・1月23日のツアーを行うにあたっては、事前に商店街のポイントとなるであろう店には「当日はよろしくお願ひします」と回っておいた。
- ・事前に一声かけておいたせいかどうか解らないが、参加者の皆さん一様に満足していた。
- ・特に外国人の方は「この島は、我々をファミリーとしてもてなしてくれる、すばらしい島だ」の声が多数あった。
- ・お茶を出してくれた店も複数あった。
- ・しおまち商店街にお金を落としてもらう方法の検討が必要。
- ・商店街全体で歓迎という雰囲気では無かったので、今後に期待。

イ 汐待亭でのもてなし

- ・気軽に立ち寄れる汐待亭づくりが基本であり、軽食も取れる場所づくりが今後の課題だと思う。
- ・汐待亭は、待合場所にするにも良い場所であると思った。人数が多いとしんどいが。個人的には夜居酒屋にしてお酒を飲んでみたい。

ウ 情報の周知について

- ・今日は何があるのかと商店街の店主に聞かれた。
- ・どこのお店の方か分からないが、片付け後に帰ろうとしていたら、商店街の方が、「知っていれば、店を開けたのに。一言あっても良いのではないか」といったことを言っていた。
- ・会議内でも情報伝達については頭を悩ませている状況ではあったが、この際、1軒1軒お店・又はお宅（瀬戸田全体で盛り上げるならば）を回って話しをするくらいの覚悟が必要なのではと思う。

⑤参加者から聞いた意見

ア レモン足湯・坐禅体験

- ・おかゆを白ご飯にして欲しい。(2)
- ・「今度はいつやるのですか？また参加したい。」（モニターツアーのせいかも）
- ・「このレモンは食べられる？」食べられると言ったらムシャムシャ食べていた。（外国人参加者）
- ・「普段味わえない日本の古い作法や食事にもっと接したい。」（特に外国人参加者）
- ・「私達はお粥を食べたが、他のコースでは何を食べたの？」（複数人が質問）

- ・「昔の人はどんなものを食べていたの？」（複数の人が質問）
- ・「日帰りもいいが、1泊2日とか2泊3日というコースを作って欲しい。」（特に外国人参加者）
- ・耕三寺に入館できなかったのが残念。

イ 柑橘収穫体験

- ・柑橘採取体験が主目的で来た参加者にとって、「慌ただしく集団で行動することが苦痛だ」との意見があり、個人・グループ対応することも必要と感じた。
- ・農園までの車中で、道路脇の雑草刈がなされていないのを指して、「さびれてるわね～」というつぶやきを聞いた。風景が良くても台無しにしている現状をもっとたいなく思う。

⑥今後の取組について

ア 今後の運営体制

- ・準備期間が少なく地元スタッフの人選が偏りがちであり、商工会・しおまち商店街・観光協会等各種団体に広く情報開示し、連携が不可欠であり、地元事務局の責任者が必要である。
- ・地元の受入れ態勢・事務局のあり方については、観光協会瀬戸田支部内に事務局を設置する。
- ・基本的に島内スタッフや会員に、人を集める、あるいはツアーを企画する力は全くないと思うので、今回のように外部スタッフの応援が必要である。したがって、形態としては外部スタッフに事務局となってもらい、そこに尾道市瀬戸田支所1名、地域代表1名が参加するのが現実的かと思う。
- ・地元の受入れ態勢は、しおまち商店街が中心になると思う。商工会及びしおまち商店街と連携する上で、観光協会瀬戸田支部の動きが大事だと思う。
- ・スタッフも、事前に講習等を受けることが必要ではないかと感じた。マニュアル化するというのではつまらないので、そういうものではないのだが、旅行会社の方などから引率の際の注意点など講習が受けられると良いかと思う。
- ・継続して取り組める体制づくりが必要。
- ・組織が独り立ちするまでの間、外部から指導、助言が必要であり、国、県、市の補助を今後数年間考えて欲しい。

イ スタッフの処遇について

- ・これから継続していくのであれば、スタッフにも謝礼が必要になると思う。いつまでもボランティアでは継続が難しくなると思う。
- ・全く金銭無しのボランティアでは長続きしないと思う。スタッフ方は私を含めて何らかの経費を負担した。私物携帯電話使用、途中、普段は呑まない飲料を呑む、昼食が満足に取れなかったため、帰りにうどんを食べる、等々細かいことだが支出は支出である。

- ・労力については完全ボランティアで構わないと思うが、昼食代程度の支払いは必要と思う。（かく言う私はボランティア完全否定者。）
- ・どの程度活動してもらうかによって、金額は異なるとも思うが、ガイドだけなら半日千円、丸1日なら2～3千円、スタッフはその「しんどさ」によって変える必要がある。

ウ 今後のコースづくり

- ・今回は試験的に3コースを準備したが、スタッフがばらばらになり情報も流れてこないなので、コースを絞り、全員で対応し、今後につなげていく対策を検討する必要がある。
- ・農家・農園は1箇所にしないと「おもてなし」の差がでる。
- ・耕三寺の利活用ができないのか？
- ・受け入れ態勢を整えば、レモン足湯・坐禅をツアーとして募集しても面白い商品ではないかと思う。

エ 食事の提供について

- ・自分がリタイアして2年4ヶ月になるが、この間、日帰りツアーから3泊4日ツアーまで何度か旅行に行ったが、昼食は次の4種の型があった。
 - ①大広間で準備してある食事（全員同じもの）。費用はツアー代に含まれる。
 - ②事前に注文を取っておき（どこも種類は1～2種類）、昼はバス内あるいは好きな場所で食べる。各自で実費支払い。お茶は各自販売機で買ってもらおう。
 - ③各自が好きな店に入って食べたいものを食べる。（各自で実費支払い。）
 - ④ ②と③の組み合わせ。②でない方は③に行く。ただし飲食店マップが必要。
- ・この内、①は全く駄目で、冷めたお汁、冷たい茶碗蒸しに冷たい茹でエビなどが出て、とても食べられたものではない所が殆どだった。瀬戸田だと②か③になると思うが、③は食べる所と言っても限られているので、基本的には④が良いと思う。弁当注文はコンビニエンスストアでも良いと思う。

オ 耕三寺博物館・平山郁夫美術館としおまち商店街の連携について

- ・商店街や美術館、耕三寺等に「この券を持って行けば〇〇%OFF」があれば、もっと良いと思った。割引分はその店、場所で負担して頂くのを前提として。

カ その他

- ・本格実施に向けてのスタッフに対する処遇、情報発信の方法、市との連携（観光コース）、今後の運営方法、マップの更新、ツアーガイド等については今後の課題である。
- ・コンビニエンスストアも、大変協力してくれているので、ここの活用も入れたいのだが、どういう風に組み込むかが考え所であらう。

⑦その他感想

- どこへ行っても、トイレの整備が必要。向上寺のトイレは暗く、狭いので使いづらい。
- 汐待亭内のトイレもあるが、やはり公衆トイレが商店街内に2つくらいは必要ではないか。トイレも和式でなく洋式が足の弱い方には親切だと思う。
- 瀬戸田町の活性化に島全体が一丸となるのが最終目標と思う。
- おみやげは、準備したものを買ってもらうより現地でもぎ取った果実を持って帰るほうが喜ばれるのではないか。または、現地でこの場所で収穫した果実だと説明して買ってもらい、バスまで運んで行けばいいと思う。
- 外国人参加者の質問で「大久野島では毒ガスを作っていたと聞いているが、何に使ったの？」や「村上水軍は海賊と聞いているが、どんな事をしていたの?」、 「汐待亭と言う名にどんな意味があるの?」「お寺の収入源は何?」といった質問が多くあった。ガイドをするにあたっては、幅広い瀬戸内海の知識の必要性を感じた。
- 今後のミカン購入では、瀬戸田や高根を意識して買ってもらえると思う。

(6) アンケート調査結果からみた留意事項

①日本人ツアー客の意見への対応

ア 瀬戸田町のイメージ、魅力について

瀬戸田町のイメージやシンボルとして現状で高く評価された項目は、「瀬戸内海の気候、風景、眺望」と「平山郁夫美術館など施設、ゆかりの場所」の2項目である。今回、ツアーコースに含めなかったため、耕三寺博物館の割合は低くなっている。

瀬戸田町のイメージやシンボルとして将来伸びて欲しい、または期待される項目としては「しおまち商店街・町並み」が21.6%で最も割合が高く、次いで「向上寺などの神社仏閣」及び「平山郁夫美術館など施設、ゆかりの場所」10.8%の順である。

現状で評価されている瀬戸内海の景観や平山郁夫美術館に加えて耕三寺博物館がこの地域の強みであり、こうした要素をより一層魅力化するとともに、来訪客が楽しく散策する上でしおまち商店街の再生、魅力化が求められている。

イ ツアーコースについて

今回のモニターツアーについては、ほとんどの参加者が満足している。特に、レモン足湯の体験は評価が高かった。

ただし、時間的なゆとりが少なかったと感じている参加者が多く、しおまち商店街、柑橘農家、スタッフを含めて地元の人と交流する時間、自由に行動できる時間の確保を今後は考える必要がある。

<今後の取組>

- ・団体ツアーの場合は、規定コース時間と自由行動時間へのバランスに配慮する。
- ・家族、グループへの場合は、ニーズを踏まえたコース紹介、コース案内を行う。

ウ ガイド・スタッフについて

「地元の人との協力・支援体制」については高い評価になっており、地元人が案内し、交流することの重要性が感じられる。

しかし、ガイドについては高齢化するとともに人材が不足してきており、今回のツアーにおいても「声が小さい」、「説明不十分」等の意見があり、現状のガイドでは来訪客に不満があるものと考えられる。このため、向上寺周辺だけでなく、瀬戸田町をガイドできる新たなガイドの育成を図る必要がある。

また、農家スタッフからガイドとしての地域を深めたいという声もあり、従来のボランティアガイドだけでなく、交流事業に関係する様々な人が知識を深めていくことも重要である。

<今後の取組>

- ・公民館活動と連携して、瀬戸田町歴史文化講座を開催し、瀬戸田町についての学習を深める。
- ・尾道市観光課が取り組んでいるガイド養成事業と連携した取組

- ・以前に瀬戸田町が作成したガイド育成テキストを基本に、歴史文化に詳しい人のヒアリング（平山館長等）等により必要な情報を加えて、新規ガイド育成テキストを作成する。

エ 観光基盤施設について

向上寺周辺トイレの整備や参道への高齢者向け手すりの整備等が求められている。また、案内標識の不足も指摘されている。

オ 食事について

瀬戸田町の郷土料理として浜子鍋を出したが、味が濃かった、値段とのバランスで期待はずれであったとの意見があった。

今回の意見を踏まえて、浜子鍋の味を改善し、町全体の名物料理に育てる必要がある。

また、食事については、いろいろな物を少しずつ食べたい人（コロッケ、チキン、ロールケーキ等）、蛸料理を食べたい人等様々であり、団体ツアーにおける食事の提供のあり方を検討する必要がある。

<今後の取組>

- ・浜子鍋の味の改善、レシピの作成・普及
- ・各飲食店で値段を統一し（例えば 1,000 円）、しおまち商店街の各飲食店で得意料理を提供する。
（ツアー客に、いくつかのメニューから選択してもらう）
- ・ちょびっとグルメ（ワンコイングルメ）の検討（ツアー客だけでなくサイクリストへの対応）

キ 瀬戸田町への再訪意向等について

瀬戸田町へ来訪意向のある人は 9 割以上であるが、「何度も来たい」と答えた積極的な人は 8.1%と 1 割未満であり、この種のツアーを組む場合はもっとインパクトのある企画にする必要がある。

ク 今回モニターツアーの旅行代金について

熟年世代は、交通費を含めた旅行代金として 6,000 円以上と答えた人が 5 割以上、交通費を含めない瀬戸田町内での旅行代金としては 3,000 円以上が 7 割以上になっており、こうした金額を基本に今後のツアー企画を検討する必要がある。

一方、外国人客は、交通費を含めた旅行代金として 6,000 円未満と答えた人が 7 割以上、交通費を含めない瀬戸田町内での旅行代金としては 2,000 円未満が約 6 割になっており、熟年世代に比べて金額が低くなっており、こうした金額を踏まえたツアー企画を検討する必要がある。

ケ 土産物等について

熟年世代は、しおまち商店街を周遊しながら、様々な土産物を購入していたが、外国人は柑橘に対する関心は低く、日本の歴史文化に関わる物への関心が高く、汐待亭にあった焼き物を購入する人がいた。

②外国人ツアー客の意見への対応

外国人の場合は、日本の歴史文化に対する関心が高く、耕三寺博物館を含めたコースづくりを検討する必要がある。

また、外国人向けの案愛標識の設置、外国人のニーズの把握を踏まえた土産物の開発、販売等を検討する。

さらに、外国人客は、交通費を含めた旅行代金として6,000円未満と答えた人が7割以上、交通費を含めない瀬戸田町内での旅行代金としては2,000円未満が約6割になっており、日本人ツアー客に比べて金額が低くなっており、外国人の感覚とマッチする格安ツアー企画を検討する必要がある。

③外国人通訳ガイドの意見への対応

アンケート調査結果の内容は、日本人ツアー客と同様の評価である。その中で、下記のような要望があり、外国人ツアーを企画する場合の参考にする必要がある。

- ・坐禅体験の後の法話、質問時間の設定、お粥の代わりに抹茶とお菓子を出す。
- ・坐禅は15分程度に短くする。
- ・お粥体験は、外国人に難しい。白ご飯を要望。
- ・外国人向けの案内標識が欲しい。
- ・耕三寺をコースに入れる。

5) 世羅地域試行的調査の評価（アンケート調査結果）

(1) 調査の概要

①調査の目的

今回企画した「銀シャリを運ぼうツアー」について、参加者の意見・感想を把握し、今後の取組の参考にするために、アンケート調査を実施した。

②調査対象

「銀シャリを運ぼうツアー」に参加した人（児童を除く）全員に依頼した。

③調査項目

ア. 町内参加者

項目	内容
回答者の属性	・性別、年齢、今回の同行者、住所
ツアーの評価	・ツアー全体の評価、良かった点、悪かった点、項目別評価 ・世羅町のイメージやシンボルとして評価されるもの、将来伸びて欲しい、または期待される項目 ・今回改めて気づかされた宝や知って欲しい宝 ・レンタル電動アシスト自転車の利用意向 ・ツアーへの参加意向 ・世羅町のPRについて ・ツアー企画への負担額 ・中国横断自動車道尾道松江線やしまなみ海道沿線の周遊観光の意向
地域づくりについて	・今回のツアーを含む地域づくりへの参加意向

イ. 町外参加者

項目	内容
回答者の属性	・性別、年齢、今回の同行者、住所 ・世羅町への来訪の有無
ツアーの評価	・ツアー全体の評価、良かった点、悪かった点、項目別評価 ・世羅町のイメージやシンボルとして評価されるもの、将来伸びて欲しい、または期待される項目 ・レンタル電動アシスト自転車の利用意向 ・ツアーへの参加意向 ・世羅町のPRについて ・ツアー企画への負担額 ・中国横断自動車道尾道松江線やしまなみ海道沿線の周遊観光の意向

④調査方法

ツアー終了後、甲山自治センターでアンケート調査票に記入してもらった。

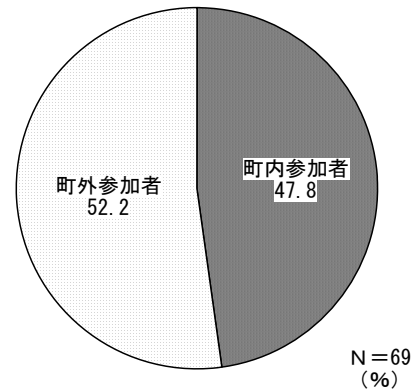
(2) 調査結果の概要

①回答者自身のこと

ア 参加者の種別

参加者の種別は、「町内参加者」47.8%、「町外参加者」52.2%である。

図 町内外別参加者割合

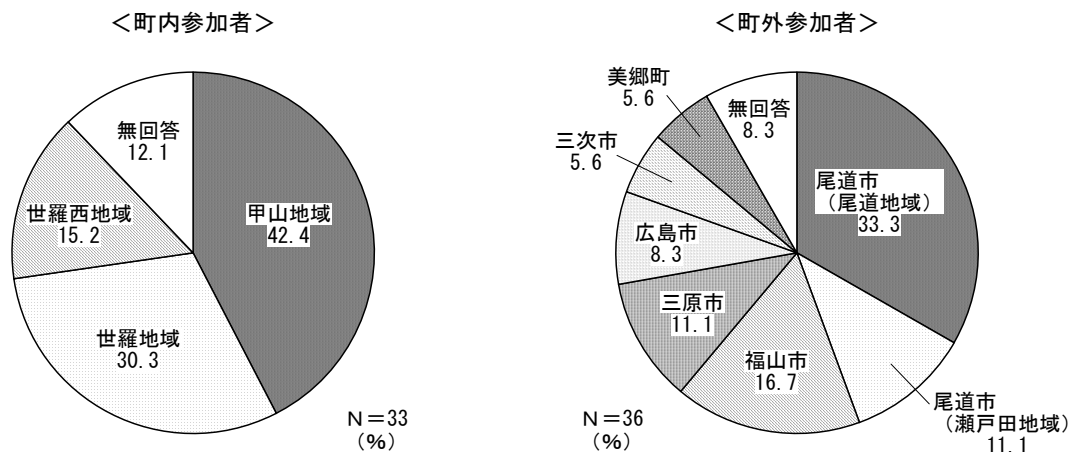


イ 住所

町内参加者の住所は、「甲山地域」が42.4%で最も割合が高く、次いで「世羅地域」30.3%、「世羅西地域」15.2%の順になっている。

また、町外参加者の住所は、「尾道市（尾道地域）」が33.3%で最も割合が高く、次いで「福山市」16.7%、「尾道市（瀬戸田地域）」及び「三原市」11.1%、「広島市」8.3%、「三次市」及び「美郷町」5.6%の順になっており、広範囲な地域から参加している。

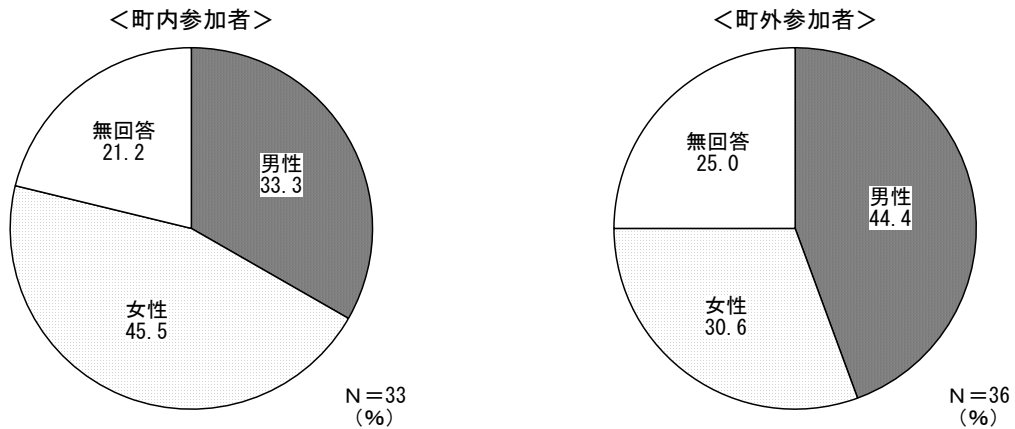
図 参加者の住所



ウ 性別

町内参加者の性別は、「男性」33.3%、「女性」45.5%である。
また、町外参加者の性別は、「男性」44.4%、「女性」30.6%である。

図 性別



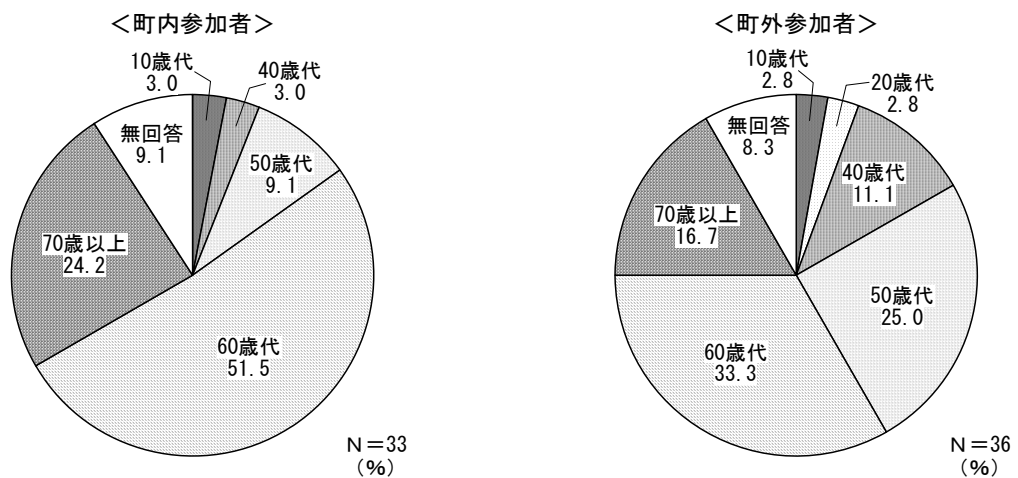
エ 年齢

町内参加者の年齢は、「60歳代」が51.5%で最も割合が高く、次いで「70歳以上」24.2%、「50歳代」9.1%、「10歳代」及び「40歳代」3.0%の順となっている。

また、町外参加者の年齢は、「60歳代」が33.3%で最も割合が高く、次いで「50歳代」25.0%、「70歳以上」16.7%、「40歳代」11.1%、「10歳代」及び「20歳代」2.8%の順となっている。

町内参加者、町外参加者ともに50～70歳代が大部分を占めている。

図 年齢



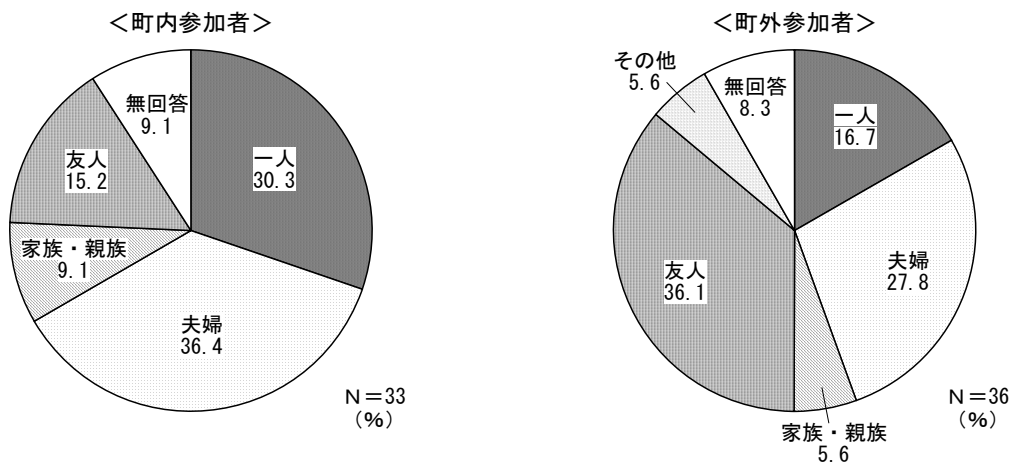
オ 同行者

町内参加者の同行者は、「夫婦」が36.4%で最も割合が高く、次いで「一人」30.3%、「友人」15.2%、「家族・親族」9.1%の順となっている。

また、町外参加者の同行者は、「友人」が36.1%で最も割合が高く、次いで「夫婦」27.8%、「一人」16.7%「家族・親族」及び「その他」5.6%の順となっている。

町内参加者、町外参加者ともに「一人」と答えた人が一定割合を占めている。

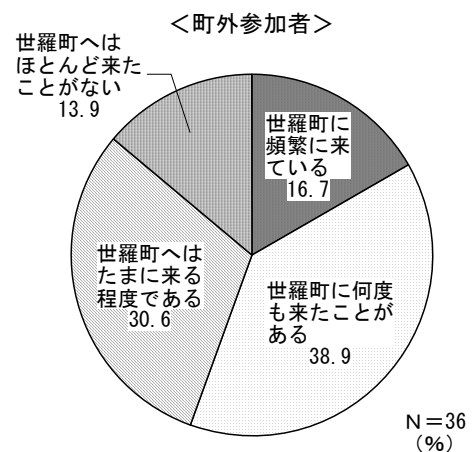
図 同行者



カ 町外参加者の世羅町への来訪回数

町外参加者の世羅町への来訪回数は、「世羅町に何度も来たことがある」が38.9%で最も割合が高く、次いで「世羅町へはたまに来る程度である」30.6%、「世羅町に頻繁に来ている」16.7%、「世羅町へはほとんど来たことがない」13.9%となっており、世羅町へ来訪したことがあって参加した人が大部分である。

図 町外参加者の世羅町への来訪回数



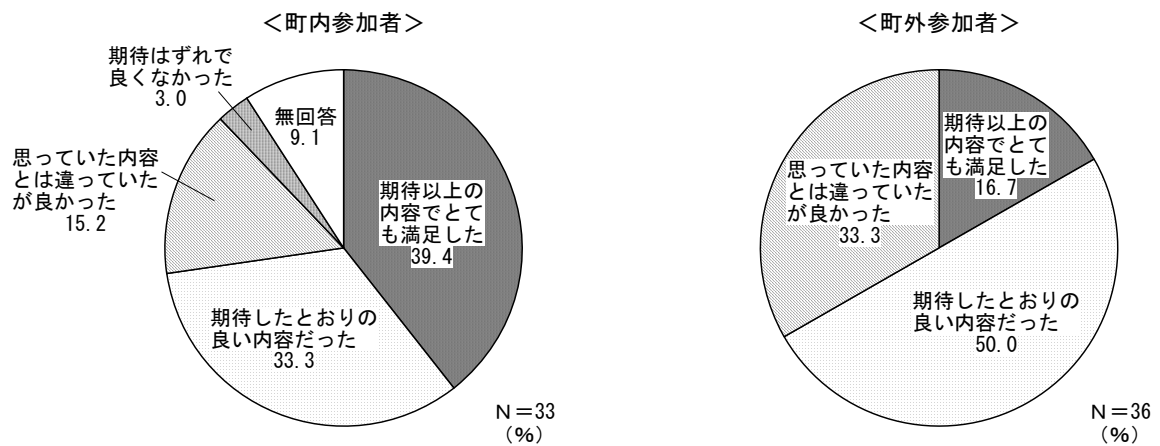
②モニターツアーの評価

ア ツアー全体の評価

町内参加者のツアーの全体を通しての評価は、「期待以上の内容でとても満足した」と答えた人が39.4%で最も割合が高く、次いで「期待したとおりの良い内容だった」33.3%、「思っていた内容とは違っていたが良かった」15.2%、「期待はずれで良くなかった」3.0%で、町内参加者のほとんどの人が今回のツアーに満足している。

また、町外参加者のツアーの全体を通しての評価は、「期待したとおりの良い内容だった」と答えた人が50.0%で最も割合が高く、次いで、「思っていた内容とは違っていたが良かった」33.3%、「期待以上の内容でとても満足した」16.7%の順になっている。

図 ツアー全体の評価



イ モニターツアーに関する具体的な意見

モニターツアーでの期待以上だった点・良かった点、期待はずれだった点・悪かった点について整理すると、次のとおりである。

(7) 期待以上だった点・良かった点

表 期待以上だった点・良かった点、

項 目		件数(件)	
		町内参加者	町外参加者
スタッフ等のもてなし	ガイドの説明	9	13
	スタッフのもてなし	2	2
コース全体		5	4
自転車について		2	-
食事について		-	3

参考 具体的な意見

<町内参加者>

◇スタッフ等のもてなし

a ガイドの説明

- ・ 銀山街道に関わる歴史を中心に案内して頂き満足。
- ・ 毎日通る処ではあるが、詳しい歴史などを知ることができた。
- ・ 歴史的な詳細説明がよかった。
- ・ 歴史を深く知ることが出来た。
- ・ 歩くだけのツアーだと思っていたが色々な説明がありとても満足した。
- ・ 説明箇所が思った以上に有り、多勢のボランティアの方々が熱心に説明して下さり、新発見の所がたくさんあった。
- ・ 地域にいながら知らないことを沢山教わった。
- ・ 参加者が多かった。天候も良かった。特にガイドが良かった。
- ・ 説明が良かった。

b スタッフのもてなし

- ・ 道路の分れ道の所でお世話の人がとっても良かった。
- ・ 不十分ではあったが、スタッフの方々の一所懸命さに感謝。

◇コース全体

- ・ こんな企画は毎年あればよいと思う。
- ・ 新しい発見ができた。

- ・同じ町内に住んでいて知らないことが多くあり、なかなかこんな機会がないので、大変良かった。
- ・早春の世羅地域でいにしへの銀山街道を歩き感激した。

◇自転車について

- ・自転車に40年以上乗った事がなかったので良かった。
- ・自転車で山道に乗ったのが楽しかった。

<町外参加者>

◇スタッフ等のもてなし

a ガイドの説明

- ・地域の歴史が学ばれて非常に良かった。
- ・甲山がこんなに歴史深い大切な地だったことを知り感動した。「甲山町」の名前がなくなったことを残念に思う。
- ・世羅町の歴史を知る事が出来たことが良かったと思う。
- ・歴史とかを知れてよかった。
- ・自然の中で歴史を勉強出来たことはよかった。
- ・歴史が多少把握できた。今の様子もわかった。
- ・世羅の歴史が良く解った。
- ・ガイドさんが詳しく大変よかった。(A地区)
- ・説明と案内板がありよくわかった。
- ・郷土史に精通された「生き字引き」の熟練先生と一緒に歩いて下さった点が特に良かった。仏像拝観は文化の高さを示された。
- ・ガイドの説明も良かった。
- ・ガイドの説明やツアーでないところ銀山街道かわからない。
- ・ガイドさんの楽しい説明ありがとうございました。

b スタッフのもてなし

- ・スタッフが親切だった。
- ・スタッフの人達がとても誠意を持ってやっておられるのが気持ちよく好ましかった。

◇コース全体

- ・改めて歴史遺産の凄さを知った。
- ・世羅町に歴史的、文化的な物が数多く保存されているのには感激いたしました。
- ・石見銀山尾道ルートのことについて興味を持ちました。体力的にも無理がなく参加できました。
- ・楽しみながら歩けた。

◇食事について

- ・豚汁・おにぎりは良かった。
- ・世羅のお米が大変おいしいことがわかった。
- ・豚汁の後にアイスが出て疲れがとれました。食事の後の米のうた、元気があってよかった。

(イ) 期待はずれだった点・悪かった点

表 期待はずれだった点・悪かった点

項 目		件数(件)	
		町内参加者	町外参加者
スケジュール管理	全体の進行（遅れたこと）	6	2
	説明不足、時間配分等	-	3
ガイドの説明（聞こえにくい等）		1	3
コースについて（古道歩きが少ない等）		-	6
自転車について（バッテリー切れ）		1	-
その他		1	1

参考 具体的な意見

<町内参加者>

◇スケジュール管理

- ・ガイド全体を進行する係がいれば進行もスムーズにできたのではないかと。（予定時間を30分過ぎたので）
- ・時間配分がよくなかったため、古道をすべて歩くことができなかった。各処での説明に長短があった。
- ・進行が遅れがちな点が残念だった。歩行態度も悪かった。（道路いっぱい）
- ・集団の移動をルール、速度について再考慮が必要と思う。
- ・予定の時間にくるいが生じたのが若干気にかかった。
- ・班ごとに歩くのは良かったが、もう少し早く進むと良かった。

◇ガイドの説明

- ・説明がはっきり判りにくい。（言葉）

◇自転車について

- ・電池が切れて坂道を上れなかった。

◇その他

- ・自分の平素の運動不足を知る。

<町外参加者>

◇スケジュール管理

a 全体の進行（遅れたこと）

- ・大勢の人を対象に大変だったと思うが、時間コントロールは今一つ。
- ・時間が予定通りに進んでいなかった。

b 説明不足、時間配分等

- ・解散時間が明記されていたらその後の計画を立てられたのに。
- ・自転車コースでは資料を読む時間がなかった。
- ・時間配分、調整をもう少し。

◇ガイドの説明

- ・ガイドさんの説明が良い人と少し長い人があったように思う。
- ・ガイドのマイクがよく聞こえなかったので残念。
- ・ガイドの話が聞きとりにくかった。

◇コースについて

- ・第一回だったが、他のコース（美郷町（島根））や津和野街道ウォークに比べて本来のコースが少ない。さらに熊野古道をされてはどうか。
- ・古道を歩きたかった。
- ・舗装道を歩く距離が長すぎる。疲れる、面白くない。
- ・寒い時期なので立ち止まっての説明は短時間にしてほしい。体が冷える。桜の時期も良かったのでは。
- ・女性向けの何かきれいなものが見られたらよかった。
- ・自転車ツアーに参加したかった。時期がもう一つ。

◇その他

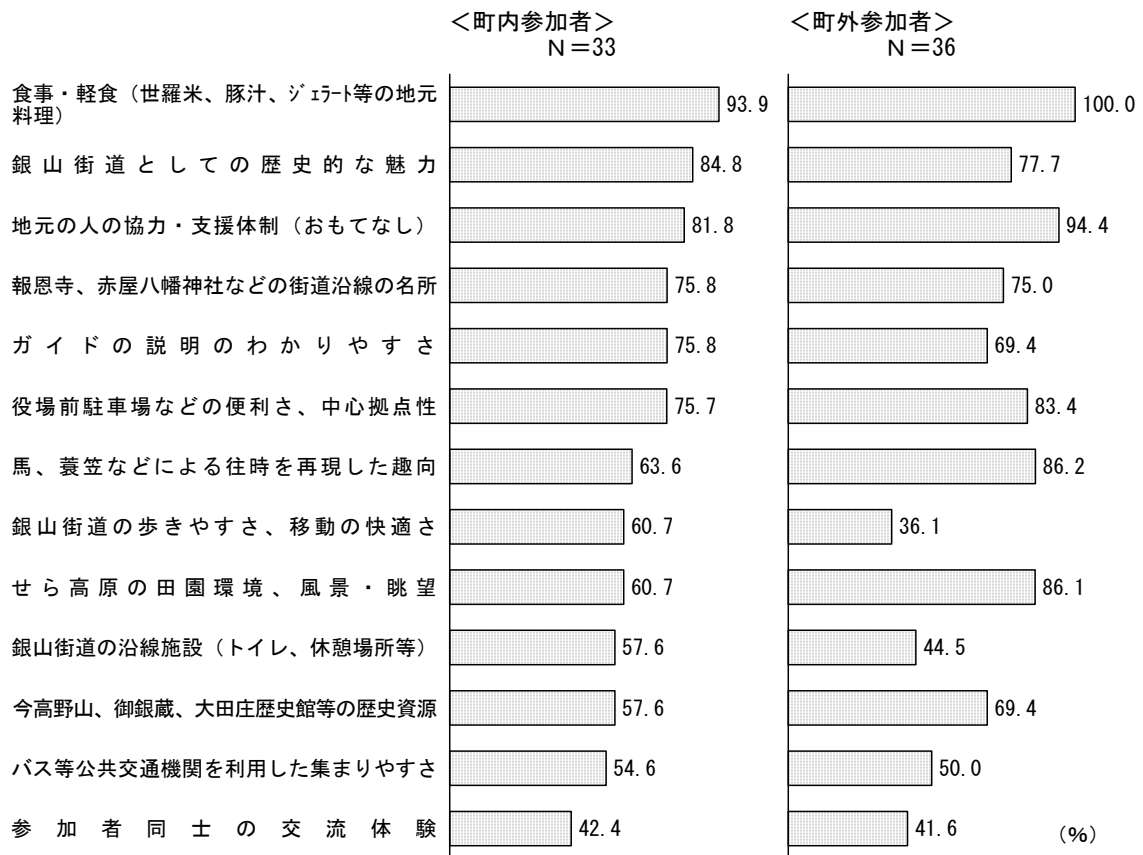
- ・松江道を歩くと思い参加した。

ウ モニターツアーに関する項目別評価

(7) 共通体験項目

- ・それぞれの項目について「満足」と「やや満足」を合わせた満足している人の割合をみると、町内参加者の共通体験項目では、「食事・軽食（世羅米、豚汁、ジェラート等の地元料理）」が93.9%で最も割合が高く、次いで「銀山街道としての歴史的な魅力」84.8%、「地元の人々の協力・支援体制（おもてなし）」81.8%等の順で、この3項目を挙げた人の割合が高くなっている。一方、「参加者同士の交流体験」は50%以下で、他の項目に比べて割合が低くなっている。
- ・また、町外参加者の共通体験項目では、「食事・軽食（世羅米、豚汁、ジェラート等の地元料理）」が100.0%で最も割合が高く、次いで「地元の人々の協力・支援体制（おもてなし）」94.4%、「馬、蓑笠などによる往時を再現した趣向」86.2%、「せら高原の田園環境、風景・眺望」86.1%、「役場前駐車場などの便利さ、中心拠点性」83.4%等の順で、この5項目を挙げた人の割合が高くなっている。一方、「バス等公共交通機関を利用した集まりやすさ」、「銀山街道の沿線施設（トイレ、休憩場所等）」、「参加者同士の交流体験」、「銀山街道の歩きやすさ、移動の快適さ」の4項目は50%以下で、他の項目に比べて割合が低くなっている。
- ・町内参加者と町外参加者の満足度を比べると、「馬、蓑笠などによる往時を再現した趣向」と「せら高原の田園環境、風景・眺望」の2項目は、町外参加者が町内参加者より20ポイント以上高くなっている。一方、「参加者同士の交流体験」に関する満足度は町内参加者、町外参加者ともに満足度が40%台と低くなっている。また、「銀山海道の歩きやすさ、移動の快適さ」と「銀山街道沿線施設（トイレ、休息所等）」2項目の満足度は、町外参加者が町内参加者に比べて低くなっている。

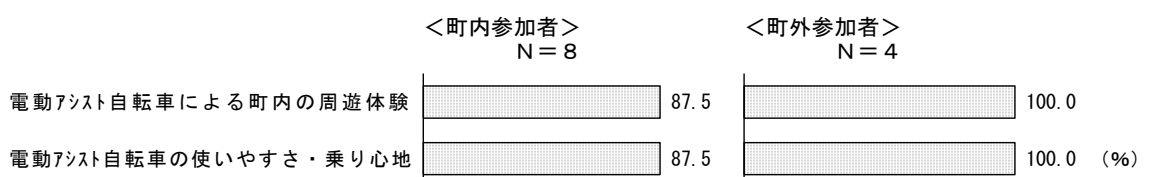
図 共通体験項目の満足度



(イ) 電動アシスト自転車体験の満足度

- ・町内参加者の電動アシスト自転車体験の満足度は、「電動アシスト自転車による町内の周遊体験」及び「電動アシスト自転車の使いやすさ・乗り心地」87.5%で、評価が高くなっている。
- ・また、町外参加者の電動アシスト自転車体験の満足度は、「電動アシスト自転車による町内の周遊体験」及び「電動アシスト自転車の使いやすさ・乗り心地」100.0%で、全員が満足している。

図 電動アシスト自転車体験の満足度

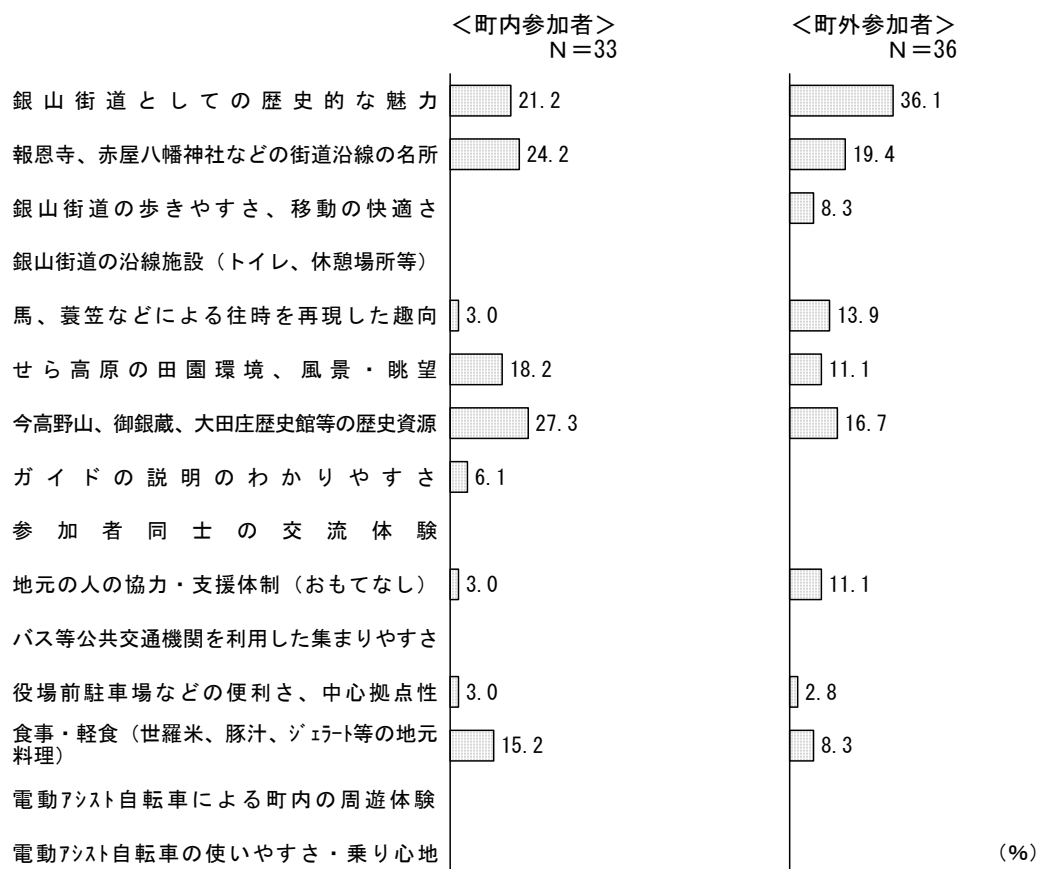


エ 世羅町のイメージやシンボルとして評価されるもの

(7) 現状で高く評価される項目

- ・世羅町のイメージやシンボルとして現状で高く評価されるものとして挙げられた項目を町内参加者でみると、「今高野山、御銀蔵、大田庄歴史館等の歴史資源」27.3%、「報恩寺、赤屋八幡神社などの街道沿線の名所旧跡」24.2%、「銀山街道としての歴史的な魅力」21.2%で、この3項目を挙げた人の割合が高くなっている。その他の項目は20%未満で、「銀山街道の歩きやすさ、移動の快適さ」、「銀山街道の沿線施設（トイレ、休憩場所等）」、「参加者同士の交流体験」、「バス等公共交通機関を利用した集まりやすさ」の4項目を評価した人はいない。
- ・また、町外参加者でみると、「銀山街道としての歴史的な魅力」36.1%で、この項目を挙げた人の割合が高くなっている。その他の項目は20%未満で、「銀山街道の沿線施設（トイレ、休憩場所等）」、「ガイドの説明のわかりやすさ」、「参加者同士の交流体験」、「バス等公共交通機関を利用した集まりやすさ」の4項目を評価した人はいない。
- ・「電動アシスト自転車による町内の周遊体験」、「電動アシスト自転車の使いやすさ・乗り心地」については、今回体験した人数が限られていることから、評価した人がいないという結果となっている。

図 現状で高く評価される項目（複数回答：3つ以内）



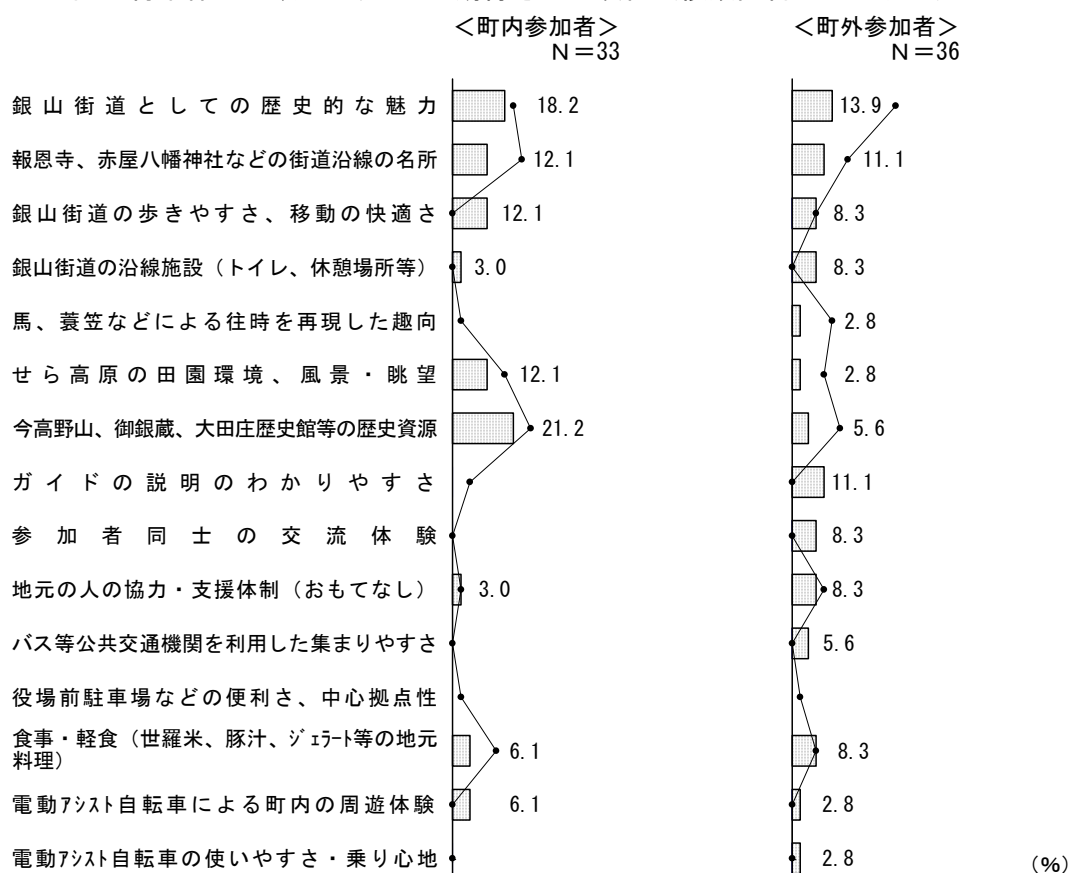
※全体数（N）には無回答を含む

※電動アシスト自転車は今回体験した人数が限られていることに留意が必要

(イ) 将来伸びて欲しい、または期待される項目

- ・世羅町のイメージやシンボルとして将来伸びて欲しい、または期待される項目を町内参加者でみると、「今高野山、御銀蔵、大田庄歴史館等の歴史資源」が21.2%で最も割合が高く、次いで「銀山街道としての歴史的な魅力」18.2%、「報恩寺、赤屋八幡神社などの街道沿線の名所旧跡」、「銀山街道の歩きやすさ、移動の快適さ」及び「せら高原の田園環境、風景・眺望」12.1%等の順になっている。現状で高く評価される項目での割合と比較すると、現状での評価が高かった「報恩寺、赤屋八幡神社などの街道沿線の名所旧跡」、「銀山街道としての歴史的な魅力」は10%台と低くなっている。一方、「銀山街道の歩きやすさ、移動の快適さ」については、現状の評価より12.1ポイント増加している。
- ・また、町外参加者でみると、「銀山街道としての歴史的な魅力」が13.9%で最も割合が高く、次いで「報恩寺、赤屋八幡神社などの街道沿線の名所旧跡」及び「ガイドの説明のわかりやすさ」11.1%等の順になっている。現状で高く評価される項目での割合と比較すると、現状での評価が高かった「銀山街道としての歴史的な魅力」は22.2ポイント減少し、「今高野山、御銀蔵、大田庄歴史館等の歴史資源」及び「馬、蓑笠などによる往時を再現した趣向」も11.1ポイント減少している。一方、「ガイドの説明のわかりやすさ」については、現状の評価より11.1ポイント増加している。

図 将来伸びて欲しい、または期待される項目（複数回答：3つ以内）



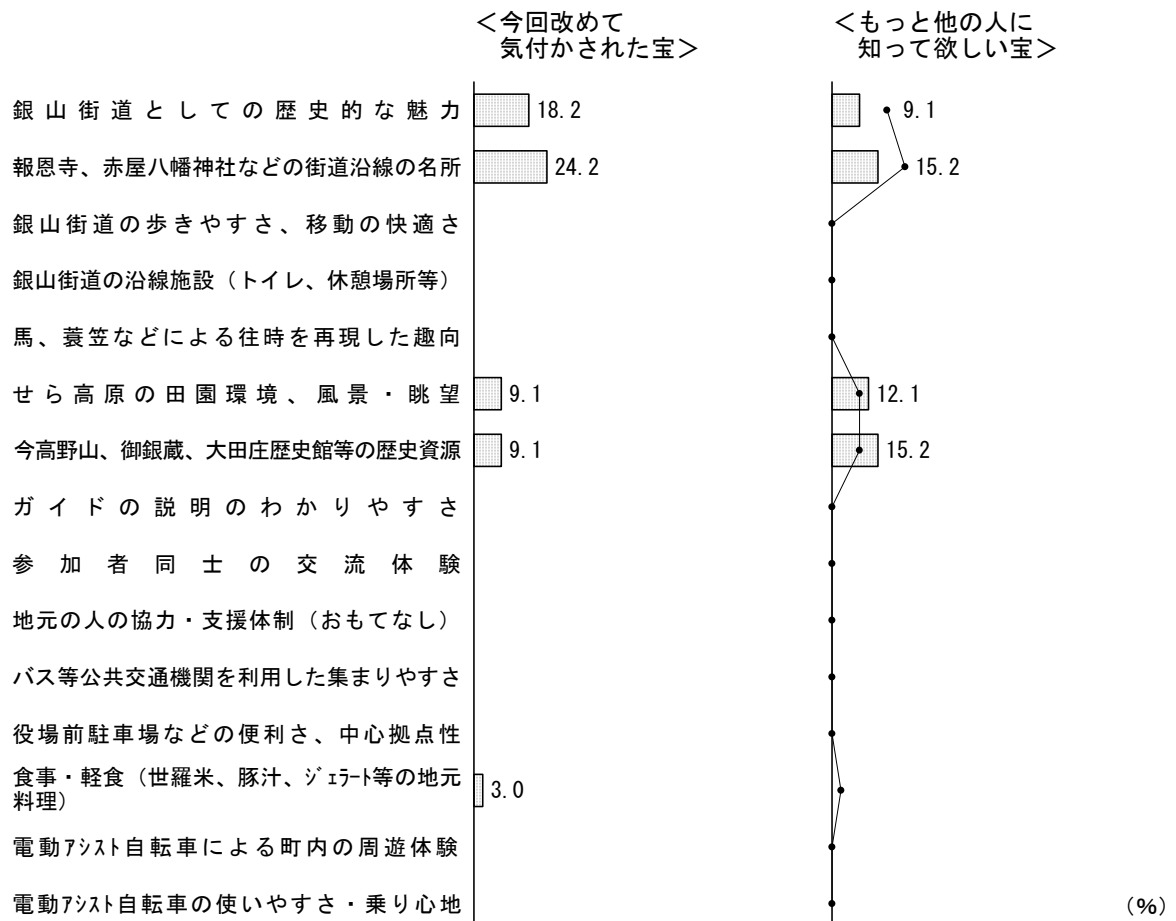
注：折れ線は、現状で高く評価される項目。全体数（N）には無回答を含む。

電動アシスト自転車は今回体験した人数に限られていることに留意が必要

オ 町内参加者が今回改めて気づかされた宝、もっと他の人に知って欲しい宝

- ・町内参加者が今回改めて気づかされた宝は、「報恩寺、赤屋八幡神社などの街道沿線の名所旧跡」が24.2%で最も割合が高く、次いで「銀山街道としての歴史的な魅力」18.2%等の順になっている。
- ・また、町内参加者がもっと他の人に知って欲しい宝は、「報恩寺、赤屋八幡神社などの街道沿線の名所旧跡」及び「今高野山、御銀蔵、大田庄歴史館等の歴史資源」が15.2%で最も割合が高く、次いで「せら高原の田園環境、風景・眺望」12.1%等の順になっている。
- ・今回改めて気づかされた宝と割合を比較すると、現状での評価が高かった「報恩寺、赤屋八幡神社などの街道沿線の名所旧跡」は10%台、「銀山街道としての歴史的な魅力」は現状の評価の1/2と低くなっている。

図 今回改めて気づかされた宝ともっと他の人に知って欲しい宝（複数回答：3つ以内）



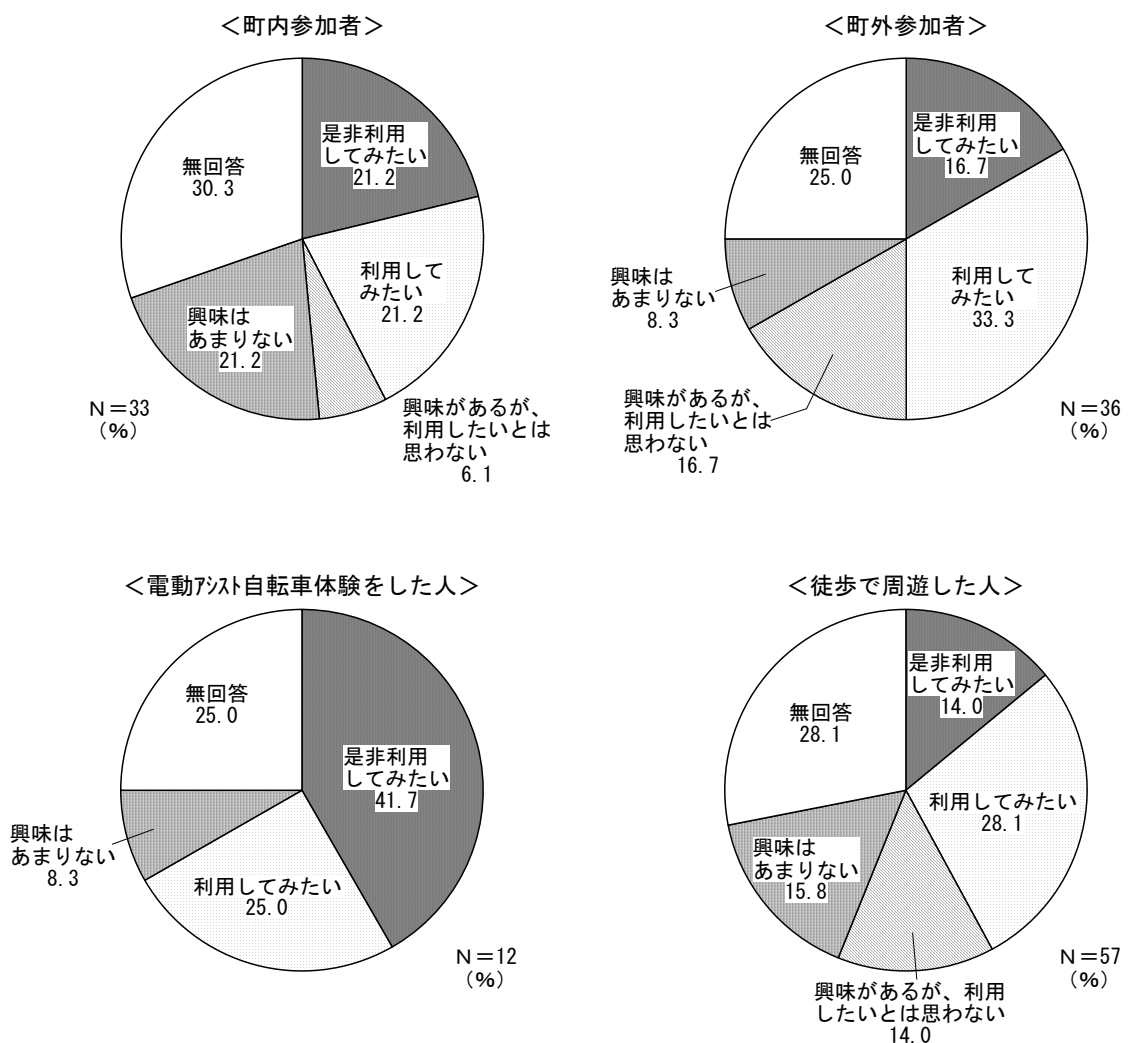
注：折れ線は、今回改めて気づかされた宝。全体数には無回答を含む。

電動アシスト自転車は今回体験した人数に限られていることに留意が必要

カ 世羅町でのレンタル電動アシスト自転車の利用意向

- ・レンタル電動アシスト自転車について「是非利用してみたい」と「利用してみたい」を合わせた今後の利用意向のある人は、町内参加者で 42.4%、町外参加者 50.0%になっている。
- ・また、電動アシスト自転車を体験した人で利用意向のある人は 66.7%で、無回答の人を除くとほとんどの人が利用意向を持っている。一方、徒歩で周遊した人（電動アシスト自転車を体験していない人）は 42.1%で、電動アシスト自転車を体験していないためやや割合が低くなっている。

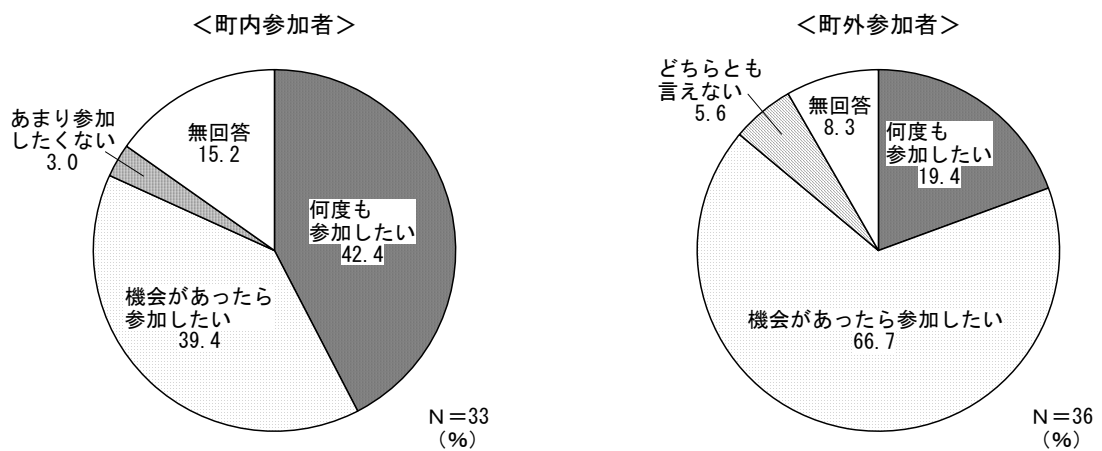
図 世羅町でのレンタル電動アシスト自転車の今後の利用意向



キ 世羅町でのツアーへの参加意向

- ・町内参加者の世羅町でのツアーへの参加意向は、「何度も参加したい」と答えた人が42.4%で最も割合が高く、次いで「機会があったら参加したい」39.4%、「あまり参加したくない」3.0%となっており、今回のツアーを踏まえて今後も参加したいと思っている人は81.8%でほとんどを占めている。
- ・また、町外参加者の世羅町でのツアーへの参加意向は、「機会があったら参加したい」と答えた人が66.7%で最も割合が高く、次いで「何度も参加したい」19.4%、「どちらとも言えない」5.6%となっており、今回のツアーを踏まえて今後も参加したいと思っている人は86.1%でほとんどを占めている。

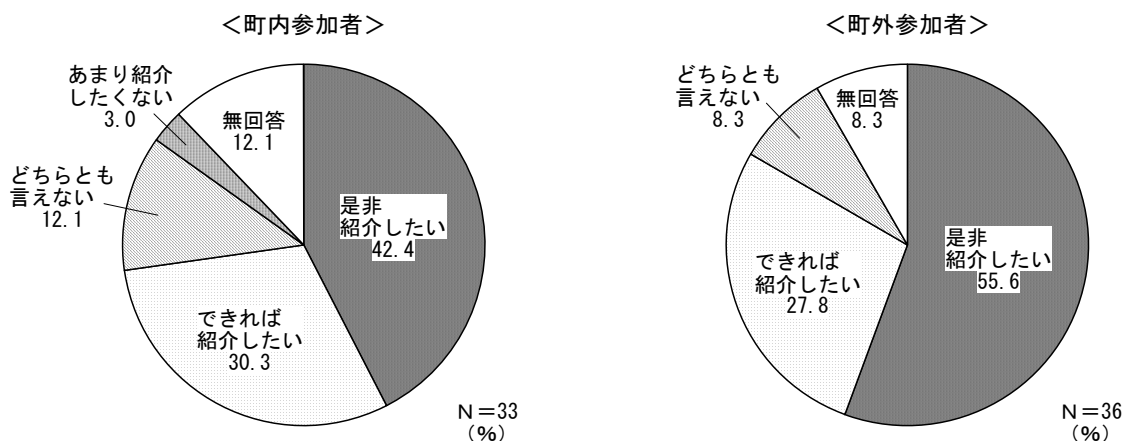
図 世羅町でのツアーへの参加意向



ク 世羅町を他の人に紹介する意向

- ・町内参加者の世羅町を他の人に紹介する意向については、「是非紹介したい」42.4%、「できれば紹介したい」30.3%で、これらを合わせた世羅町を紹介する意向のある人は72.7%で大部分を占めている。
- ・また、町外参加者の世羅町を他の人に紹介する意向については、「是非紹介したい」55.6%、「できれば紹介したい」27.8%で、これらを合わせた世羅町を紹介する意向のある人は83.4%でほとんどを占めている。

図 世羅町を他の人に紹介する意向

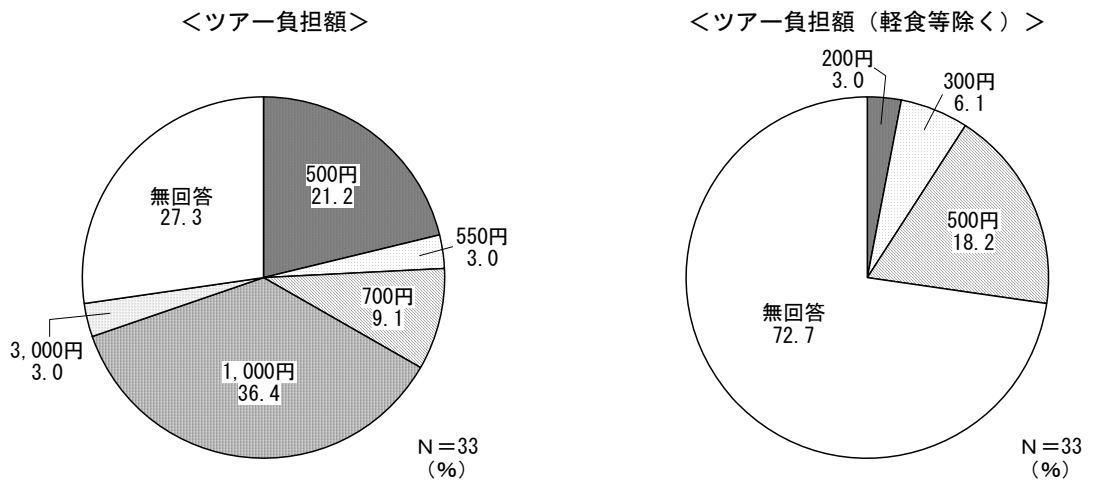


ケ ツアー負担額について

(7) 町内参加者

- ・町内参加者の今回のツアー負担額は、「1,000円」が36.4%で最も割合が高く、次いで「500円」21.2%、「700円」9.1%、「550円」及び「3,000円」3.0%になっており、1,000円以上と答えた人が約4割になっている。
- ・また、町内参加者の軽食等を除く負担額は、「500円」18.2%、「300円」6.1%、「200円」3.0%になっている。

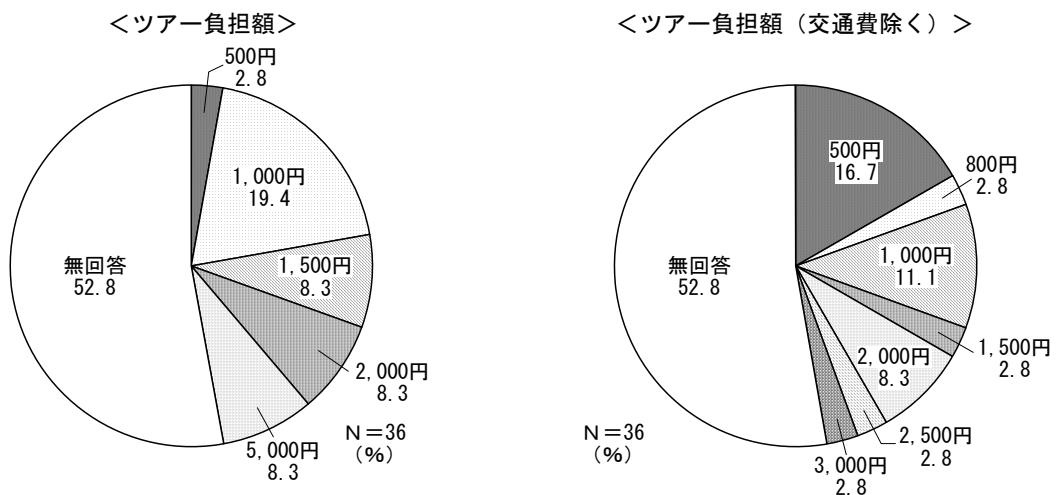
図 町内参加者のツアー負担額に関する意向



(イ) 町外参加者

- ・町外参加者の今回のツアー負担額は、「1,000円」が19.4%で最も割合が高く、次いで「1,500円」、「2,000円」及び「5,000円」8.3%、「500円」2.8%になっており、1,000円以上と答えた人が約4割になっている。
- ・また、町外参加者の交通費を除く負担額は、「500円」16.7%、「1,000円」11.1%、「2,000円」8.3%等になっている。

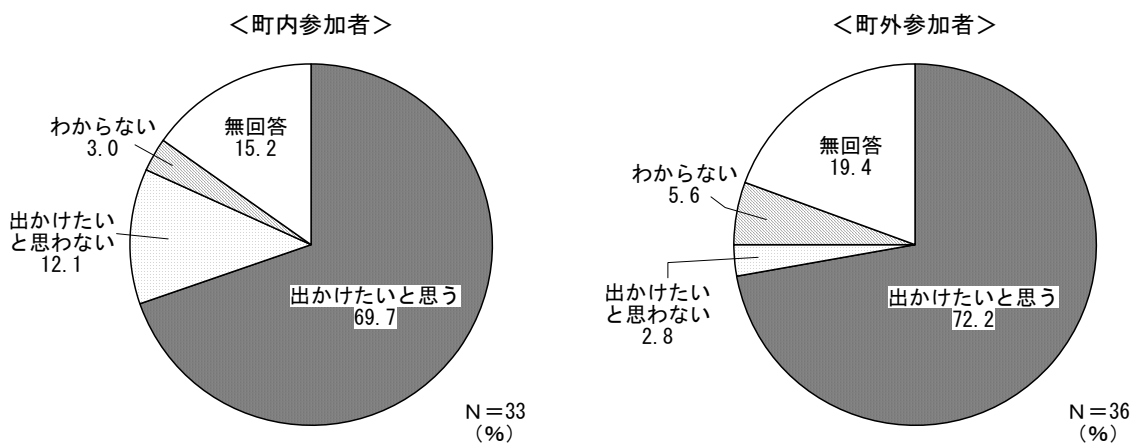
図 町外参加者のツアー負担額に関する意向



コ 中国横断道尾道松江線やしまなみ海道を利用しての周遊観光に対する意向

- ・町内参加者の中国横断道尾道松江線やしまなみ海道を利用しての周遊観光に対する意向としては、「出かけたと思う」と答えた人が 69.7%で約 7 割を占めている。
- ・また、町外参加者の中国横断道尾道松江線やしまなみ海道を利用しての周遊観光の意向としては、「出かけたと思う」と答えた人が 72.2%で、町内参加者と同程度の割合になっている。
- ・中国横断道尾道松江線の開通を契機として、周遊観光の増加が見込まれる。

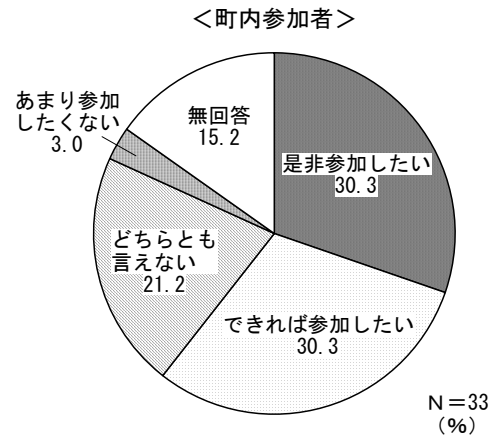
図 中国横断道尾道松江線やしまなみ海道を利用しての周遊観光に対する意向



③町内参加者のツアー企画を含む、地域づくり活動への参加意向

町内参加者のツアー企画を含む、地域づくり活動への参加意向については、「是非参加したい」及び、「できれば参加したい」30.3%で、これらを合わせた積極的に地域づくり活動へ参加する意向のある人は60.6%になっている。

図 町内参加者の地域づくり活動への参加意向



④個別自由意見

個別自由意見の記入件数は、町内参加者 14 件（記入率 42.4%）、町外参加者 21 件（記入率 58.3%）である。自由意見の内容を項目別に整理すると町内参加者 14 件、町外参加者 29 件で、その内容は次のとおりである。

表 個別自由意見

項 目	件数(件)	
	町内参加者	町外参加者
スタッフのもてなしについて	5	2
ガイドに関する意見	2	3
今回のツアーに対する評価	3	7
観光基盤の整備について	—	2
今後のツアー企画に関する意見	2	4
ツアーへの今後の参加に関する意見	1	4
その他の意見	1	7

ア 町内参加者

(ア) スタッフのもてなしについて

- ・企画進行して戴いた方々に感謝。世羅町の力の一部を感じ、世羅町は大丈夫と思った。
- ・スタッフに感謝。
- ・初めての試みで、道の草刈り、標識の設置、よくわかる資料作りと準備が大変だったと思う。この企画を発案された方、又、食事にも竹の皮を使っての銀シャリむすび、おいしい豚汁、熱心な説明と良い体験をさせてもらいありがとうございました。時期は新緑と紅葉、桜の季節といろいろかわっても、世羅の自然を満喫してもらえ世羅の魅力を知ってもらえるのではと思う。お土産までいただきありがとうございました。
- ・街道の整備から立て看板、軽食（むすび）、豚汁などのおもてなし有難かった。竹の皮で包む配慮も感動した。

(イ) ガイドに関する意見

- ・ガイド（マイク）の音が聞きとれなかった。
- ・説明が少々分かりづらかった。（スピーカー使用方法含めて。）

(ウ) 今回のツアーに対する評価

- ・今回は寒かった。時期の検討を。
- ・赤屋を歩くのに地元の人が少ないと思った。

- ・地元に住んでいて地元の歴史について知らなかったが多少知れて良かった。

(E) 今後のツアー企画に関する意見

- ・世羅町内の観光・ウォーク等、町外にアピールすることが多いのではないか。銀山街道の全行程を踏破を夢みている。甲山～尾道は踏破しているが、甲山より北の街道を歩く計画をして欲しい。
- ・今度は松江方面から甲山に帰るツアーをして欲しい。

(F) ツアーへの今後の参加に関する意見

- ・次回も参加したい。

(G) その他の意見

- ・長短期計画に沿った具体的な計画が必要ではないか。

イ 町外参加者

(ア) スタッフのもてなしについて

- ・受付の方がとても元気がよくて朝から気持ち良かった。田舎だから高齢の方ばかりかと思っていたが、若い方にも受け継がれているのでこれからの企画や発展が楽しみ。準備に時間がかかっているのがわかり歓迎されている感じがして参加して気分が良かった。
- ・心のこもったおもてなしを受け大変感謝。

(イ) ガイドに関する意見

- ・ガイドの説明が良かった。
- ・銀山街道を軸とした町全体の歴史のガイドで大変良かった。参考にしたい。
- ・女性の方の案内ガイドがなかったのも寂しい。

(ウ) 今回のツアーに対する評価

- ・多くの人が集まって様々な交流が出来て良かったのではないか。
- ・なお一層の頑張りに期待したい。全体的に満足。
- ・銀のことを全然知らなかったので知識として得られた。
- ・少し天気も悪くて道のりも思ったより厳しかったが半日楽しく過ごせた。
- ・全体のコーディネーターがいればタイムオーバーはなかったのでは？（初回なので…）それより他の点では満足である。大変良かった。
- ・時間的に押されていたのか説明が十分でなかった。
- ・班分けをしていたがあまり意味がなかった。（人数が多すぎる。）

(E) 観光基盤の整備について

- ・現地案内板があればと思った。
- ・今後ツアーでなく個人で銀山街道を歩けるよう、案内板・地図等整備してもらえればと思う。

(オ) 今後のツアー企画に関する意見

- ・コース整備（旧道）を期待。
- ・季節毎にこのようなツアーを実施したら良いと思う。
- ・旧跡、名所たくさんある。コース別のツアー歩き。
- ・立派な歴史的旧家が沢山あればお宅を拝見するとか、そういうことがあればもっと良かった。

(カ) ツアーへの今後の参加に関する意見

- ・空模様を心配したが雨も降らず良かった。また機会があれば参加したい。
- ・今後もぜひ町内のイベントに参加したいと思う。世羅の自然が大好きです。
- ・参加して良かった。ぜひまた参加したい。
- ・お世話になりました。今後もよろしくお願いします。

(キ) その他の意見

- ・食事が良かった。
- ・町のHPがもっと頻繁に更新されるとありがたい。ブログみたいな感じで小さなことでもいいので更新して欲しい。
- ・交通の整理、歩行者に車の危険を知らせる方法（笛）を利用してはどうか。（尾道ではそうしている。）
- ・500円の参加費では赤字とは思いますが…。
- ・山陽から山陰への観光に利用したいと思う。
- ・ジェラートが思ったより小さかった。
- ・資料がもっと簡潔なものが良かった。

(3) スタッフアンケート

- 雨も降らず、スタッフも楽しんで実施することができたことが良かった。
- 地元の参加が多く、地域を再発見しようという気運が生まれたことが良かった。町民でも知らない資源が多かったという声があった。
- まちおこしのモニター事業として、インパクトが大きかった。マスコミに取り上げられたり、町外からの参加者があつたりするなど、広報担当の功績が大きい。馬や蓑笠などが参加者にとっては魅力的だった。
- 町外から来た人には、世羅町は奥深い地域だということを認識してもらえた。花や果物もある。2回、3回と来てくれるようなりピーターを増やしていきたい。
- 当初の計画よりも時間がかかり、全体的に余裕がなかった。歩くツアーの場合、余裕をもった時間配分をしておく、もっと楽しくできる。
- 古道部分が少なすぎたという意見もあった。歴史好きにとっては、古道を歩くことでロマンを感じる。古い道を掘り起こし、地主の了解を得ながら整備したい。
- 班を分けて歩いていたが、歩いていると徐々に班がばらけた。4 km以上を歩くコースでは、体力に差があり、ガイドを中心にグループを形成しにくい状況でもあった。
- 歴史が好きで旧跡を歩きたい人と、歩くのが好きな人がいる。歩きたい人は、途中で止まると疲れるという声もあった。古道を歩くイベントでは、ガイド付きで歴史散策をするツアーと、とにかく歩くツアーがあっても良い。
- 電動アシスト付自転車は良かった。乗ったことがない人も多く、徒歩組でも乗ってみたいという声があった。
- 豚汁とむすびは非常に良かった。寒かったので温かいものを提供できて良かった。地産地消ということに参加者は喜んでいて。
- 世羅には、県内レベルでは自慢できる物がたくさんある。町外の人はもちろん、町内の人知らない資源がまだまだある。今高野山、甲山の町、報恩寺、ダム、川といった資源を取り入れて、歩きながら文化財を知ってもらう取り組みにする考えもある。
- ヘビや虫がいない寒い時期は、実は古道を歩くには良い時期だということがわかった。世羅の冬の魅力として「歩く」ことをクローズアップしても良い。
- ガイドの人材養成が必要不可欠だろう。また、周辺地域との人的ネットワークもじっくり作っていきたい。
- 今回の試行的調査をうけて、今後やりたいことがたくさん出てきた。農事法人や既存の組織、地域組織との連携を深めていきたい。

(4) アンケート調査結果からみた留意事項

①町内参加者の意見への対応

ア 銀山街道に関わる歴史の高い評価について

町内参加者にとって、自分達の地域の歴史を深く知る機会となったことが高く評価された。銀山街道の古道の整備、また歴史に関する知識の伝承等を通じ、地域への誇りと愛着、自信を醸成することが可能と考えられる。

<今後の取組>

- ・定期的な開催の希望、参加者自身の運動不足についての言及等があったことから、健康増進の観点と銀山街道の歴史伝承を結びつけ、定期開催に発展させる。

イ 地域づくりへの関心について

町内参加者のうち積極的に地域づくり活動へ参加する意向のある人は6割を超えていることから、銀山街道をテーマとした試行的調査のように地域資源の再発見するイベントの継続的な開催は、関心のある地域住民の参加を促すものと考えられる。

<今後の取組>

- ・事業の継続的な実施により、関心のある地域住民の幅広い参加を促し、事業運営側への新たな参加者を受け入れ、幅広く地域住民の横断的ネットワークを形成する。

②町外参加者の意見への対応

ア 歴史遺産、せら高原の田園環境、風景・眺望への高い評価について

町外参加者からは、世羅町の歴史遺産及びせら高原の田園環境、風景・眺望が高く評価された。一方、ガイドの説明等に改善を求める声もあったが、時間をかけて準備された、心のこもったもてなしを評価する声もあった。

<今後の取組>

- ・ニーズの高い地域資源を中心としたモデルコースを設定し、PRする。
- ・歴史研究者を中心とした銀山街道の歴史伝承に関する勉強会企画を通じてガイドのスキルアップを図る。

イ 食事について

地域の食材を活かした食事である世羅米、豚汁、ジェラート等が高く評価されており、世羅町地域においてイメージの薄かった「食」について、地域食材を活用した商品の提供が期待される。

<今後の取組>

- ・ウォーキングの健康志向とマッチする食事、地元食材の提供のあり方について、

6次産業ネットワークなど、農業関係者や飲食店等と連携した取組を行う。

③今回の試行的調査の負担額について

町内、町外参加者ともに、約4割が1000円以上の負担を受容する意見となっており、試行的調査の内容に対する評価が高いと言える。事業の継続的实施に向けて、必要経費と参加費のバランスを検討していく必要があるが、収益を確保することができるツアー実施の可能性が高いと考えられる。

6) 試行的調査を踏まえた展開

①瀬戸田地域における展開

- ・ 試行的調査の検討段階で設立した「せとだ島・じまん会議」については、地域住民から代表を選出するなど、継続して運営していくことが決定した。
- ・ 「せとだ島・じまん会議」は、瀬戸田地域内の様々な動きの情報交換を行う場となることが期待されるため、様々な関係者の参加を促し、情報の発信・周知手法を構築していくこととしている。
- ・ 平成 22 年度 of 取組については、外国人ツアーの受け入れや、ガイドの養成、ガイドブックの更新などが挙げられており、各種助成事業への応募などによる活動資金の確保などを積極的に行うこととしている。

②世羅町地域における展開

- ・ 試行的調査の検討段階で設立した「銀しゃりツアー実行委員会」については、名称を「銀の道せらの会」として、NPO せらマルベリークラブを中心に継続して運営していくことが決定した。
- ・ 「銀の道せらの会」は、地元自治センターや商工会、観光協会の参加により事業展開を行い、文化財協会等とも連携を図っていくこととしている。
- ・ 平成 22 年度 of 取組については、銀山街道沿線の活動団体を集めたシンポジウムの開催や、地元散策マップの作成、ボランティアガイドの養成などが挙げられている。

③広域的な連携への展開

- ・ 平成 22 年 2 月 27 日には、尾道市において「まちづくり交流会 in 尾道」が開催され、試行的調査における瀬戸田地域・世羅町地域の取組を含め、しまなみ海道及び尾道松江線沿線の市町の担い手の取組が発表され、情報の共有が図られた。
- ・ また、平成 22 年 3 月 7 日の世羅町地域における試行的調査「銀しゃりを運ぼうツアー」の終了後には、銀山街道沿線及びしまなみ海道沿線の取組主体が集まり、銀山街道をテーマとして意見交換会が開催された。
- ・ 今後も、世羅町地域における「銀の道せらの会」を中心としたシンポジウムの実施等、銀山街道をテーマとして島根県大田市～広島県尾道市までの沿線の活動団体の連携が図られることが期待される。
- ・ また、山陽道、銀山街道、しまなみ海道の結節点となる尾道市を中心として、各地の地域づくり団体の情報交換、情報共有が図られることが期待される。

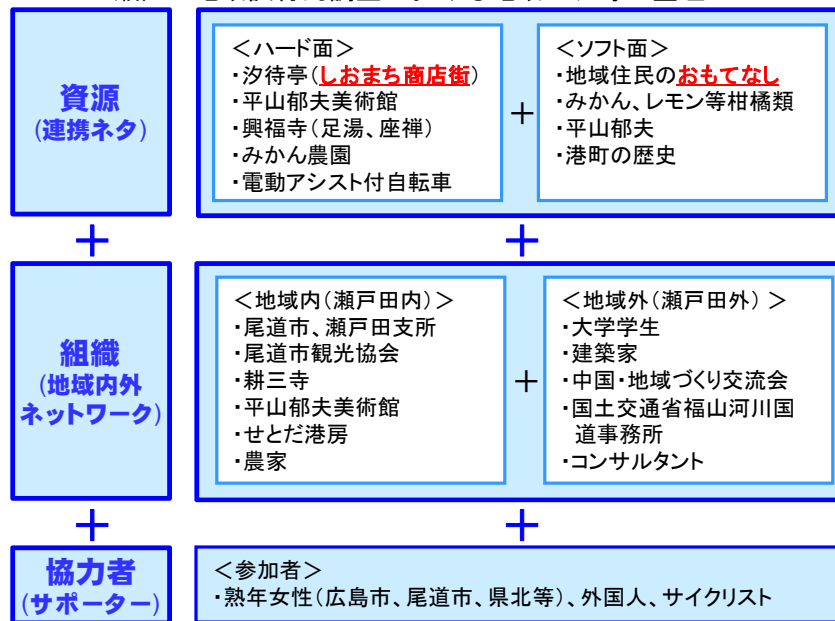
5. 試行的調査を基にした広域的地域活性化推進に関する検討

1) 試行的調査から得られた知見

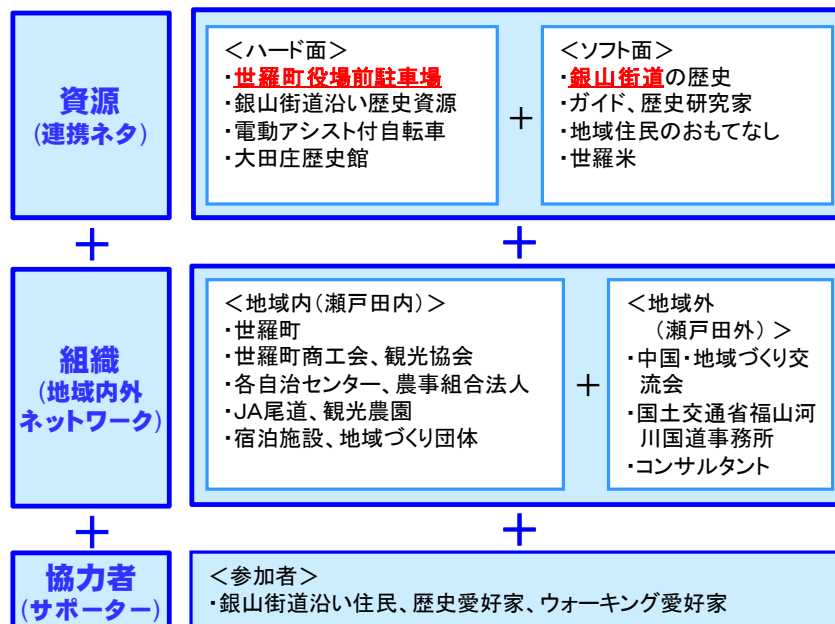
①試行的調査における地域コア等

- ・瀬戸田地域および世羅町地域の試行的調査における地域コアを整理すると、ハード面、ソフト面の資源（連携ネタ）だけでなく、地域内・外の人的ネットワークにより形成される組織や、参加者・サポーターとなる協力者など、人のつながりがキーポイントとなっていることがわかった。

瀬戸田地域試行的調査における地域コア等の整理



世羅町地域試行的調査における地域コアの整理



※下線部は後述する中心的な役割を果たす地域コア

②地域コアの構築に向けた検討体制

- ・地域コアの検討及び試行的調査の企画・実施にあたっては、瀬戸田地域、世羅町地域ともに地域内・外の人的ネットワークにより形成される組織を設置したことにより、地域の多様な情報交換の場となった。
- ・組織設置にあたっては、「この指とまれ方式」により行ったことにより、個々の構成員の主体的な参加がみられた。
- ・組織の継続的な活動にあたっては、瀬戸田地域においてはNPOせとだ港房が中心的な存在となり尾道市観光協会が事務局的な役割を担う方向で検討が進んでおり、また世羅地域ではNPOマルベリークラブが中心となり世羅町観光協会が事務局的な役割を担うなど、中心的なキープレイヤーの存在と事務局的な役割を担う主体が結びつくことが活動を継続することに効果的であることがわかった。

③地域コアの発掘手法

- ・横断的で多様な主体によるフラットな体制により検討を行ったことで、瀬戸田地域、世羅町地域ともに複数の地域コアの発掘を行うことができた。
- ・また、複数挙げられた地域コアをベースとして、試行的調査の内容の検討を進めるうち、瀬戸田地域における「しおまち商店街（汐待亭）」や「おもてなしの文化」、世羅町地域における「銀山街道」や「役場前駐車場」など、中心的な役割を果たす地域コアを抽出することができた。すなわち、各地域における様々な地域コアの訴求力は、検討する主体や事業の目的により濃淡があるが、横断的な検討体制により、より訴求力の高いものを抽出していくことが可能であることがわかった。
- ・モニターツアー等の今回採用した試行的調査手法は、外部からの目による地域資源の発見とともに、地域内の人々も地域の資源、宝を発見し、地域を再認識することができる等、その有効性が確認された。一方、モニターツアーにおいて評価の低かった資源についても、今後の改善の方向性、補うべき点を明らかにすることができた。また、地域の人々にガイド等のスタッフとして参加していただくことで、地域に関する勉強等スキルアップの意識高揚、関係者による連携の必要性を認識する等、今後の活動を支える人材を育成する効果も期待される。
- ・瀬戸田地域における外国人観光客を対象とした歴史文化体験や、世羅地域の観光周遊における電動アシスト付き自転車は有望な地域コアと推定されたが、試行的調査においてターゲットを明確に設定し、その反応を把握することにより、より詳細に地域コアの有効性の検討につながることがわかった。

④地域コアによる広域連携手法

- ・世羅町地域における「銀山街道」という地域コアは、大田市（石見銀山）から尾道市までの「道」であり、沿線各地において「銀山街道」を活用した地域活性化の取組みがなされていることから、広域的な連携を図ることができる地域コアであることが推定された。また、試行的調査における参加者意見において、街道そのもの及び街道沿線の歴史的資源への高い評価、また街道の踏破や街道沿線の他

地域への関心等も伺うことができたほか、試行的調査後の沿線各地の活動団体による意見交換会においても「銀山街道」をテーマとした活発な意見交換がなされたことから、広域連携における地域コアとしての街道の有効性が確認できた。

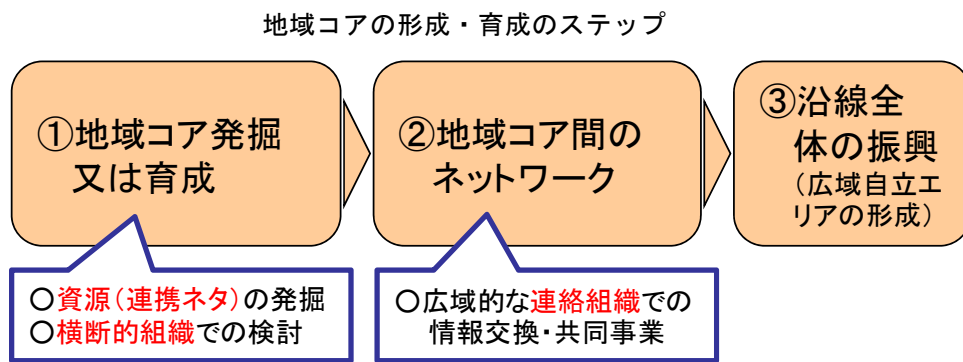
- また、瀬戸田地域における電動アシスト付き自転車の活用は、しまなみ海道を「自転車」という地域コアでつなぐだけでなく、世羅町地域においても試行的調査において体験者の高い満足度が確認でき、高齢者等の長距離の移動における身体的負担を軽減できる、より広域的な連携に資する地域コアであることがわかった。
- 試行的調査対象地域である瀬戸田地域及び世羅町地域を含め、山陽道、銀山街道、しまなみ海道の結節点となる尾道市において「まちづくり交流会 in 尾道」が実施され、各地域の取組みの状況について広域的な情報交換が行われたことは、試行的調査で発掘した各地における地域コアはそれ自体が「連携ネタ」として捉えることができることを意味する。このような「連携ネタ」を各地に情報提供することにより、相互の関心を誘引し、広域連携の素地を形成することが可能であることがわかった。

2) 地域コア活用による広域的な地域活性化推進に関する検討

(1) 地域コアの形成・育成手法

試行的調査を踏まえ、中国圏の各地域、特に中山間地域や島しょ部において自立的な地域を形成していくためには、各地域における資源（連携ネタ）の発掘、横断的組織での検討などによる地域コア発掘又は育成を行った上で、広域的な連絡組織での情報交換や共同事業を行う地域コア間のネットワーク化することが必要であり、またそのことにより、沿線全体の振興（広域自立エリアの形成）につながると考えられる。

その際に、「地域コア」を最終的につなぐ又はつなげていくのは、地域の人材であり、多様な主体や異なる地域の主体がネットワークを構築し、連携していくことが重要な視点として挙げられる。



(2) 横断的組織の形成・運営手法

また、地域コア発掘・育成にあたっての横断的組織のメリットは、課題に応じて、参加する団体・者が有する資源を最適に利活用でき、縦割りの弊害もないことがあげられる。このためには、そのプレーヤーとしては、住民、都市住民、民間企業、NPO、観光協会、商工会議所、コンサル、自治体、県、国等の多様な団体・個人が、積極的参加意識のもとで、当該主体に期待される役割を果たすことが必要である。

さらに、世羅町においてはNPOと観光協会が中心となり継続的な事業を行うことが検討されており、瀬戸田地域においてはNPOせとだ港房を中心として尾道市観光協会が事務局的功能を担うことが検討されているように、「この指とまれ」方式の横断的組織を継続的に運営していくためには、「指」としての中心的役割及びそれを支える事務局的作用が必要である。それらの中心的役割や事務局的作用は、基本的にはどの主体でも担うことができるが、一住民では負担が大きく、行政や民間企業では横断的組織としての自由な意見交換が難しいなど、主体により得手不得手が考えられる。以下にそれぞれの役割と、その担い手として期待される主体について例示する。

「この指とまれ」方式の横断的組織における役割と担い手として期待される主体

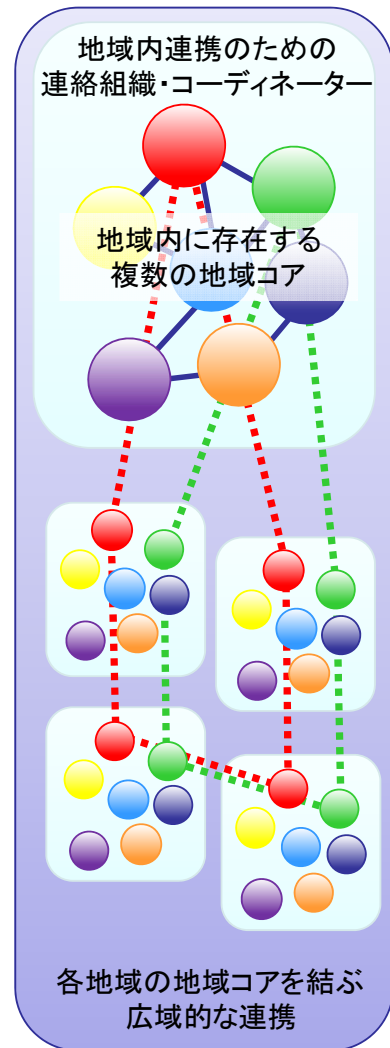
役割	期待される主体
中心的役割 (組織を牽引し、事業展開の方向性などを決定する)	NPOや市民活動団体など (地域づくりの思いを持ったグループ、ネットワークが望ましい)
事務局的作用 (各メンバーへの連絡調整、情報共有の促進、対外的な事務手続きなどを担う)	観光協会、商工会議所など (行政や民間団体など多様な主体との連携が比較的容易な団体が望ましい)
側面支援的作用 (主体的な参加、それぞれの得意分野の持ち寄りなど)	行政、民間企業、市民、コンサルタントなど (それぞれが得意分野を持ち、横断的組織に主体的に参加することが求められる)

(3) 地域コア活用による地域活性化の展開

今回の試行的調査は、観光、集客の面で地域全体のブランドやイメージを高め、立ち寄り・滞留につながる地域コア機能を確認したが、「多様な主体が集まったフラットな横断的組織による検討手法」を活用した今後の展開案として、医療・福祉、安心安全の観点で地域コアが発揮すべき機能、役割も考えられる。例えば、地域の医療・福祉機能を集約したハード的な地域コアを形成し、その地域コアを中心として多様な主体が集まった横断的組織が設立されることにより、医療施設や福祉施設が単独では難しかった相互連携を促進させ、地域の医療福祉活動の活発化、ひいては安心して暮らせる地域としてのアイデンティティの確立につながることも考えられる。

また、地域内にはハード、ソフト両面において複数の地域コアが存在すると考えられる。各地域の活性化を図るためには、それぞれの地域コアを中心として集まる横断的組織をつなぐ連絡組織やコーディネーターが必要である。このような地域内の地域コアのネットワーク化においては、地域内の多様なテーマを扱うことから自治体等の支援が必要不可欠となるため、自治体等にはこうした地域コア及びそのネットワーク化の有効性に関する理解が求められる。

さらに、広域的な連携にあたっては、「地域コア」の中でも特にソフト面における地域コア（地域のアイデンティティやテーマ）が効果的と思われることから、広域的につながりを持ち、ソフト面における地域コアに関する情報共有や共同事業を行うことが、広域的な地域活性化及び各地域の活性化において重要なポイントとなる。



(4) 地域コア活用による広域自立エリア形成に向けた支援方策

以上の検討を踏まえると、地域内の横断的な連携を促進するための支援方策として、地域コアとなり得る「連携ネタ」を絶えず提供しつづけ、地域内外の関係者が「この指とまれ方式」で集まれる「場」を提供し続けることが重要である。このような「場」が継続することにより、「地域への誇りと愛着、自信」そして「住民同士の信頼関係の構築」が達成できる。また、広域的な連携を促進するためには、広域的な視点及び公益的な立場で地域コア同士の連携を促す「場」を提供し続けることが重要である。
(支援方策内容と尾道市・世羅町を例とした即地的なイメージを次頁に示す)

その際の課題としては、前述したように「この指とまれ方式」で集まった場の組織化にあたって、多様な人材の参加とともに、リーダー人材の選出・確保が重要である。また、継続的な活動のため、何らかの事業による収入の確保、また会費や協賛金等の事業収入以外の資金確保等、経済面においても自立を目指すことが必要であり、参加する各主体がそれぞれの得意分野を活かして協働することが望まれる。

「地域コア」活用に向けた支援方策

